

活動報告書

2010 年度（平成 22 年度）



おぐらリハビリテーション病院



鹿児島県鹿屋市 医療法人恒心会



名 称	おぐらリハビリテーション病院
理 事 長	小倉 雅
病 院 長	久松 憲明
所 在 地	〒 893-0023 鹿児島県鹿屋市笠之原町 2 7 番 2 2 号
代表電話	0 9 9 4 - 3 1 - 1 2 1 8
F A X	0 9 9 4 - 3 1 - 1 2 8 8

平成 22 年度活動報告書発刊にあたって

おぐらリハビリテーション病院院長
久松 憲明



開院 10 周年を記念として編纂を始めた当院の活動報告書も今回で 3 度目を迎えることになりました。大抵のことは 3 回同じ事を繰り返すことができれば、その後は前例踏襲をしながら修正を加えていくことでうまく流れていくものだと個人的には考えており、そういった意味で平成 22 年度の活動報告書を発刊できたことは意義深いことだと思います。

また、これまでは広報担当者と一部のスタッフのいわゆる個人レベルが中心となって企画・編集を行っていましたが、今回から事務部門が責任部署として担当することになりました。個人のノウハウの蓄積を組織としてシステム化することで、恐らく来年度以降も一定の質が保たれた活動報告書ができることと期待しています。

平成 22 年度の病院全体の事業方針としては、「教える体制の構築」という教育を主題としたテーマを掲げました。これは外部講師をお招きしての研修会だけにとどまらず、部署内・職種内は勿論、部署間・職種間・また先輩から後輩・同僚間・更にはスタッフから患者さん方へなど、ある時は教える側になり、またある時は教えられる側になるなど、あらゆる機会を捉えて「教育」の場を設けようという趣旨でした。教えられるという受身の勉強だけでなく、やはり教える側に立つことでより理解が深まるということもあり、そのような個人の成長が組織全体の成長には不可欠と考えました。当院は研修会や勉強会が多いという噂？もあるとのことですが、私は病院の責任者として勉強しない人は当院には必要ないと公言していますので、そのような噂は歓迎すべきことかもしれません。仕事をしながら勉強するというその過程は大変でしょうが、職業人として成長する喜びを職員には常に感じてほしいと願っています。

病院運営としては、重信恵三先生が副院長に、堀ノ内啓介先生がリハビリテーション科診療部長に就任されました。平成 23 年度は病院機能評価 Ver. 6.0 の受審なども控えており、新組織体制のもとでしっかりとした準備を行っていききたいと思います。

また開院 10 周年の記念事業として、10 月にデイケア利用をされている方々と一緒に霧島への一泊バス旅行を企画させていただきました。当日はこれ以上ないという晴天にも恵まれまして、とても楽しい 1 日を過ごすことが出来ました。ご利用者やご家族に少しでも楽しんでいただきたいという気持ちから企画しましたが、ボランティアで参加したスタッフも多くのことを学ぶ良い機会となり、かえってご利用者・ご家族の方々に感謝するところです。今回の経験を今後の病院運営にいかしていきたいと思います。

私事になりますが、夏季休暇を利用して 9 月に英国の医療福祉システムの視察旅行ツアーに参加してまいりました。個人主義が進んだ英国において、在宅重視という医療福祉政策がどのようなシステムで成り立っているのかを直接この目で確かめてみたいという思いからの参加でした。実際研修に参加して感じたことは、それなりにはうまくいっているように見える英国の政策ですが、ソフト・ハードの整備にはかなりのコストをかけていることが理解できました。在宅での生活を継続するためには、患者・ご家族の意向は勿論ですが、それを支える人々を物心両面でサポートする政策が必要だと肌で感じる事ができ、とてもいい経験になりました。

さて悲劇的な東日本大震災が 3 月 11 日に発生し、日本全体が深い悲しみから抜け出すには相当の時間が必要です。遠く離れた鹿屋の地へも様々な影響が出ていますが、我々は毎日の生活に感謝し、日々自分たちが為すべきことをしっかりと責任を持って行っていく、それがとても大切なことだと思います。平成 22 年度の反省を踏まえて、平成 23 年度も病院全体として少しでも成長ができるように職員全員で取り組んでまいります。

関係者の皆様方のご支援を引き続きよろしくお願い申し上げます。

副院長就任のごあいさつ

おぐらリハビリテーション病院副院長
重信 恵三



平成 22 年度は私にとって記憶に残る年でありました。一昨年前の平成 21 年 11 月に飛び込んだ職場である、このおぐらリハビリテーション病院は、久松院長のもと回復期リハビリテーション病棟としてしっかりとしたスタンスの病院というイメージであり、それについていくこと、また慣れることがこの一年のテーマでありました。会議も多いという印象もありましたが、病院全体が活気にあふれており、職員皆さんがしっかりしたモチベーションをもっており、何とかついていこうというスタンスで仕事をこなす毎日でありました。私としてはこの平成 22 年度はなるべく病院の行事に参加したいと考えており、当院にて平成 21 年度より行っておりますワークショップ（チーム力の向上を図る活動です）には最初より参加いたしました。チーム名は”おぐりハ癒し隊”といい、特に太鼓を中心に練習し、患者さんに披露いたしました。初めての経験であり興味深く非常に楽しい日々を過ごすことができました。

当院は脳卒中、整形外科疾患を中心に入退院も多く、毎日が一生懸命でありましたが、一年も経とうかというある秋の日の午後、久松院長、下仮屋副院長より副院長の要請がありました。医師の副院長が必要とのことでしたが、自分としては医師として自由に仕事がしたいとの気持ちもあり、どうしようかと考えた一方、少し覚悟をしていた自分がおりました。同時期に同僚の堀ノ内先生がリハビリテーション科部長となり、少しでも病院のサポートができればと考え副院長を引き受けさせていただきました。どういった形で仕事すればよいのかと少し不安にもなりましたが、久松院長よりいろいろと指導をいただき、何とか仕事をこなしております。また、入院調整や各種会議等忙しい日々をすごしておりますが、久松院長のサポートができていかどうかはよくわかりません。少しでもお役に立てればと思っております。

平成 23 年度に向け大きなテーマがあります。平成 23 年度の 11 月に受審致します病院機能評価 Ver. 6.0 をクリアすること。私はそのリーダーを久松院長よりうけたまわりました。微力ではありますが、なんとかその任をこなして

いければと考えております。また、その先には小倉記念病院との合併が控えております。恒心会としても大きな動きのある数年になりますが、その中で何とか微力ではありませんがお役に立てればと考えます。また、おぐらリハビリテーション病院のムードメーカーとしてお役にたてばと思います。

単身赴任も板についてきました。鹿屋市の生活も楽しく過ごすことができてきましたが、少し飲む量も増え、体重も少しずつ増えてきております。飲み会もぼちぼちしておりますが、やや過ぎることもあります。おぐらリハビリテーション病院の職員の皆様、時々しかってくださいませ。また、関係各位の皆様方、今後ともよろしくお願い申し上げます。



▲ワークショップ「おぐりハ癒し隊」の活動です。
太鼓を練習して患者さんに披露しました

目 次

I . 病院の概要

1. 沿革	1
2. グループ理念	1
3. 病院理念	1
4. 運営方針	2
5. 現況	2
6. その他	3
7. 組織図	4

II . 各部署の活動報告

医局	5
リハビリテーション科総括	7
理学療法部門	10
作業療法部門	12
言語聴覚療法部門	14
心理療法部門	15
看護部総括	16
2F 病棟	19
3F 病棟	21
外 来	24
放射線科	25
医事課	26
栄養管理科	28
薬剤管理科	30
診療情報管理課	33
社会医療福祉科	35
居宅介護支援事業所	37
介護事業部総括	39
通所リハビリテーション	40
サポートセンターおぐら 24	43
イーストサイドおぐら	46
事務部	50
保育室	52
SPD 室	54

III . 委員会等の活動報告

医療安全管理委員会	55
院内感染防止対策委員会	59
褥瘡対策委員会	63
看護・介護部教育委員会	64
NST 委員会	65
栄養委員会	66
職員勉強会	67
ワークショップ	68
家族勉強会	70
排泄ケアチーム	71
高次脳機能チーム	72
摂食・嚥下チーム	73
病院環境チーム	74

IV . 教育的活動報告

恒心会全体研修	76
接遇研修	77

V . 社会的活動報告

見学・体験等受け入れ状況	78
ボランティア紹介	78
大隅圏域 地域リハビリ広域支援セ ンターとしての活動	79

VI . 統計調査報告

入退院の状況, 疾患別入院患者構成比 率, 診療報酬上の質の評価	81
退院患者疾病構成推移	82
入退院時の F I M の変化	83

VII . その他関係資料報告

投書箱	84
職員満足度調査	85
掲示板コンクール	86
開院 10 周年記念霧島感謝旅行	87
院内アルバム	88
病院運営方針 (院長発表)	89
年間行事	90
職員名簿	91
患者様の権利章典	93
倫理綱領	94

I 病院の概要

1. 沿革・・・・・・・・・・	1
2. グループ理念・・・・・・・・	1
3. 病院理念・・・・・・・・	1
4. 運営方針　・・・・・・・・	2
5. 現況・・・・・・・・・・	2
6. その他・・・・・・・・・・	3
7. 組織図・・・・・・・・・・	4

1 沿革

昭和 32 年	1 月	小倉慶一が外科医院（9 床）を開院
36 年	11 月	共栄町に移転、小倉外科となる（22 床）
平成 2 年	1 月	医療法人化、小倉記念病院へ名称変更。理事長に小倉雅就任
11 年	11 月	小倉リハビリテーション病院開設（100 床）。院長に小倉修就任
	12 月	総合リハビリテーション施設取得
13 年	11 月	回復期リハビリテーション病棟開設（50 床）
	12 月	日本医療評価機構認定（長期療養 27 号）Ver.3.0
15 年		電子カルテシステムを導入
16 年	4 月	肝属圏域地域リハビリテーション広域支援センターに指定される
18 年	4 月	おぐら居宅介護支援事業所を開設
	10 月	日本リハビリテーション医学会研修施設に認定される
19 年	3 月	院長に久松憲明就任
	7 月	回復期リハビリテーション病棟 増床 100 床へ 365 日リハビリ開始
		日本医療機能評価認定 Ver.5.0 更新
	12 月	小規模多機能ホーム「サポートセンターおぐら 24」開設 グループホーム「イーストサイドおぐら」開設
20 年	6 月	おぐらリハビリテーション病院へ名称変更
	11 月	グループホーム「イーストサイドおぐら 式番館」開設
22 年	10 月	開院 10 周年記念 「霧島感謝旅行」開催

2 おぐらリハビリテーション病院グループ理念

「関わるすべての人の幸せと満足のために」

3 おぐらリハビリテーション病院理念

- I、おぐらリハビリテーション病院は、地域に開かれ、個としての人を大切にする医療を目指します。
- II、リハビリテーション医学に基づく、予防から在宅までの一貫とした医療を実践します。
- III、リハビリテーション専門病院としての意義を自覚し、学習する組織であり続けます。

4 運 営 方 針

- 能力を秘めた患者さんが、障害を受容しながらも新しい人生を築かれる過程を支援します。
- 治療の目標や内容について、患者さんの自己決定権を尊重し、チームアプローチを協業として進めていきます。
- 患者さんやご家族から自らが学び、専門職として恒に治療の可能性を追求し続けます。
- 恒心会内での連携の中心として、また地域におけるリハビリテーション機能の中核としての役割を担います。
- リハビリテーション医療の研究や最善の知識・技術の向上に日々努め、各専門職の教育機関としての役割を担います。

5 現 況

診療科目 リハビリテーション科 整形外科 内科 心療内科

許可病床 回復期リハビリテーション病棟 100 床

施設概要

敷地面積 : 7,132㎡ (2,157 坪)
 建物面積 : 2,921㎡ (884 坪)
 延床面積 : 5,561㎡ (1,682 坪)
 構 造 : 鉄筋コンクリート 3 階建て

認定一覧

日本リハビリテーション医学会研修認定施設 (H 18 年 10 月)
 肝属圏域地域リハビリテーション広域支援センター (H 16 年 4 月)
 (財) 日本医療機能評価機構認定【V e r . 5 . 0】(H 19 年 7 月)

病院概要

1 F	外来診療室 リハビリ室 レントゲン室 通所リハビリ室 売店 医療相談室 医事課 薬局 居宅介護支援事業所 厨房 職員食堂
2 F	2 F 病棟 医局 事務室
3 F	3 F 病棟 言語聴覚訓練室 心理療教室

施設基準

回復期リハビリテーション病棟入院料 1, 医療安全対策加算
 褥創患者管理加算, 栄養管理実施加算, 入院時食事療養 I
 薬剤管理指導料, 在宅時医学総合管理料, 地域連携診療計画退院時指導料,
 脳血管疾患等リハビリテーション料 I
 運動器リハビリテーション科 I, 集団コミュニケーション療法料

6 その他

1. 肝属圏域地域リハビリテーション支援センターとしての役割について

地域リハビリテーション広域支援センターは地域におけるリハビリテーションの中核となる機関として、高齢者保健福祉圏域ごとに指定することとしています。当院は平成 16 年に鹿児島県より肝属地区の地域リハビリテーション広域支援センターとして指定されました。

地域リハビリテーションとは、障害のある人々や高齢者及びその家族が住み慣れたところで、そこに住む人々とともに、一生安全に、いきいきとした生活が送れるよう、医療や保健、福祉及び生活にかかわるあらゆる人々や機関・組織がリハビリテーションの立場から協力し合って行なう活動のすべてを言います。

鹿児島県は地域リハビリテーション支援センターについて以下のような役割を求めています。

- (1) 地域リハビリテーション実施機関への支援
 - ア 地域住民の相談への対応に係る支援
 - イ 福祉用具、住宅改修等の相談への対応に係る支援（テクノエイド）
- (2) 地域におけるリハビリテーション実施機関等の従事者に対する援助・研修
 - ア 地域におけるリハビリテーション実施機関の従事者に対する実地の技術支援
 - イ リハビリテーション従事者に対する研修会
- (3) 地域における関係団体、患者の会、家族の会等からなる連絡協議会の設置・運営
 - 地域リハビリテーションに関係する職種の方々と地域リハビリテーションの推進のための検討会を開催します。

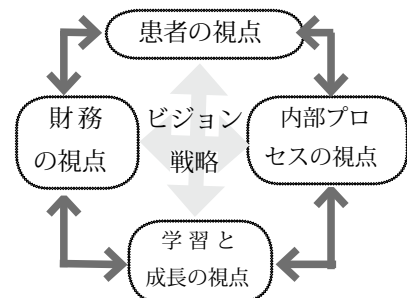
当院は以上を受けて、肝属圏域の広域支援センターとして障害のある人々や高齢者の様々な状況に応じたリハビリテーションが適切かつ円滑に提供できるよう、地域のリハビリテーション関係の病院や介護施設、市町村などのリハビリテーション関係従事者に対する援助や研修会の開催のほか、地域住民を対象とした講演会などを実施しています。（活動実績は P 79、80 に示します）

2. BSC の導入について

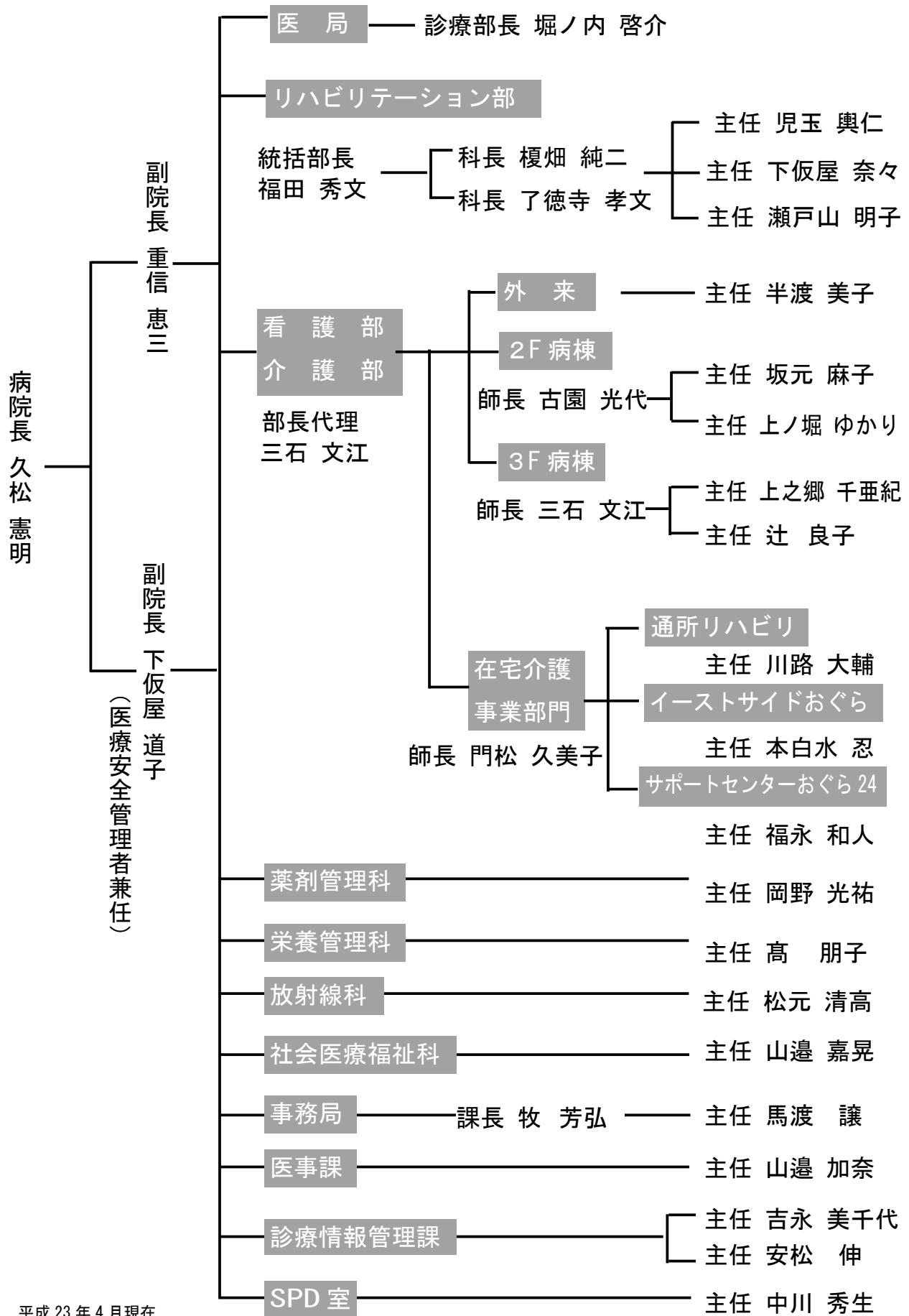
当院では H17 年より、病院全体の目標と各部門の目標とのバランスを保つことを目的として BSC の手法を導入しています。

BSC（バランス・スコアカード）について

「財務的視点」、「顧客の視点」、「社内ビジネスプロセスの視点」、「学習と成長の視点」という 4 つの視点から構成され、これらの視点から業績評価基準を設定することにより、短期的利益と長期的発展のバランス、全社目標と部門目標のバランス、あるいは株主・顧客・従業員などの利害関係者間のバランスを維持しながら企業変革を推進する経営管理手法です。導入による効果は、ビジョンや戦略をトップから担当者に至るまで共有でき、組織と個人の目標を一致できることです。



7. 組 織 図



平成 23 年 4 月現在

Ⅱ 各部署の活動報告

医局・・・・・・・・・・・・・・・・	5
リハビリテーション科総括・・・・・・	7
理学療法部門・・・・・・・・・・	10
作業療法部門・・・・・・・・・・	12
言語聴覚療法部門・・・・・・・・	14
心理療法部門・・・・・・・・・・	15
看護部総括・・・・・・・・・・	16
2F 病棟・・・・・・・・・・	19
3F 病棟・・・・・・・・・・	21
外 来・・・・・・・・・・	24
放射線科・・・・・・・・・・	25
医事課・・・・・・・・・・	26
栄養管理科・・・・・・・・・・	28
薬剤管理科・・・・・・・・・・	30
診療情報管理課・・・・・・・・・・	33
社会医療福祉科・・・・・・・・・・	35
居宅介護支援事業所・・・・・・	37
介護事業部総括・・・・・・・・・・	39
通所リハビリテーション・・・・	40
サポートセンターおぐら 24・・・・	43
イーストサイドおぐら・・・・	46
事務部・・・・・・・・・・	50
保育室・・・・・・・・・・	52
SPD 室・・・・・・・・・・	54

医局

リハビリテーション科診療部長 堀ノ内 啓介



スタッフ構成

常勤医 4名
非常勤医 5名
(常勤換算 6.3名)

平成22年度の反省

早いもので私がおぐりリハビリテーション病院（以下、おぐりハ）へ赴任して1年6ヶ月が経過いたしました。久松院長、重信副院長、高尾先生、私で入院患者さんの診療に当たっております。リハビリテーション科専門医3名の常勤体制というのは霧島リハビリテーションセンターを除く鹿児島県内の回復期リハビリテーション病棟としては非常に充実した体制です。回復期リハビリテーション病棟100床を高い稼働率で運営できており、今後も維持できるよう頑張りたいと思います。

平成22年4月からは待望の鹿児島大学リハビリテーション医学講座の新入局員である横山勝也先生が木曜日の当直から金曜日の日勤まで勤務してくださっております。横山先生には当直、外来だけでなく、グループホームの入所者さんの診察のお手伝いもしていただいております。これからのリハビリテーション医療の中心を担う若手としておぐりハの診療に協力していただくだけでなく、専門医認定に向けてしっかり勉強のお手伝いもしていただきたいと思います。また平成23年4月からは近隣の脳外科からご紹介いただいた患者さんを対象に横山先生を中心に看護師、リハスタッフと共に『急性期ラウンド』という試みをはじめております。おそらくこのような試みは県内ではじめてではないかと思われ、同行するスタッフは大変でしょうが、今後も続けて欲しいと思います。

外来診療は、中心となる内科の高尾先生に加え、火曜日に心療内科添嶋先生、水曜日に村永先生、金曜日・土曜日に濱田先生が勤務されております。リハビリテーション科は火曜日に野元先生、木曜日に重信先生、金曜日に私と横山先生がリハビリテーション科外来に従事しております。

研究・教育活動としては、平成22年11月に横浜にて開催された第5回リハビリテーション科専門医会学術集會に

て野元佳子先生が「リハビリテーションにおけるシステム連携」の小児のパネリストとして発表されております。また平成23年2月に長崎で開催された第17回全国回復期リハビリテーション連絡協議会研究大会では、私が入院患者様の血糖コントロールについて発表させていただきました。

その他として、平成22年1月から開始した嚥下内視鏡検査（VE）が軌道に乗り、適宜必要な患者様に検査を行なっています。火曜日朝の新患者の検討会、水曜日朝の抄読会も昨年同様継続しております。

当院は脳卒中患者だけでなく整形疾患の患者も多く、脳卒中を中心とした回復期リハビリテーション病棟と比べ回転が速く在院日数が短いのが特徴です。回復期リハ病棟計100床というのはおそらく鹿児島県内で最も多い病床数と思われます。毎日の入退院の処理に追われてなかなかゆっくりと患者さんの診療に当たることが出来ず、慌ただしく時間が過ぎていきます。興味深い症例も多いため、残念なところです。スタッフの方々から相談を受けてもすぐに対応できなかったり、さらには丁寧な対応が出来なかったりと、ご迷惑をおかけしたことと思います。今後はもうすこし落ち着いて診療、研究に従事できるよう努力したいと思います。

平成23年度は病院機能評価 Ver.6.0 およびリハビリテーション機能評価項目（付加機能）Ver.2.0の認定という病院としての大きな目標があります。医局も重信先生を筆頭に頑張りたいと思いますので、今後とも皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。



研究発表・講演・講師等

開催日	学会名・開催場所	内容・題名	内容	氏名
4/22	鹿屋肝属地区の脳卒中を考える会 市民講座 リナシティかのや	「脳卒中でもし食べられなくなったら・・・」 ～皆さんに知っておいてほしいこと、 リハビリ病院の現場より～	講演	久松憲明
5/21	日本リハビリテーション医学会 学術集会	回復期リハ病棟における排尿障害の取り組み ～排泄ケアチームを立ち上げて～	研究発表	野元佳子
5/22		片麻痺上肢への促通反復療法と 通常治療とのランダム化比較試験 ～介入前の分離運動の有無による検討～	研究発表	野元佳子 鹿児島大学
6/22	「いろいろな職業の方から話を聞こう」 鹿屋市立寿北小学校	ゲストティーチャー 「医師の仕事について」	講話	久松憲明
11/21	リハビリテーション科専門医会学術集会 パシフィコ横浜	地域の小児療養におけるリハビリテーション 科医の役割	研究発表	野元佳子
11/30	第3回鹿屋肝属地区の 脳卒中医療の現状を語る会	鹿屋肝属地区の地域連携パス運用について	講演	久松憲明
1/21	「職業人に学ぶ」 鹿屋市立鹿屋東中学校	「医療人とは」	講話	重信恵三
2/22	第4回鹿屋肝属地区 脳卒中医療の現状を語る会	脳卒中地域連携パスについて	講演	久松憲明
2/18	全国回復期リハビリテーション病棟 連絡協議会 第17回研究大会 i n 長崎 長崎ブリックホール	当院の回復期リハビリテーション病棟に入 院した糖尿病患者における血糖コントロ ールの変化および薬剤の検討	研究発表	堀ノ内啓介
3/13	いのちと健康（生命倫理）ネットワーク 第20回オープンセミナー i n 鹿児島 リナシティかのや	食べることは生きること ～リハビリ医療の現場より～	講演	久松憲明



▲ワークショップグループ「いちご」による寸劇。
「黄門様は行方不明」の一場面。中央が堀ノ内医師。



▲寿北小学校ゲストティーチャー
総合的な学習の時間（いろいろな職業の方々からお話を聞
こう）という授業で、医師の仕事について講話を行いました。

リハビリテーション科 総括

科長 榎畑 純二



スタッフ構成

理学療法士	29 名
作業療法士	15 名
言語聴覚士	5 名（非常勤 1 名）
心理士	1 名（非常勤 臨床心理士 1 名）
助手	2 名

理 念

- ①新しい知識と技術を日々探究する組織であります。
- ②チームアプローチを基盤とし、最善の方法で患者さんへ治療を提供します。
- ③リハビリテーションを通して地域へ貢献します。

平成 22 年度の目標

平成 22 年度は、主体的な業務の実現というテーマで、リハビリスタッフ一人ひとりが自分から積極的に他に働きかけようという事を目標に活動してまいりました。

- ◎財務の視点：リハビリ部門の収入増、前年度 25 ～ 30% 収入増、訪問リハビリ、月平均 100 件の訪問件数。
- ◎内部プロセスの視点：リハビリ記録の電子化（電子カルテシステム連動）。
- ◎顧客の視点：患者さん、ご家族へ介助技術の提供（介助技術教室の開催）、嚥下マニュアルの作成。
- ◎学習、成長の視点：評価能力の充実（脳卒中、小児）。



▲受付スタッフ

平成 22 年度の反省

平成 22 年度は、13 名の新人スタッフの増員により、病院内やリハビリ部門内とても活気あふれる雰囲気でも 1 年を送ることができました。体制的にも、365 日リハビリを余裕をもって提供できたと思います。患者 1 日あたりの単位数も約 4.4 単位から 5.5 単位となり、リハビリ治療時間も充実してきました。リハビリ部門の収入の面では前年度比較で、28%の増収でこれまでの最高の収益となりました。しかし訪問リハビリでは、月 88 件と目標達成できませんでした。他部門との連携や体制の見直しなどが今後の課題です。また本年度は、新たにリハビリ部門管理支援システムを導入し、電子カルテ・医事システムと連動させることができました。このことにより、リハビリオーダー・実施・記録・会計の流れがコンピューターで管理でき、ハード面でも充実した年になりました。まだ、運用面で改善しないといけない面もありますが、次年度の課題として取り組んでいきたいと思っています。顧客の視点として、患者さん、ご家族の方が在宅で安心した生活を送って頂きたいとの思いより、体験参加型の介助技術教室を 90 分に時間拡大し、2 回シリーズで実施しました。また繰り返し誤嚥性肺炎を起こさないように、嚥下障害に対するマニュアルをご家族向けに作成し、配布説明しております。スタッフ全員が色々なアイデアを出し、充実した取り組みとなりました。今後も継続していきたいと思っています。教育、成長の視点では、昨年度の引き継ぎで実践的な評価能力を高めるとのことで各リハビリ部門が、主体的に症例検討や基礎的事項の確認など実施できたと思います。特に新人スタッフが多いことにより、各リーダーなどがしっかりとした新人教育に取り組む事ができました。今後もさらなる個人のスキルとチーム力向上を目指してしていきたいと思っています。

治療実績（単位数）

単位：単位

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
PT	7,461	8,984	10,030	10,161	10,428	10,223	10,087	9,798	10,407	9,807	9,490	10,067	116,943
OT	3,891	4,575	4,950	5,241	5,531	5,291	5,674	5,090	5,162	5,392	4,778	5,090	60,665
ST	1,303	1,573	1,437	1,419	1,381	1,283	1,497	1,351	1,506	1,469	1,504	1,382	17,105
合計	12,655	15,132	16,417	16,821	17,340	16,797	17,258	16,239	17,075	16,668	15,772	16,539	194,713

運動器リハビリテーション

単位：単位

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
P T	3,945	4,883	5,545	6,575	6,847	6,649	5,964	5,507	6,058	5,569	4,726	4,940	67,208
O T	563	827	1,040	1,545	1,468	1,424	1,302	1,084	850	893	4,726	829	12,502
S T	4,508	5,710	6,585	8,120	8,315	8,073	7,266	6,591	6,908	6,462	5,403	5,769	79,710

脳血管リハビリテーション

単位：単位

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
PT	3,516	4,101	4,485	3,586	3,581	3,574	4,123	4,291	4,349	4,238	4,764	5,127	49,735
OT	3,328	3,748	3,910	3,696	4,063	3,867	4,372	4,006	4,312	4,499	4,101	4,261	48,163
ST	1,303	1,573	1,437	1,419	1,381	1,283	1,497	1,351	1,506	1,469	1,504	1,382	17,105
合計	8,147	9,422	9,832	8,701	9,025	8,724	9,992	9,648	10,167	10,206	10,369	10,770	115,003

＊ 1 単位 = 20 分間の個別リハを行う

患者 1 日あたりの単位数（入院）

単位：単位

合算	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
休日	4.18	4.44	5.08	5.29	5.08	5.72	4.98	5.52	5.09	4.52	5.49	4.99	5.03
休日以外	4.4	5.20	5.84	5.87	5.90	5.62	5.91	5.54	5.69	5.92	5.78	5.58	5.6
合計	4.36	5.00	5.74	5.78	5.76	5.64	5.74	5.54	5.59	5.65	5.73	5.48	5.5

＊ 1 単位 = 20 分間の個別リハを行う

訪問リハビリテーション

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
人数	14	17	17	17	15	13	11	13	13	14	14	13	171
件数	82	102	94	124	109	89	74	63	82	78	75	92	1064

研究発表・講演等

日 時	学会名・開催場所	内容・題名	発表者
4/23	鹿児島県高次脳機能研究会 鶴稜会館	広汎性発達障害児の語用論的 アプローチの取り組み	中野 江美 ST
8/28	鹿児島県看護協会主催平成 22 年度研修会 鹿児島県看護研修会館	高齢者のシームレスケア ～高齢者が安心して退院するために～	了徳寺 孝文 PT
9/11・12	鹿児島県理学療法士会主催 奄美ブロック研修会講演 奄美市内	姿勢からの理学療法の展開	榎畑 純二 PT
9/15	鹿屋市発達障害学習会講演 鹿屋市東地区学習センター	発達障害児の支援の仕方 ～作業療法士の立場から～	大山 育代 OT
12/7	鹿屋市発達障害学習会講演 鹿屋農業高校	発達障害児の支援の仕方 ～作業療法士の立場から～	大山 育代 OT
2/6	第 24 回鹿児島県理学療法士学会 第一工業大学	脳卒中片麻痺患者に対する歩行練習の検討	安藤 智恵 PT
2/6	第 2 回九州ハンドセラピィ研究会学術集会 大分県別府市	超音波診断装置を用いての 腕橈骨筋の伸張肢位の検討	岡藤 農 OT
2/19	全国回復期リハビリテーション病棟 連絡協議会 第 17 回研究大会 長崎	脳血管性パーキンソンニズムに対する体重免 荷トレッドミル歩行トレーニングの使用経験	柿木 誠 PT
2/19	全国回復期リハビリテーション病棟連 絡協議会 第 17 回研究大会 長崎	在宅復帰が可能となった 重度頸髄損傷患者の一症例	有村 陽子 PT
3/13	第 22 回鹿児島県作業療法学会 鶴稜会館	Piano Playing Movement を呈した 症例の治療経験	豊栄 峻 OT
3/20・21	霧島リハビリテーションセンター	川平法実技講習会講師参加	榎畑 純二 PT

研修会参加状況（院内）

開催日	主催者・講師名	研修会名・内容等	開催場所
7/16・17	九州中央リハビリテーション学院 国中 優治先生	膝の理学療法	医療法人恒心会 小倉記念病院 研修ホール
8/28・29	九州中央リハビリテーション学院 壇 順司先生	機能解剖学的視点からみた足関 節・足部の動き	
10/16・23		部署内研究大会	
12/10	神村学園専修学校 作業療法学科 学科長 渡 裕一先生	地域リハビリテーション研修会	
3/19	医療法人共和会 小倉リハビリテーション病院 院長 浜村 明德先生	地域リハビリテーション研修会	
3/26		部署内研究大会	

理学療法部門

主任 了徳寺 孝文



概要

病気やケガによって受けた障害や失われた機能のうち、特に足の麻痺や筋力低下の回復のための専門的なりハビリを担当しています。また、起居・立位・歩行等の主に日常生活上の移動面を中心に訓練を行い、生活全般の活性化を支援します。

平成 22 年度の目標

前年度の歩行分析の実施により各々の分析視点は培われてきました。しかし、個人差や新人スタッフの増加に伴い教育的観点からも全体的な歩行分析の能力の統一と底上げが必要と感じ、歩行分析の充実を図り、適切な分析能力の向上と治療への応用が出来るように『歩行分析能力の向上』を目標としました。臨床への応用に必要な分析能力向上と新人への教育も兼ねて行えるように、毎週の歩行カンファレンスと月に一度の勉強会を行い、分析視点を更に

明確化し、適切な分析結果（評価）から臨床への応用が出来るように取り組みました。

平成 22 年度の反省

平成 22 年度は各階ごとの歩行分析（検討会）をほぼ毎週行うことが出来ました。対象疾患については脳血管疾患、運動器疾患を問わずに、適宜選択して実施することによりカンファレンスとして充実した内容にすることが出来ました。また、下半期からは月 1 回の勉強会を「歩行分析の基礎について」2 回、「バイオメカニクス」について 3 回、「装具について」1 回、それぞれ担当者を決め内容を振り分けることにより各自の基礎力の向上はもちろん、新人や全体的な底上げが出来たのではないかと思います。今後、歩行分析による問題点に対して適切な訓練等が行えるようになり、患者さんにより良い理学療法を提供できるようにしていきたいと思っています。



実習受け入れ実績

期間	学校名	実習	人数
4/12～5/21	文京大学	長期実習	1名
4/26～6/19	第一リハビリテーション学院	長期実習	1名
5/10～7/2	鹿児島大学	長期実習	1名
5/10～7/9	宮崎リハビリテーション学院	長期実習	1名
7/26～7/30	鹿児島医療技術専門学校（原田学園）	見学実習	1名
8/2～10/8	医療福祉専門学校 緑生館	長期実習	1名
8/2～10/9	鹿児島医療福祉専門学校（南学園）	長期実習	1名
8/9～10/15	鹿児島医療技術専門学校（原田学園）	検査実習	1名
8/9～10/15	鹿児島医療技術専門学校（原田学園）	長期実習	1名
10/25～12/17	大阪リハビリテーション専門学校	長期実習	1名
2/14～2/18	鹿児島医療技術専門学校（原田学園）	見学実習	1名
2/21～3/11	鹿児島医療技術専門学校（原田学園）	評価実習	1名

研修会参加状況（院外）

開催日	主催者・講師名	開催場所	研修会名・内容等	参加数
5/23	昭和大学藤が丘リハビリ病院 理学療法士 千葉 慎一先生	鹿児島市	鹿児島臨床スポーツ リハビリテーション研究会 上肢セミナー	41名
6/12・13	全国訪問リハビリテーション研究会	長崎市	訪問リハビリテーション基礎研修会	1名
7/3・4	全国回復期リハビリテーション病棟連絡協議会	東京都	第19回 PTOTST 研修会	2名
9/3	鹿児島県リハビリテーション施設協議会	鹿児島市	鹿児島県リハビリテーション施設 協議会 講演会	2名
10/10	国立スポーツ科学センター アスレティックトレーナー・理学療法士 松田 直樹先生	鹿児島市	鹿児島臨床スポーツ リハビリテーション研究会 下肢セミナー	34名
11/27・28	九州理学療法士協会 九州作業療法士協会	沖縄県	第32回 九州理学療法士作業療法士合同学会	1名
1/15	東京フットボールクラブ株式会社（F.C.TOKYO） トップチームトレーナー 富永 賢介先生	鹿児島市	鹿児島臨床スポーツリ ハビリテーション研究会 体幹セミナー	49名
1/29	鹿児島県リハビリテーション施設協議会	鹿児島市	第2回鹿児島県リハビリテーション施設 協議会 講演会	4名
2/6	鹿児島県理学療法士協会	霧島市	第24回鹿児島県理学療法士学会	2名
2/11	合同会社 gene	福岡市	脳血管障害における肩関節と 股関節へのアプローチ	1名
2/18	全国回復期リハビリテーション病棟連絡協議会	長崎市	全国回復期リハビリテーション病棟 連絡協議会研究発表大会	2名

作業療法部門



主任 下仮屋 奈々

概 要

作業療法は「occupational therapy」の和訳です。Occupation とは、“物・状態・活動などで人や組織、機関などが満たされていること”ということができ、様々な動作・活動を通して医療の提供を行い、その人らしい生活の援助をする事が「作業療法」だと考えています。

平成 22 年度は 5 名の新入職者を迎え、15 人体制で臨んでいきました。

平成 22 年度の目標

当院では麻痺に対する促通療法に力を入れており、反復促通療法や CI 療法、その他の促通療法の研修会を通じて技術獲得をしています。作業療法からの観点では、その麻痺手をどのように生活や活動に結び付けるかが重要となってきます。そこで前年度から引き続き麻痺手の目標設定や治療検討のための指標となる目標値の抽出に取り組んでいきたいと思っています。また評価技術の向上を目的に、各個人がふり当てられた評価種目をレクチャーし、実演しながら

OT 全体の底上げを図ります。

OT 会では、症例発表検討会とともに OT 分野の専門的な学習も実施し、領域を「上肢」「小児」「高次脳機能」「福祉用具」と分け全 OT が各グループに所属し、幅広い OT 分野を基礎学習から応用まで学ぶ機会を作りたいと思います。

平成 22 年度の反省

前年度の反省より麻痺手の中・重度者も含む目標設定に取り組みました。現在は基礎データのさらなる収集を行うことを追加し、実用的な目標値を出せるように努めています。

評価技術の向上については、評価項目が多い為個人で学ぶには大変だった分野を OT 全体の目標として実施したため、効果的な取り組みとなったのではないのでしょうか。今後も引き続きスキルアップを目指していく必要があります。また OT 専門分野の学習も新入職者を含み全体的なスキルアップに繋がったと考えます。次年度はさらに内容を限局し、充実させたいと考えております。



実習受け入れ状況

期間	学校名	実習種類	人数
5/10～7/2	宮崎保健福祉専門学校	長期実習	1名
5/10～7/9	宮崎リハビリテーション学院	長期実習	1名
7/20～9/10	宮崎保健福祉専門学校	長期実習	1名
7/20～9/11	メディカル・カレッジ青照館	長期実習	1名
8/9～10/2	九州中央リハビリテーション学院	長期実習	1名
10/18～11/6	神村学園専修学校	評価実習	1名
2/14～2/18	鹿児島医療技術専門学校	見学実習	1名

研修参加状況（院外）

開催日	主催者・講師名	開催場所	研修会名・内容等	参加数
6/12・13	全国訪問リハビリテーション研究会	長崎市	訪問リハビリテーション基礎研修会	1名
6/11・13	社団法人日本作業療法士協会	仙台市	第44回日本作業療法学会	1名
6/19・20	全国回復期リハビリテーション病棟 連絡協議会	東京都	第18回PTOTST研修会	2名
9/4	日本作業行動学会	鹿児島市	第20回日本作業行動学会学術集会	2名
11/27・28	九州理学療法士協会 九州作業療法士協会	沖縄県	第32回 九州理学療法士作業療法士合同学会	1名
2/6	九州ハンドセラピィ研究会	別府市	第2回 九州ハンドセラピィ研究会 学術集会	1名
2/12	鹿児島県高次機能障害者支援センター	鹿児島市	平成22年度 高次脳機能障害者支援専門家研修	1名
3/13	鹿児島県作業療法士協会	鹿児島市	第22回 鹿児島県作業療法士学会	7名

言語聴覚療法部門

言語聴覚士 平原 いずみ

概要

平成 22 年度は常勤 5 名、非常勤 1 名で運営してきました。言語聴覚士の業務は、認知症・高次脳機能障害・構音障害といったコミュニケーションに問題を生じた方、食べる・飲み込むといった嚥下機能に問題を生じた方、発達に遅れのあるお子さんへの専門的な評価や訓練を通して、患者さんやそのご家族への生活支援を行なっていくことです。

平成 22 年度の目標

平成 22 年度は『患者さん・そのご家族に対して、嚥下障害の認識を高める』ことを業務改善の目標とし、在宅へ帰られる患者さんやそのご家族に向けて、嚥下マニュアルの作成、運用を行なうことを具体的内容としてあげました。技術向上としては『小児の評価法を身につける』ことを目標として掲げました。

平成 22 年度の反省

業務改善の取り組みでは、患者さんやそのご家族の方に嚥下障害について、分かりやすく情報提供を行うためにマニュアルを作成し、情報提供に対しての満足度調査を行いました。誤嚥についてのリスクや食事形態の説明を行なう際に用い、マニュアルを一部配布し、満足度アンケートを集計することができました。反省点としては、対象の方全



てに配布することができず、アンケート数が不十分であったことが挙げられます。今後も今回作成したマニュアルの運用を行い、アンケートを収集し、情報提供の内容を適宜見直していきたいと考えています。

技術向上については、小児の評価法を身につけるために正常発達の把握、代表的な小児疾患の理解のため、院内での勉強会を実施してきました。平成 22 年度は、正常発達や疾患を重点的に勉強したため、今後は評価法やアプローチ法など臨床につなげて行きたいと思います。

その他の新しい取り組みとして、失語症の方や高次脳機能障害によりコミュニケーション障害を呈した方を対象に週 1 回グループ訓練を実施しています。小児分野においても集団療育を心理と協力して行なっています。また、嚥下機能の評価法として嚥下内視鏡検査（VE）を導入しました。今後も、成人・小児分野にかかわらず、チームアプローチの連携のもとに、質の高い治療が患者さんへ提供できるように努力していきたいと思っています。

実習受け入れ

期間	学校名	人数
2/21 ~ /25	第一リハビリテーション専門学校	1 名

研修参加状況（院外）

開催日	主催者・講師名	開催場所	研修会名・内容等	参加数
4/23	埼玉医科大学 国際医療センター 前島 伸一郎先生	鹿児島大学	鹿児島高次脳学会	5 名
4/25	鹿児島県言語聴覚士会	黎明館	言語聴覚士学術講習会	5 名
7/8	鹿児島大学大学院 臨床心理学研究所 土岐 篤史先生	リナシティ鹿屋	発達障害の早期発見ポイント	2 名
7/17・18	日本高次脳障害学会	パシフィコ横浜	失語症の診断とリハビリ	1 名
7/11	山梨リハビリテーション病院 長谷川 和子先生	鹿児島医療技術専門学校	口腔顔面領域の運動機能障害へのアプローチ	4 名
8/2	田中美郷教育研究所 芦野 聡子先生	鹿児島県民交流センター	聴覚障害を持つ子どもへの支援	1 名
10/24	日本 ALS 協会 中俣 直美先生	県民交流プラザ	家族以外の介護者による吸引講習会	2 名
11/6	鹿児島市立病院 鹿島 直子先生	鹿児島市立病院	人工内耳について	1 名
11/20	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 東嶋 美佐子先生	鹿児島県自治会館	第 6 回鹿児島摂食・嚥下リハビリテーション研究会	5 名

心理療法部門

主任 瀬戸山 明子



概要

心理部門は臨床心理士1名、心理士・音楽療法士1名で運営しています。臨床心理士は「こころの専門家」です。当院では、リハビリテーション科に所属しており、臨床心理士の担う業務は、面接や行動観察を含めた総合的視点から患者さんの心理的特徴をとらえ、リハビリプログラム実行に有用な情報を提供すること、心理アセスメントを通して、問題を抱えている方に対しての心理的援助を行うことと考えています。

平成22年度の総括

小児診療においては、毎月1回希望ヶ丘病院小児発達外来勤務、小児科医の田中洋先生に診療をしていただいております。心理士は医師の指示に応じて発達検査を実施し、個別療育、集団療育、母親面接を行なっています。平成22年度、新たな取り組みとして、以前より行っていた高機能広汎性発達障害児への集団療育に加え、学習障害児を対象とした集団療育をSTと協力して開始し、いずれも月に2回実施継続してきました。

さらに、園・学校連携を今年は約20例実施しています。9月には鹿児島大学教育学部 障害児教育専修の内田芳夫教授をお招きして就学前相談会を開催し、6名の小児に対して相談を受けております。

毎月1回、現在当院へ療育に通っている小児の現状把握

と今後についての検討を行ない、療育が円滑に進むように小児担当と話し合いを行っています。

成人・高齢者に対しては、認知症患者を対象に週3回の集団脳活性化訓練をSTと協力して行なっています。さらに個別でも脳活性化訓練を実施しており、抑うつ傾向といったより心理的な対応が必要な患者さんに対してはコラージュ療法、認知療法、行動療法など個々の患者さんに合わせた心理療法を実施しています。さらに心理的な問題を抱える外来患者さんに対しても、カウンセリング等を実施し、入院だけでなく、外来という社会との接点をもった患者さんへの対応も行っております。また病棟やグループホームでの集団音楽療法も二年目を迎えることが出来ました。高齢者に対する心理的アプローチは種々ありますが、入院・外来患者さんの情緒安定や脳活性化をはかるために病棟と協力し、より充実した内容を目指して活動しています。

その他、高次脳機能障害を呈した患者様に対しての注意・記憶・遂行機能などの検査を行い、必要に応じて認知訓練を実施しています。必要に応じて病院外の施設との連携も図っております。

今後は・・・

リハビリを通じて人間の一生と関わる機会があり、これまで可能な限りの心理援助を行ってきました。今後も「こころの専門家」としての新しい知識の吸収と外の世界との交流の場を増やし、自己の専門性を高められるよう努力していきたいと思っています。

研修参加状況（院外）

開催日	主催者・講師名	開催場所	研修会名・内容等	参加数
4/24・25	臨床発達心理士講習会	東京学芸大学	臨床発達心理学の基礎（基礎理論）	1名
5/8・9	臨床発達心理士講習会	日本女子大学	臨床発達心理学の基礎（評価と支援）	1名
7/8	鹿児島大学大学院臨床心理学研究所 土岐 篤史先生	リナシティかのや	発達障害の早期発見ポイント	1名
7/31～8/3	臨床発達心理士講習会	白百合女子大学	認知発達とその支援	1名
8/27	筑紫女学園大学 渋谷 登美子 先生	リナシティかのや	大隅療育ネットワーク講演会	2名
10/24	鹿児島高次脳機能障害学会	鹿児島市	鹿児島高次脳機能障害研修会	1名
1/30	日本音楽療法学会九州・沖縄支部	アクロス福岡	日本音楽療法学会九州・沖縄支部大会	1名
3/26・27	ピラミッド教育コンサルタントオブ ジャパン（株） 今本 繁	鹿児島市	PECS 2DAY ベーシックワークショップ （基礎コース）	1名

看護部総括

看護部について

おぐらリハビリテーション看護部は、病院の理念の「地域に開かれ、個としての人を大切にする医療・予防から在宅までの一貫した医療の実践・リハビリテーション専門病院としての意義を自覚し学習する組織」を元に、看護部理念を掲げ患者さん・ご家族の方に信頼され、安全に効果的なリハビリテーション看護の提供ができることを目的とし、活動しています。

スタッフ構成

	2 F 病棟	3 F 病棟
師 長	古園 光代	三石 文江
主 任	坂元 麻子	上之郷 千亜紀
介護主任	上ノ堀 ゆかり	辻 良子
看護師	13 名	10 名
准看護師	6 名	8 名
介護福祉士	7 名	7 名
介護職	4 名	4 名
歯科衛生士	1 名	1 名
クラーク	1 名	1 名
合計	35 名	34 名

看護部理念

- I、地域医療を通して社会に貢献する
- II、地域住民に喜ばれる病院作りに参画する
- III、看護・介護職員が勉強し働ける喜びをもつ

目的

- 1、看護・介護教育背景の異なる看護職員の同一の目標
- 2、看護・介護職員のレベル向上
- 3、看護・介護技術の統一とより良い看護・介護の充実

目標

- 1、リハビリテーション看護・介護に精通し、医療の進歩に対応できる知識と技術を育成する
- 2、看護・介護技術のレベル向上を図り、安全で効果的な看護・介護ケアを提供する
- 3、自己啓発に努め看護・介護職としての追究心を養う
- 4、継続的な学習意欲を持つ

基本方針

職員が病院組織目標を理解し、医療法人恒心会職員の一員であることを自覚し、職務に必要な知識を身につけ働く職場に適応し自己の能力を発揮できるように努力する。

研究発表

開催日	学会名	開催場所	演題	参加者名
1/22	第 14 回鹿児島県 リハビリテーション 看護研究発表会	鹿児島県鹿児島市 ベイサイド錦江	家族への介護指導の現状と今後の課題	2 階病棟 湯地 聡子
			重度頸髄損傷患者の在宅復帰が可能となった 1 症例 ～食事動作の自立をめざした取り組み	3 階病棟 野間 瑞恵
2/18 ・19	全国回復期 リハビリテーション 病棟連絡協議会 第 17 回研究大会 in 長崎	長崎県長崎市 長崎ブリックホール 他	当院における排泄ケアの取り組み（第 1 報） ～排泄ケアチームの活動の効果～	2 階病棟 坂元 麻子
			当院における排泄ケアの取り組み（第 2 報） ～おむつ外しスコアの有効性～	2 階病棟 上妻 めぐみ
			回復期リハビリテーション病棟入院患者の歯科的問 題点と専従歯科衛生士の役割	2 階病棟 永吉 さゆり
			障がいをもつ患者の在宅生活支援の評価 ～退院後訪問を試みて～	3 階病棟 上鶴 奈穂子
			介護職の入院時ミーティングに参加する有用性の検討 ～ミーティング参加前後のアンケートからわかったこと～	3 階病棟 辻 良子

院外現任教育

開催日	研 修 会 名	講 師 名	人数
ジェネラリストの能力開発促進教育			
10/28	看護師研修 認知症患者の理解と看護	けいめい記念病院 副院長 岡原 一徳先生 平和ヶ丘ケアホーム小規模多機能 吉村 照代先生	2 名
7/21	看護師研修 魅力ある看護と職場づくり	静岡県立大学看護学研究科教授 紙屋 克子先生	4 名
10/16	看護師研修 看護職の役割と裁量権の範囲の拡大	大分県立看護科学大学教授 草間 朋子先生	1 名
1/21	准看護師研修	昭南病院看護部長 赤崎 えり子先生	2 名
5/22	がん看護における緩和ケア	淀川キリスト教病院ホスピス主任看護 課長 がん専門看護師 田村 恵子先生	
10/2	呼吸管理と看護	鹿児島市立病院 看護師長 呼吸療法士 富吉 奈美子先生 神宮 かおり先生	5 名
10/23	褥瘡ケアの実際	鹿児島大学医・歯学部附属病院 皮膚排泄ケア認定看護師 武 亜希子先生	4 名
12/4	感染対策	鹿児島大学医・歯学部附属病院 感染管理認定看護師 折田 美千代先生	3 名
9/18	看護が見える看護記録	鹿児島大学医学部保健学科准教授 清水 佐智子先生	1 名
12/18	家族看護	北里大学 教授 小林 奈美先生 他 支援者	2 名
2/12	糖尿病ケアにおける看護の効果	鹿児島大学医・歯学部附属病院 出口 尚壽先生	2 名
スペシャリストの準備教育			
7/3	看護研究の基礎Ⅰ	鹿児島大学医学部保健学科 教授 堤 由美子先生	1 名
8/21	看護研究の基礎Ⅱ		
11/13	看護研究の基礎Ⅲ		
鹿児島県保健看護研究学会			
1/21	第 44 回鹿児島県保健看護研究学会	鹿児島大学医学部保健学科 丹羽さよ子先生	5 名
ネスレニュートリション			
7/17	共催研修会	藤田保健衛生大学医学部外科・緩和医療学講座教授 東口 高志先生	3 名
管理者への準備教育			
1/29	看護倫理	宮崎大学医学部社会医学講座 准教授 坂井 孝壹郎先生	
2/19	看護管理に必要な人事・労務管理	鹿児島労働基準監督署	1 名

下仮屋道子副院長の活動報告

院外での委員・役職等

期 間	内 容
4 月～	鹿児島県看護協会 大隅地区長
4 月～	鹿児島県看護協会 介護保険に関する委員
5 月～ 24 年 4 月	鹿屋市防災会議委員
7 月	鹿児島県看護協会 大隅地区第一副地区長

研究発表・講演・講師等

日付	内容	タイトル等	開催場所
5/14	講義	22 年度行動目標発表、評価表の記入方について 対象：師長・主任・他	医療法人恒心会
6/29	講義	介護職基礎研修講義	鹿屋市勤労センター
7/9	講義	シニアワークプログラム地域事業 長期技能講習会にて 訪問介護員養成研修 2 級課程	地域包括支援センターあすなろ
8/27	講義	介護職基礎研修講義	鹿屋市勤労センター
8/30	講義	看護管理者養成研修 ファーストレベル	鹿児島県看護協会
8/31	講義	看護管理者養成研修 ファーストレベル	鹿児島県看護協会
11/15	出前授業	「命の大切さ」	鹿屋市立大始良中学校
1/13	講話	「医療安全管理について」	垂水中央病院
1/17	講義	ヘルパーステーション研修 接遇について 対象：ヘルパー 23 名	医療法人恒心会

受講した研修等

	研修名 （講師名）	開催場所
7/8	講演：骨粗鬆症治療の新時代到来 近畿大学医学部奈良病院 整形外科・リウマチ科 教授 宗圓 聡 先生	鹿屋市医師会
11/5	平成 22 年度大隅地域 M C 協議会救急医療講演会 ～救急搬送のピットフォール～ 福井大学医学部付属病院 副病院長・総合診療部長 寺沢 秀一先生	鹿屋市：さつき苑
11/30	日本医療機能評価に係る研修 講師：評価部会員 隈元 博幸先生	福岡県中央区天神 福岡ガーデンパレス
12/1	医療法人共和会 小倉リハビリテーション病院見学研修 病院機能評価受審について	福岡県北九州市小倉北区
2/22	訪問看護支援事業報告会	鹿児島県看護研修会館
3/25	鹿児島大学大学院看護学修士修了	

看護部 2F 病棟

2階師長 古園 光代



平成 22 年度の目標

「個々が学習し学びあう病棟づくり」

平成 22 年度の反省

22 年度は上記の目標に取り組み、職員個々が与えられる学びでなく、個々が学び・まとめ、それを他職員の学びへと繋げられることを目標とし、教育面においては例年の院外研修の他に、院内現任研修の講師としての役割や鹿児島県リハビリテーション看護研究会、全国回復期病棟連絡協議会主催の研究大会での演題発表への取り組み、合併症予防の取り組みとして生活習慣病についての院内勉強会の開催など、個々が学びまとめた成果を院内外へ発信する機会を多くもてたことは職員個々のこれからの大きなステップとなったと考える。また病棟目標管理 BSC の財務の視点では、「職員全員が経営参加の意識をもつ」とし、加算算定漏れ 10%以下の指標を達成した。回復期期限内の退院については 100%を指標としたが、転帰先の変更や施設入所待機期間等があり、年間退院者数の 2.7%が期限越えの退院となった。顧客の視点では、「安心・安全な療養環境を提供する」を目標とし、昨年度より開始した入院時ミーティングの際、患者個々に応じた環境設定や転倒カンファレンスを実施することで、有害事象の発生を最小限にできた。

また、身体拘束廃止に向けての取り組みにおいて、小倉リハビリテーション病院（北九州）の見学・業務体験等を行動計画として挙げ実施し、研修報告会を 8 月の病院全体ミーティングの場で行い職員への拘束廃止への意識づけとなった。次年度は拘束廃止へ向けて委員会を定期的に実施しマニュアル作成ができるよう働きかけていきたい。業務プロセスの視点では、「新入職者に対してのオリエンテーションの充実」を目標とし看護・介護主任、業務委員を中心に業務オリエンテーションチェックリストに沿った統一したマニュアル作成に着手し、見直しと作成に取り組んだが、

最終的な確認作業が出来ておらず使用段階へは至っていない。成長と学習の視点では、上半期は病棟全職員を対象として急変時の対応「BLS・AED取り扱い」の講義・演習を含めた研修を 3 回実施し、ほぼ全職員が参加できた。また、院外において、全国回復期リハ研究大会へ看護師 2 名、歯科衛生士 1 名が演題発表し、鹿児島県リハ看護研究会へ看護師 1 名が演題発表を行った。個々が取り組んできたことを発表できる機会を得られたことは貴重な経験であったと思う。院内においては、生活習慣病（糖尿病）の勉強会の開催・現任研修、また全国回復期連絡協議会主催の回復期リハ看護認定コース研修への参加等、職員個々が多くの学ぶ機会を得られた。



リハビリテーション看護認定コース

開催日	主催	開催場所	受講者名
9/13～9/18	回復期リハビリテーション病棟連絡協議会	東京三田 NN ホール	清水 まゆみ
11/1～11/6			
1/10～1/15			

研修参加状況（院外）

開催日	主催者・講師名	開催場所	研修名・内容等	人数
4/10	大隅地域 MC 協議会	鹿屋市	救急医療の現状と課題	1 名
4/30.5/1	介護基礎学セミナー 三好 春樹先生	鹿児島市	介護の専門性について	2 名
4/24	脳卒中を考える会	鹿屋市医師会館	鹿屋地域における医療機関の役割	1 名
6/12	シドライ・ウィザース 光洋メディカル	鹿屋商工会議所	最新の褥瘡知識 OH スケールによる 褥瘡予防と対策	2 名
6/20	福祉レクレーションセミナー	鹿屋市西原地区 学習センター	福祉レクレーション	2 名
8/ 1	鹿児島大学公開講座 第 1 回リハビリテーションからケア まで	鹿児島大学 霧島リハビリテーション センター	高次機能障害・リハ看護ケア実技	2 名
8/21	回復期リハ病棟連絡協議会	福岡市	回復期病棟の役割と責任	3 名
9/25	MD S 鹿児島ケア研究会 新津 ふみ子先生	かごしま県民 交流センター	転倒事故の要因転倒防止	1 名
10/16	鹿児島県リハ看護研究会 呼吸療法認定士 前野 かつ子先生	鹿児島市 ベイサイド錦江	呼吸リハビリテーションの基本的 な評価方法と実際	2 名
10/16	鹿児島県リハ看護研究会 田中 信行先生 丹羽 さよ子先生	鹿児島市 ベイサイド錦江	リハビリテーション	2 名
11/5	大隅地域 MC 協議会	鹿屋市	三次救急と僻地医療	1 名
11/27	鹿児島県リハ看護研究会 鈴木 真由美先生 二宮 宏二先生 武 亜希子先生	鹿児島市 ベイサイド錦江	摂食嚥下・排泄	2 名
12/10	日本介護福祉士会	宮崎市	第 17 回全国大会	2 名
12/25	鹿児島県リハビリテーション 看護研究会 永吉 正夫先生 吉満 桂子先生	鹿児島市 ベイサイド錦江	コミュニケーション・感染	2 名
2/18・19	全国回復期病棟連絡協議会	長崎市	全国回復期病棟研究大会	4 名
2/22	県リハ看護研究会 鹿児島大学医学部保健学科教授 丹波 さよ子先生	ベイサイド錦江	研究発表大会	4 名
3/5	鹿児島県リハビリ看護研究会 熊本機能病院 理事長 米満 弘之先生	鹿児島東急ホテル	10 周年記念公演	3 名

勉強会（院内）

開催日	講師名	場所	内容	参加数
7/21	医事課 坂元 理沙	2 階病棟	回復期病棟・入院中の他科受診 について	14 名
5/18 7/2 8/10	記念病院看護師長 横手 直子 看護師 外園 祐子	リハ病院職員食堂	「BLS と AED」演習含む 3 回実施	29 名
2/3	2 階病棟主催 勉強会	リハダイケアルーム	糖尿病について	42 名

看護部 3F 病棟

3階師長 三石 文江



平成 22 年度の目標

「スタッフがいきいきと働ける環境で回復期病棟として良質な看護・介護の提供ができる」

◎財務の視点：スタッフひとりひとりがコスト意識をもてる

- 1) 各種書類が期限内に処理できコスト漏れがない
- 2) ローコストオペレーションの推進

◎顧客満足の視点：安全で快適な療養環境の提供

- 1) 身体拘束（安全ベルト）の廃止に向けた取り組みの実施
23年4月までに、月～土曜日・日勤帯8時～16時廃止に取り組む
- 2) 接遇の向上を図る為に退院時アンケート回収率 75%以上
- 3) 快適な療養環境の提供に向けて、院内環境ラウンド

◎内部プロセスの視点：生活習慣病ケアの充実

- 1) 高血圧症退院指導マニュアルの作成
高血圧症のマニュアルに繋げる各項目別の勉強会実施
- 2) 退院後訪問の検討・実施

◎学習と成長の視点：スタッフがいきいきと働ける職場環境づくり

- 1) スタッフのやりがい支援の為に個人目標管理の実施
- 2) 回復期リハビリテーション認定コースへの参加
- 3) 全国回復期リハビリテーション連絡協議会主催の研究大会
演題提出（看護・介護それぞれ1演題）
- 4) 院外研究発表 1演題



平成 22 年度の反省

平成 22 年度は、「スタッフがいきいきと働ける環境で回復期病棟として良質な看護・介護の提供ができる」を目標に掲げ活動した。

【財務の視点】月初めにチェック表作成、スタッフへ提示し退院時・月末声かけを行い急変転院以外はコスト漏れがなく、コスト意識の向上が図られている。ローコストオペレーションの推進として日々の業務の中で再生紙の利用・無駄な電気は消す・水を出しっぱなしで手洗いしない・ペーパータオルの節約などについてスタッフへ声掛けを行いコスト削減に取り組んだ。

【顧客満足の視点】認知症により危険行動のある患者さんが常に入院されている現状であったが、安全ベルト着用の廃止に向けて取り組んできた。1年間を通して安全ベルト着用の患者さんとはご家族の要望のあった方とやむを得ずに 16 時から 20 時まで時間限定で行った方の 2 名のみだった。

身体拘束をせずに患者さんの傍にいて「見守り」などの対策を立て取り組むスタッフの意識の変化が伺え、患者さんへの安全で快適な療養環境の提供に繋がっているといえる。依然としてナースステーションで業務を行いながら見守りを行う場合が多いので、今後は患者食堂でレクリエーションを行いながら見守りを行うフロアー担当者を置くという体制の導入を検討していきたい。

また、退院時アンケートの回収率をあげ患者さんの生の声を接遇向上に繋げるべく取り組んだ。クラークがチェック表を作成し担当への声かけ等行い回収率 75% で掲げていた目標は達成できた。退院時アンケートは病棟会で報告し、接遇対応の見直し・業務改善等必要時行い接遇の向上に努めた。

【内部プロセスの視点】生活習慣病ケアの充実をめざして、高血圧退院指導マニュアル作成に取り組んだ。5 月病棟会で退院指導マニュアル作成について説明、定義・症状・薬物療法・食事療法・在宅管理に担当者を決定し、10 月病棟会で各担当者がパワーポイントで発表した。その後の全体報告会が、2 月 2 階病棟（糖尿病）、3 月 3 階病棟（高血圧）と遅れた為今年度中に退院指導マニュアル作成までいたらなかった。マニュアルを使用し統一した退院指導が出来るように高血圧症退院指導マニュアルを完成させたい。

また、その人らしい在宅支援のあり方、退院後の ADL や心理面の変化、在宅生活の実態を把握し入院中に行った在宅支援指導を評価する目的で看護研究に取り組み退院後訪問の有用性を検討した。結果、退院後訪問は有用であると結論、退院後訪問委員会を立ち上げ活動を開始した。

【学習と成長の視点】5 月病棟会で 22 年度病棟目標を提示、説明。個人目標を設定、個人面談で目標達成状況確認、目標達成に向けた声かけ支援は日々の業務の中で行うことが出来たが、年間 3 回の個人面談は業務の都合などにより実施が出来なかった。スタッフがいきいきと働ける職場環境づくりをめざし個人目標管理の取り組みの充実を図りたい。

委員会活動・研修会参加・研究活動などスタッフの能力に応じた声かけ支援を実施し、全国・鹿児島県回復期リハビリテーション研究発表会へ病棟から 3 演題発表ができた。回復期認定コースへは昨年 1 名認定を受け、現在 1 名実践取組み中である。22 年度の反省を踏まえ 23 年度も患者さん、御家族に選ばれる回復期病棟を目指して頑張りたい。

リハビリテーション看護認定コース

開催日	主催	開催場所	受講者名
10/31～11/6	回復期リハビリテーション病棟連絡協議会	東京三田 NN ホール	上之郷 千亜紀
11/2～11/7			
1/9～1/15			

研修参加状況（院外）

開催日	主催者・講師名	開催場所	研修会名・内容等	参加数
4/17	おぐらリハビリテーション病院 院長 久松 憲明	鹿児島市 自治会館	回復期リハビリテーション病院 情報交換会	7 名
4/24	脳卒中を考える会 新名主 宏一先生 他	鹿屋市 リナシティかのや	鹿屋肝属地区脳卒中医療の現状を語る会	6 名
5/15	阪和第一泉北病院 副院長 美濃 良夫先生	鹿屋市 リナシティかのや	鹿児島ネスレニュートリションセミナー in 鹿屋	3 名
5/20～ 22	日本リハビリテーション学会 会長 川平 和美先生	鹿児島 市民文化ホール 他	日本リハビリテーション医学会 学会集会	3 名
7/5・6	小倉リハビリテーション病院	福岡県 小倉リハビリテーション 病院	施設見学・業務体験	5 名
7/24	鹿児島大学保健学科教授 吉留 厚子先生	鹿児島大学 医学部保健学科 研究棟	鹿児島大学医学部保健学科公開講座 看護研究の基礎及びデータ解析入門	2 名
8/1	鹿大医学部講座教授 川平 和美先生	霧島市 霧島リハビリテーション センター	鹿児島大学公開講座 ActiveAging ーリハビリテーションから ケアまで	3 名
8/21	全国回復期病棟連絡協議会	福岡県 福岡国際会議場	回復期リハビリテーション看護・介護研修会 回復期リハビリテーション病棟の役割と責任 他	3 名
12/9～ 14	糖尿病ケア認定看護師 上野 和美先生	鹿児島県 鹿児島県庁	鹿児島県糖尿病臨床技能向上研修	1 名
1/22	鹿児島大学保健学科教授 丹羽 さよ子先生	鹿児島市 ベイサイド錦江	鹿児島県リハビリテーション看護研究発表会	3 名
2/18・ 19	全国回復期病棟連絡協議会	長崎県 長崎ブリックホール 他	全国回復期リハビリテーション連絡協議会主催 研究大会 in 長崎	3 名
3/5	熊本機能病院 理事長 米満 弘之先生	鹿児島市 東急ホテル	鹿児島県リハビリテーション看護研究会記念講 演チーム医療における看護師の役割	1 名
3/16	医療法人共和会（北九州市） 小倉リハビリテーション病院 院長 浜村 明德先生	鹿屋市 小倉記念病院 研修ホール	地域リハビリテーション研修会 回復期リハビリテーションの現状とこれからの 地域リハビリテーションに期待されるもの	2 名

看護部 外 来

主任 半渡 美子

スタッフ構成

常勤看護師 1 名 非常勤看護師 3 名
非常勤准看護師 1 名

業 務 内 容

①環境整備 ②診察介助 ③検査の介助 ④採血・検尿等の処置 ⑤生活指導 ⑥診察・検査等の予約

平成 22 年度の目標

個人力の向上

1. 財務の視点 病院経営参加への意識向上
2. 顧客の視点 患者満足度の向上
3. 内部プロセスの視点 統一した看護
4. 学習・成長の視点 看護の質・個人力の向上

平成 22 年度の反省

平成 22 年度は、スタッフ一人ひとりの個人力の向上を目標に掲げました。財務の視点では、病院経営参加への意識向上を目標とし、在宅管理指導料の確実な算定・入力ができるように取り組んできました。医事課の協力により「在宅指導管理料について」の勉強会を実施、伝票記入の必要性を認識できました。電子カルテバージョンアップに伴った外来基本伝票を見直すことにより、伝票の削減が可能と



なりました。また、電子カルテ入力は、診察介助者・当日の担当者による確実な入力と、医事課の会計時の確認により、伝票記入漏れ・電子カルテ入力漏れもほぼなくなりました。顧客の視点では、外来での患者満足度においては、診察待ち時間に対する環境調整ははずせないために、前年度の患者満足度調査より満足度が 1 割上昇することを目指し、声かけ等を行いました。1 回目の調査では、「待ち時間に対する配慮」の項目では不満足とした評価者がなく、声かけの成果と思われます。後期には、受付→診察→リハビリ→会計と一週間通しての待ち時間を調査しました。現在分析中であるため、結果を踏まえて今後の対策を考えていきたいと思っています。内部プロセスの視点では、非常勤看護師の入れ替わりが多い部署であるため、統一した看護が提供できるように、業務マニュアルの見直し、不足のマニュアルの作成を目標としました。インシデントレポート提出により、随時または定期的に全員で情報共有し、業務内容の確認をしてきましたが、マニュアル作成までに至っていないために今後作成していきたいと思っています。学習・成長の視点では、個人の力を向上させるために、担当制による部署内の勉強会を実施することを目標にし、定期的な外来会の後に実施し、80%の達成でした。

研修参加状況（院外）

開催日	主催者・講師名	開催場所	研修会名・内容等	人数
4/24	鹿屋肝属地区の脳卒中医療の現状を語る会	リナシティかのや	脳卒中医療連携に向けて	2 名
6/19	看護協会大隅地区 総合講演	リナシティかのや	医療機関における、DV 被害者支援の役割について	2 名
7/24	鹿児島大学医学部保健学科公開講座	鹿児島大学医学部保健学科教室	鹿児島大学医学部保健学科公開講座 看護研究の基礎及びデータ解析入門	1 名

研修参加状況（勉強会）

開催日	主催者・講師名	開催場所	研修会名・内容等	人数
5/26	外来看護師 半渡 美子	診察室	おぐりハ概要・回復期リハ病棟とは	4 名
11/24	医事課主任 山邊 加奈	診察室	在宅指導管理料について	5 名
1/24	外来看護師 中村 智美	診察室	自己導尿について	6 名
2/21	外来看護師 濱田 みどり	診察室	褥瘡について	5 名

放射線科



技師長 福元 睦美

スタッフ構成

非常勤診療放射線技師 1名

業務内容

一般撮影：外来・病棟 月曜日～金曜日（午前中）

嚥下造影：透視装置操作介入 火曜日（午後）

平成22年度の反省

昨年同様の業務体制でおぐらリハビリテーション病院の撮影を行ってきましたが、整形外科診療体制の変化に伴い外来患者の撮影件数が約4割減少しました。入院は若干ではありますが増加しております。撮影関連の反省としては、記念病院の目標にかかげ共通の認識として、撮影技術の共有化と診断へのより良いサポートを挙げて取り組んできました。しかし、記念病院との掛け持ち業務のため、撮影時間で診療に若干影響を与えた時があったように思われます。またインシデント・アクシデント報告で患者影響レベルはありませんでしたが、機器のトラブルによる画像転送ミスが発生しました。この問題に関しては装置メーカーによる対応で改善しております。年1回または2回の保守点検をおこなってもらっていますが、日常の技師による動作点検を今後もっと密にしていきたいと思います。また、本年度は新人の技師が1名入職しリハビリテーション病院での業務に携わってきました。一般撮影が主になっていますが、患者さんのトランスやポジショニングが不慣れな為、撮影に時間を要したりしました。リハビリテーション

病院での業務は1人での撮影になるので、患者さんの転倒転落や機器への衝突など新人だけではなくスタッフ全員が危機意識をもち業務にあたっていきたいと思います。23年度より、松元清高技師がリハビリテーション病院放射線科主任となりましたので、今後は主任を軸に記念病院との連携を行っていき、リハビリテーション病院からのCT・MRI検査や時間外の対応の体制を整えていきたいと思います。また会議、研修等参加していきたいと思います。

その他

保守点検日

- ・一般撮影装置：6/24 12/15
- ・外科用イメージ：6/24 12/15
- ・CR装置：1/12
- ・自動現像機：1/12 線量測定（年2回）
- ・直接撮影、外科用イメージ：6/26 12/18



一般撮影・VF件数（VF=嚥下造影検査）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
外来	35	29	29	27	34	31	24	34	38	37	47	37	402
入院	129	111	121	128	101	118	108	125	105	111	89	94	1340
VF	7	3	8	3	3	5	4	2	5	3	4	9	56

研修参加状況（院外）

開催日	主催者・講師名	開催場所	研修会名・内容	参加数
7/11	鹿児島県放射線技師会	鹿児島大学医学部	第7回フレッシューズセミナー	1名
7/24	大隅支部放射線技師会	鹿屋中央公民館	大隅地区画像研究会	2名
2/26	鹿児島県放射線技師会	鹿屋医療センター	第30回大隅支部放射線技師研修会	2名
3/17	鹿児島県乳房集団検診読影研究会	レクストン鹿児島	乳がん検診研修会	1名

医事課

主任 山邊 加奈



スタッフ構成

事務職員 4名

業務内容

- ①受付・会計業務
- ②入力業務
- ③保険請求業務
- ④査定・返戻・再審査業務
- ⑤電話対応業務
- ⑥未収金対策業務

平成22年度の目標

平成22年度の全体目標として、『教え合い学び育む（教育）体制の構築』が掲げられたのを受けて、スタッフ全員で話し合い医事課の目標を『チーム力の向上』にしました。
目標：医事課のチーム力向上

- 1) コスト意識を高める（未収金防止）
- 2) 病院にかかわる全ての方へのおもてなしの心で対応する
- 3) 日常業務の改善を行い、残業時間の短縮をはかる
- 4) 医療制度についての知識を深める

平成22年度の反省

- 1) コスト意識を高める（未収金防止）

未収金を発生させると病院の収益に繋がるため、昨年度から取り組み始めた社会医療福祉科との未収金対策会議を週1回開催しました。週1回行うことで患者さんの情報共有ができ、経済的に困難な方へ入院初期から介入することができました。平成22年度の入院未収金は、わずか1件に留まりました。スタッフの地道な努力、社会医療福祉科との連携を行なうことで大きな成果がありました。今後も事務局など他職種との連携を更に強化してスタッフ全員と未収金対策に取り組み、病院経営に貢献したいと思います。

2) 病気にかかわる全ての方へおもてなしの心で対応する
医事課受付は患者さんご家族と最初に言葉を交わす場です。『笑顔』と『親切』な態度で接遇に心がけるを目標に

日頃から常におもてなしを意識しました。昨年度、医事課内で接遇研修を試みましたがなかなか難しく、期待したほどはスタッフの向上に繋がりませんでした。そこで、平成22年7月より恒心会の接遇研修に月1回参加をし接遇を学びました。講師の福岡かつよ先生より受付での挨拶・身だしなみ・電話対応等の指導を頂きました。年度末に患者さんへ『受付・会計に対するアンケート』を実施しました。結果は、次ページの通りとなっております。その成果もあって『受付アンケート』では80%以上の方々に満足して頂きました。今後とも全ての項目で満足が90%以上になるよう接遇の向上に努めて行きたいと思います。

- 3) 日常業務の改善を行い、残業時間の短縮をはかる

スタッフの人員削減により、残業時間が増加しました。そこで日常業務の見直しをして、本来他部署で行なうべき業務の分担を図りました。項目として『カルテホルダーの作成・診断書作成・通所リハビリの会計、通所リハビリのレセプト業務』などです。また、レセプト業務の見直しをして日常業務に取り入れることが出来ました。これにより下半期の残業時間が1人あたり1ヶ月9時間ほど短縮されました。

- 4) 医療制度についての知識を深める

患者さんご家族に対して、医療制度の説明が標準的にできるように医事課内で勉強会を実施して説明用紙の作成をしました。勉強会は、医事課定例会議に加え2ヶ月に1回開催しました。来年度も全員が同じ知識と質を持って患者さんご家族へ十分な説明ができるように継続して勉強会を実施して行きたいと考えております。



受付・会計係りに対してのアンケート

【平成 23 年 3 月実施】【100 名対象】

項 目	満足	やや満足	ふつう	やや不満	不満
①挨拶は明るい声で出来ていましたか	78	8	13	1	0
②言葉遣い・対応についてはいかがでしたか	80	7	12	1	0
③身だしなみはいかがでしたか	83	2	14	1	0
④励ましやすい、暖かみのある態度で接していましたか	77	9	14	0	0
⑤受付・会計は清潔に保たれてますでしょうか	86	6	8	0	0
⑥受付・会計にての待ち時間はいかがでしょうか	49	18	31	2	0

研修参加状況（院外）

開催日	主催者・講師名	開催場所	研修会名・内容等	参加数
4/16	東京都 医療法人新生会 桜新町リハビリテーションクリニック見学		通所リハビリテーション研修	1 名
4/24	鹿屋肝属地区の脳卒中を 考える会	鹿児島県 鹿屋市 リナシティかのや 3 階ホール	第 1 回 鹿屋肝付地区の脳卒中医療の現状を 語る会	1 名
9/10		鹿児島県 鹿屋市医師会	第 2 回 鹿屋肝付地区の脳卒中医療の現状を 語る会	1 名
10/19	鹿児島労働局	鹿児島県 鹿屋市商工会議所	労災診療費算定実務研修会	1 名
3/24	鹿児島県医師会	鹿児島県 県医師会館	自動車保険診療研修会	1 名
3/28	鹿児島県医師会	鹿児島県 かのや大黒ホテル	保険診療研修会	2 名

他部署への講義

開催日	対部署名	内 容	担当者
7/21	2 階病棟	回復期病棟・入院中の他院受診について	坂元 理沙
11/24	社会医療福祉科	回復期病棟に入院中の他院受診について	坂元 理沙
11/24	外来	指導管理料・在宅管理料について	山邊 加奈
12/10	看護部現任教育	医療保険制度について	末廣 さやか

医事課定例会議（部署内発表会）

開催日	担当者	発表内容
4/28	原之園 歩美	自賠責の仕組みについて
5/25	相蔵 和宏	DPC について
6/22	前田 明美	結核について
7/20	石堂 千恵	大腿骨頸部骨折について
8/24	福永 泰貴	循環器について
9/27	中嶋 美幸	ERCP について
10/19	川畑 なぎさ	レセプト査定について
11/25	西之宮 渚	パーキンソン病について
12/21	坂元 理沙	開院 10 周年記念感謝旅行について
1/25	山邊 加奈	入院未収金を防ぐために取り組んだこと
2/22	末廣 さやか	生命保険について

栄養管理科

主任 高 朋子



スタッフ構成

管理栄養士 2名

業務内容

- ①栄養管理業務 ②栄養指導 ③給食管理業務
④食数管理 ⑤衛生管理 ⑥嗜好調査

目 標

美味しい食事の提供と栄養管理の向上

1. 効率のよい栄養管理
2. 患者・職員の満足の得られる食事の提供
3. 入院患者の栄養管理を見直す
4. 栄養管理の知識・技術の向上

平成 22 年度の反省

平成 22 年度は、美味しい食事の提供と栄養管理の向上を目標にあげました。食事は毎月 1～2 回の行事食を計画することができ、行事食の他にも月に 1～2 回のお楽しみ食としての特別な食事の提供を行いました。季節の食材を使用し彩りや食器の工夫を行って普段の食事とは異なり、季節感や特別感を演出することができました。また、イベントとして 11 月に給食委託会社のエスポワール（株）さん

により、患者さんの間近でスイカの彫刻を行っていただきました。スイカが見事にかわいらしいキャラクターとお花の『ダリア』に変身し、患者さんだけではなくお見舞いに来られた方やグループホームのご利用者にも喜ばれていました。嗜好調査結果としては、平成 21 年度の結果と比較して、盛り付け・色彩・味付け・食事量ともに「良い」「大変良い」の割合が増加しました。食事満足度は今年度より点数にて評価してもらい、平均点は 83.8 点と目標としていた 70 点よりも高い点数となりました。来年度はこの点数を維持できるようにしていきたいです。栄養管理については、昨年度「栄養管理マニュアル」が提示されたことから、それに基づいての業務改善を行いました。特に栄養管理計画書では、低栄養状態の把握だけではなく病態を含めた栄養状態の評価が多職種で検討できるようなスクリーニング・アセスメント表に改善が必要となりました。また、病棟より付加食品の喫食表を設置してほしいとの依頼があり、付加食品の毎食の摂取状況が把握しやすくなり栄養量の摂取確認ができるだけでなく、味の好みで食されない場合などの変更やコスト削減につながりました。今後も『美味しい』食事の提供を行い食事の摂取量が上がり、栄養状態の改善につなげていきたいと考えています。

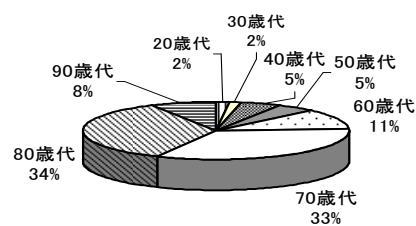
研修参加状況（院外）

開催日	主催者・講師名	開催場所	研修会名・内容等	人数
4/24	脳卒中を考える会	リナシティかのや	鹿屋の脳卒中医療の現状を語る会～脳卒中医療連携に向けて～	2 名
6/18	肝属地域給食施設連絡協議会	鹿屋市 中央公民館集会室	肝属地域給食施設連絡協議会 総会・合同研修会	1 名
7/21	肝属地域給食施設連絡協議会	鹿屋市 中央公民館集会室	肝属地域給食施設連絡協議会 病院給食部会 第 1 回 研修会	1 名
10/2	ペーパーミントの会	JA アズム大ホール	食事摂取基準の活用法～病態への展開～食べるということの最近の考え方と臨床的対応これからの胃瘻（PEG）管理	2 名
11/6	ぴくるすの会	鹿児島市 農協会館	地域連携・・・私たちにできることは！ 心に届く糖尿病治療の試み 群馬県での NST、PDN 活動と連携への取り組み	2 名
12/22	大隅地域医療機関 栄養管理研修会	大隅地域振興局 別館大会議室	「栄養管理計画」実施の効率化について考える	1 名
1/31	大隅地域給食施設 連絡協議会	大隅地域振興局 別館大会議室	緊急時における給食対応について考える	1 名
2/18・ 19	全国回復期リハビリ 病棟連絡協議会	長崎ブリックホール	第 17 回研究大会	2 名

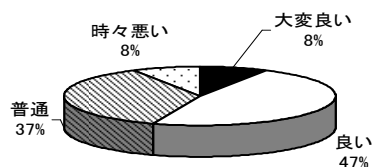
◆◆嗜好調査のアンケート結果◆◆

調査期間：H22年10/15～10/29
 調査対象者：聞き取り可能な入院中の患者
 対象者数：2F病棟 31名
 3F病棟 31名
 調査方法：聞き取り
 回収率：100%

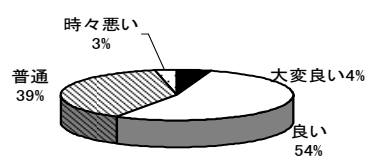
構成年齢(平均71.7歳)



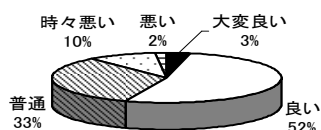
1. 献立内容について



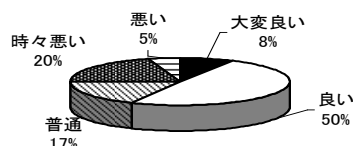
2. 料理の盛り付け



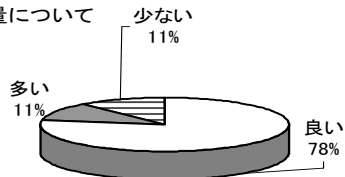
3. 料理の色彩



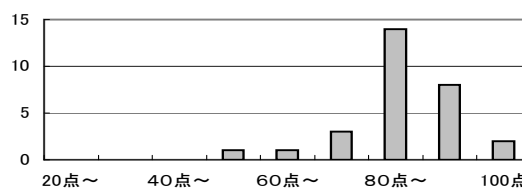
4. 味付けについて



5. 食事量について



6. 食事満足度



給食委託会社 エスポワール(株)

栄養士4名 調理師4名 調理員3名

目標 栄養、給食管理における質の向上

1. 安心、安全な美味しい食事の提供
2. 行事食の充実
3. 研修、教育の充実

反省

1. 食材の検討、メニュー作成の会社の見直し、作成によるマンネリ化回避業務を積極的に実施することにより、患者様・職員様のニーズに合った食事提供がよりスムーズに遂行できるようになった。また、弊社衛生管理マニュアルの全社員への教育強化により、より安心・安全な食事提供が具現化されるようになった。

2. 患者様方に季節感を味わって頂けるような旬の食材を使い、色彩、盛り付け、食器等の工夫を



実施することが出来た。また、おぐりハ創立記念日にミッキー・ダリアの花のスイカ彫刻を患者様・通所リハビリ利用者様の目前で披露させていただくという大イベントを実施し喜んで頂く等、新しいイベントの内容の試みを行った。

3. 当初より弊社社員に実施しているマネジメント教育（ベーシック教育）の内容のより充実を目指した見直しを7月受講を目途に実施した。

薬剤管理科

薬剤師 岡野 光祐



スタッフ構成

薬剤師 2名

薬剤助手 1名

業務内容

- ①調剤業務
- ②病棟薬剤指導業務
- ③医薬品情報管理業務（D I 業務）
- ④製剤業務
- ⑤薬品管理業務

平成 22 年度の目標

『顔の見える薬剤師へ！』

- 1、薬剤コスト削減
- 2、在宅につながる薬剤管理
- 3、適切な備品管理
- 4、連携を通して知識向上



平成 22 年度の反省

平成 22 年度は、薬剤管理科目標を『顔の見える薬剤師へ！』と掲げ、病棟業務の充実、他職種間の連携強化を中心に取り組んできました。目標に対して今年度より開始した取り組みは、①簡易懸濁法②毎月の NST 参加③入院中の薬剤自己管理移行についての指標作成・運用開始を行いました。①簡易懸濁法は、経管・胃瘻患者さんへ薬剤を粉碎せず投与する方法です。病棟スタッフへ勉強会を実施後 11 月より開始しました。② NST 参加は 4 月より開始し、事前に該当患者さんの情報を入手し、服用薬からの影響を調べ薬剤師の視点で情報提供を行いました。③については、2 階病棟の過去 1 年間の FIM データを使用して FIM5 項目（排尿管理・社会的交流・排便管理・記憶・整容）合計 28 点以上の方に対して自己管理へ移行検討とする指標を設定しました。病棟スタッフへ説明会を行い 3 月末より運用を開始しました。そして、服薬自己管理の指標設定の取り組みについては、研究発表としてまとめ 2 つの研究大会で発表しました。その他の取り組みは、薬剤コストの削減として、先発薬から後発薬に変更する薬剤リストを作成し医師への情報提供を行いました。また、薬局内の環境整備として、備品管理のリストの作成、機器メンテナンスマニュアルの作成、薬局内清掃方法の見直しを行いました。平成 23 年度は、①③に関して、効果的運用を継続していけるように病棟スタッフへの取り組み後アンケート調査を行い、見直しを進めていきます。また、達成不十分であった後発薬への未変更者の主治医報告（毎月 1 回）、高額薬剤リスト作成にも取り組んでいきます。今後も業務全般においての合理化・見直しを進め、病棟業務の充実やチーム医療への参加強化、服薬指導患者の増加など薬剤管理科が必要とされる業務に取り組んでいきます。

月別入院処方箋枚数・剤数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
枚数	901	868	891	951	866	838	953	898	1,007	961	920	905	10,959
剤数	2,211	2,030	2,086	2,369	2,153	2,065	2,335	2,070	2,508	2,009	2,150	2,176	26,162

月別入院注射箋枚数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
枚数	211	278	202	126	119	155	116	171	159	169	184	148	2,038

薬剤管理指導件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2階	79	62	69	84	90	85	55	68	73	68	54	84	871
3階	58	69	59	75	76	99	65	66	91	77	83	87	905
合計	137	131	128	159	166	184	120	134	164	145	137	171	1776

薬剤管理指導人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2階	18	23	25	27	29	30	23	23	25	22	22	28	295
3階	22	24	23	21	27	34	21	28	28	27	26	25	306
合計	40	47	48	48	56	64	44	51	53	49	48	53	601

研修参加状況（院内）

開催日	主催者名	研修会名・内容等	人数	開催場所
4/19・20	塩野義製薬株式会社	ラピアクタ点滴用について	2名	小倉記念病院 薬剤管理科
5/24・25	グラクソ・スミスクライン(株)	ラミクタールについて	2名	
6/28・29	アストラゼネカ株式会社	シムビコートについて	2名	
7/26・27	久光製薬株式会社	フェントステープについて	2名	
8/30・31	武田薬品工業株式会社	ロゼレム錠について	2名	
9/27・28	日本新薬株式会社	トラマルについて	2名	
10/25・26	日本イーライリリー株式会社	フォルテオについて	2名	
11/16・17	協和発酵キリン株式会社	ネスブ・アサコールについて	2名	
12/13・14	大塚製薬株式会社 第一三共株式会社	イーケプラ・サムスカ・イナビルについて	2名	
1/24・25	第一三共株式会社	クラビット点滴静注について	2名	
2/22・23	小野薬品工業株式会社	イメンドカプセルについて	2名	
3/28・29	あすか製薬株式会社	ミンクリア散布液について	2名	

研修参加状況（院外）

開催日	主催者・講師名	開催場所	研修会名・内容等	人数
5/25	鹿屋市薬剤師会	アステム鹿屋支店	脳卒中の病態と治療 他	2名
7/15	鹿屋市薬剤師会	アステム鹿屋支店	慢性疼痛に関する最近の話題	2名
7/25	(株)アステム 鹿児島県薬剤師会 鹿児島県病院薬剤師会	アステム鹿児島店	実践薬学セミナー（第1回）	1名
8/20	鹿屋市薬剤師会 グラクソ・スミスクライン(株)	リナシティかのや	新型インフルエンザ勉強会	2名
9/12	株式会社アステム 鹿児島県薬剤師会 鹿児島県病院薬剤師会	アステム鹿児島店	実践薬学セミナー（第2回）	2名
9/25・26	日本緩和医療薬学会	鹿児島市民文化ホール	第4回日本緩和医療薬学会年会	2名
9/29	鹿児島県女性薬剤師会	鹿屋商工会議所	日本女性薬剤師会 2010 年度学術講演会 伝達講習会	1名
11/9	鹿児島県病院薬剤師会	県民健康プラザ 健康増進センター	抗がん剤の副作用対策 他	2名
11/16	鹿屋市薬剤師会	アステム鹿屋支店	インフルエンザの病態とこれからの治療	2名
1/20	鹿屋市医師会 小野薬品工業株式会社	さつき苑	糖尿病の薬物治療の現状と今後の展望	1名
1/23	株式会社アステム 鹿児島県薬剤師会 鹿児島県病院薬剤師会	アステム鹿児島店	実践薬学セミナー（第4回）	2名
2/18・19	全国回復期リハビリ テーション病棟連絡協議会	長崎ブリックホール	第17回研究大会 IN 長崎	1名
3/5	第25回鹿児島リハビリ テーション医学研究会	城山観光ホテル	鹿児島リハビリテーション医学研究会	1名

研修参加状況（勉強会）

開催日	担当者	研修会名・内容等	人数	開催場所
4/27	岡野 光祐	認知症について	2名	看護部室
6/1	梶原 香里	子宮頸癌と予防ワクチンについて	2名	
6/29	原口 由侑子	頭痛と治療薬について	2名	
7/27	加治屋 直子	感染症治療の考え方	2名	
8/31	立和田 ともね	注射薬配合変化（各論）について	2名	
9/28	柳原 克紀	禁煙治療	2名	
10/26	岡野 光祐	簡易懸濁法について	2名	
11/30	原口 由侑子	特定保健用食品について	2名	
1/25	岡野 光祐	「FIM を用いた当院回復期リハビリテーション病棟における 服薬自己管理への指標設定について」予演会	2名	
2/22	加治屋 直子	肺がんとアリムタ注について	2名	
3/29	立和田 ともね	電解質異常（低K血症）について	2名	

研究発表・講演・講師等

	学会名・開催場所	内容・題名	発表者名
2/18・19	全国回復期リハビリテーション病棟 連絡協議会 第17回研究大会 IN 長崎 長崎ブリックホール	FIM を用いた当院回復期リハビリテーション病棟にお ける服薬自己管理への指標設定について	岡野光祐
3/5	第25回 鹿児島リハビリテーション医学研究会 城山観光ホテル	当院回復期リハビリテーション病棟における服薬自己 管理に関する指標設定の試み	岡野光祐

診療情報管理課

主任 吉永 美千代



スタッフ構成

診療情報管理士 1名
 医師事務作業補助者（入力支援事務員）6名（内非常勤2名）
 情報システム担当2名

業務内容

1. 診療録の量的点検
2. 医師事務作業補助（入力支援）業務
3. 入院フォルダーの貸出・管理
4. 医療情報統計作成
5. 診療情報開示

平成22年度の目標

- (1) 診療情報機器の入換えに関する総合的支援を行う
- (2) 院内外への円滑な診療情報の提供に対応できる
- (3) 医師の診療事務作業量の軽減に寄与できる
- (4) 部署内の情報共有と相互のレベルアップを図る

平成22年度の反省

診療情報管理課の平成22年度における重点目標は、平成16年度から導入された診療情報機器の更新・新規システムの導入事業でした。事前の計画や検証を行い、また法人全体のスタッフの協力もあり計画的に診療情報機器の更新・導入作業が実施できました。今後も更新・導入後の懸案事項や問い合わせ事項に対応していきたいと考えています。診療情報の提供については、4件の診療情報開示に対応し、その報告を診療情報管理委員会で行いました。＜詳細は次ページを参照＞ おぐりハ運営方針のひとつ『内向き改革として取り組むべきこと』の組織体制の見直しによる、「おぐりハ事務室の創設」に向けた対象職員への診療支援技能習得研修を計画的に実施しました。＜詳細は次ページを参照＞ 部署内においては、医師の診療事務作業の軽減を図り効率的に診療に取り組めるように努めました。今後も支援技能向上の為に、スタッフ相互で指導していく体制づくりを検討していかなければと考えています。これは、おぐりハ運営方針のひとつ『教え合い学び育む（教育）体制の構築』にもつながります。また、各種研修会へ参加し個人の力を伸ばし、部署内での情報共有能力を向上

させるために専門的知識・技術の修得に努めました。今後も、院内外の研修に積極的に参加し最新の知識や情報を修得していきたいと考えています。＜詳細は次ページを参照＞



診療情報開示実績報告

月	項 目	開示理由	開示方法	開示場所
4 月	検察庁からの照会	検察庁から病状照会	検察庁からの病状照会回答書にて文書作成	当該検察区へ郵送
10 月	患者家族からの照会	医療保険請求上	カルテ謄写提供	小倉記念病院
1 月	検察庁からの照会	捜査関係事項照会	捜査関係事項回答書にて文書作成	当該検察区へ郵送
3 月	検察庁からの照会	捜査関係事項照会	捜査関係事項回答書にて文書作成	当該検察区へ郵送

医師事務作業補助（入力支援）者院内研修実績報告＜対象者 3 名＞

回	期間			内 容	人 数
1	11/1 ～ 13	1 日中	2 週間	①電子カルテシステム操作訓練 ②メディパピルス（診断書作成システム）操作訓練 ③入院患者カルテフォルダー管理 ④システム障害時の対応方法 ⑤医師診療入力支援訓練、実践・・・・・・ など	1 名
2	1/10 ～ 21	半日	2 週間	同 上	1 名
3	2/7 ～ 25	半日	3 週間	同 上	1 名

院外研修会・勉強会実績報告

開催日	主催研修会名	内 容	場所	参加数
6/26・27	（社）日本病院会 診療情報管理士教育委員会	「医師事務作業補助者コース」研修	大阪	1 名
10/23・24	（社）日本病院会 診療情報管理士教育委員会	「D P C コース」研修	福岡	1 名
12/6・7	（独）国立がん研究センター	院内がん登録実務者 初級者研修会	福岡	1 名
12/11	鹿児島県 診療情報管理研究会	鹿児島診療情報管理セミナー	鹿児島	1 名
1/8	（公）鹿児島共済会南風病院 （自費参加）	がん登録に関する情報管理セミナー	鹿児島	3 名
1/15	日本診療情報管理学会 生涯教育委員会	診療情報管理士生涯教育研修会	鹿児島	2 名

社会医療福祉科



主任 山邊 嘉晃

スタッフ構成

社会福祉士 3名
クラーク 1名

業務内容

<社会福祉士>

- ①直接援助業務
- ②入院相談関係業務
- ③訪問
- ④退院援助経済問題の解決、調整援助
- ⑤社会復帰援助

<クラーク>

- ①主治医意見書業務
- ②相談室窓口業務
- ③入院受付準備業務
- ④台帳管理
- ⑤PC入力業務

平成22年度の目標

何事にも積極的に行動する

1. 入院患者未収金をゼロにする。
2. 記録時間の短縮。
3. 個人がレベルアップできる体制作り。

平成22年度の反省

平成22年度目標達成できた点については、平成21年度から医事課と連携して未収金対策を行っている成果もあって、入院未収金を1件に抑えることができたということがあげられます。昨今の長引く不景気の中で、患者さんや御家族の医療費に対する負担も大きくなってきております。入院中に経済的不安を訴えられる患者さんも少なくない中で目標を達成できたことは、日頃から経済的問題を意識して業務に取り組んだ成果と思われます。今後も継続して達成できるように尽力します。

記録に関しては、平成20年度から電子カルテ記載について検討を重ねてきましたが、平成22年度は他部署への伝達手段の統一と業務時間短縮のために電子カルテへの移行を行っております。今後、どの程度記録時間短縮に繋がっているか再評価していきます。

最後に平成22年度個人がレベルアップするために、定期的な勉強会の開催および学会発表に参加することを目標としてきました。勉強会は半年間継続して行うことができ、学会発表に関しては、昨年度に引き続き全国回復期リハビリテーション病棟連絡協議会での発表を行うことができました。

今後の反省点としては、多忙な業務の中で科内スタッフの明朗さが低下している部分があり、業務のスリム化と同時にスタッフのモチベーション向上のための取り組みを考えていく必要があると考えております。

また、院外の業務として実習生の受け入れをおこないましたが、きめ細やかな実習計画を提供できずに実習を終えてしまったため、今後の課題としてしっかりとした実習計画を作成し、来年度実習生を迎えられる体制づくりを行っていきます。



研究発表・講演・講師等

開催日	主催者・講師名	開催場所	研修会名・内容等	人数
2/18	全国回復期リハ病棟連絡協議会 第 17 回研究大会	長崎ブリックホール	全国回復期リハ病棟連絡協議会	1 名

研修会参加状況

開催日	主催者・講師名	開催場所	研修会名・内容等	人数
4/17	おぐらリハビリテーション病院	県自治会館	鹿児島回復期リハビリテーション病棟情報交換会	3 名
9/10	鹿屋肝属地区の脳卒中を考える会	リナシティかのや	脳卒中を考える会地域医療連携加算研修会	2 名
2/22	鹿屋肝属地区の脳卒中を考える会	鹿屋市医師会館	脳卒中を考える会地域医療連携加算研修会	2 名
3/30	鹿児島県医師会	鹿屋市医師会館	H22 年度障害者自立支援法医師意見書研修会	1 名

相談件数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
H20 年度	229	214	257	304	190	166	193	223	198	252	243	249	2,718
H21 年度	242	185	182	192	192	164	232	209	179	167	130	173	2,247
H22 年度	172	198	196	175	172	170	182	205	182	186	153	183	2,174

入院外来別相談件数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
入 院	165	141	183	159	169	163	172	190	169	175	144	167	1,997
外 来	8	7	13	16	3	7	10	15	13	11	9	16	128

相談内容一覧表

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
直接援助	92	80	105	84	83	77	102	95	90	101	70	68	1047
入院相談関係業務	33	33	40	47	38	46	40	46	38	30	37	36	464
訪 問	13	16	23	14	15	12	13	17	17	7	12	13	172
チーム医療	32	26	34	27	27	25	25	36	37	35	29	34	367
地域連携	26	15	11	21	25	21	21	20	24	37	19	32	272
教 育	18	9	13	25	22	28	18	14	21	16	12	17	213
会 議	37	19	36	30	32	30	33	32	31	31	34	37	382
その他	0	0	0	6	5	2	1	2	2	1	3	5	27
合 計	251	198	262	254	247	241	253	262	260	258	216	242	2,944

おぐら居宅介護支援事業所

介護支援専門員 豊園 裕一



スタッフ構成

介護支援専門員 1名

業 務 内 容

- 1 要介護認定申請・更新申請の手続き代行
- 2 在宅介護・在宅生活に関する相談援助
- 3 居宅サービス計画（ケアプラン）の作成
- 4 介護サービス提供事業者との連絡調整等
- 5 地域包括支援センターからの委託
- 6 施設入所・退所支援
- 7 居宅サービスの上限管理等に関する給付管理

平成 22 年度の目標

1. 健全な事業収支
2. 法人内の各部署及び地域諸事業所との連携
3. 研修会、講演会等への積極的な参加

平成 22 年度の反省

平成 22 年度も、1 名体制での業務遂行となりましたが、事業収支に関して、平成 21 年 4 月からの介護報酬改定にて、独居高齢者加算・認知症高齢者加算・医療連携加算等の新たな加算を確実に算定できるようになったこともあり、対前年比で 2% の居宅支援費の増加となりました。また、地域包括支援センターからの新規依頼や法人内の医療機関からの自宅退院に伴う居宅介護依頼も多く、月平均も 2.1 名の新規介護があり、ほぼ毎月、安定した利用実績を確保することができました。

部署間の連携や地域諸事業所の連携に関しては、平成 22 年度の新規利用者の介護前の経緯について調査したところ、介護保険の更新認定にて、要支援認定から要介護認定へと変更となられた方の、地域包括支援センターからの介護依頼が 5 割と新規利用者の半数を占めている状況でした。また、医療機関との連携についても法人内との連携が 7 割以上となっており、看護師や療法士との連携を図り、担当利用者の状態把握や情報提供を行うことで、スムーズな入・退院支援につなげられたと考えます。また個人のスキルアップのため、県及肝属支部の主催する介護支援専門員研修に全て参加させていただきました。

平成 23 年 2 月には、鹿児島県で初めて日本介護支援専門員協会の全国大会が開催され、全国各地の介護支援専門員の研究発表を聞くことができました。利用者を中心とした地域全体での取り組みや医療機関との連携のあり方など、とても興味深いテーマが多く発表されており、今後の自分自身のケアマネジメントに参考となるよい勉強の機会となりました。

平成 24 年度には介護保険法の改正、そして診療報酬と介護報酬の同時改定も予定されています。高齢者を取り巻く環境は厳しいものがあり、それに伴いニーズは多様化していくことが予想されます。介護支援専門員として、今後の動向に注目し、制度への迅速な対応が図れるように努力していこうと考えております。

担当利用実績

※（ ）内の数字は新規受け入れ件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
介護	33 (3)	34 (2)	32 (2)	32 (1)	31	30 (1)	29 (1)	30 (3)	26 (3)	29 (3)	31 (3)	34 (3)
予防	5	5	3	4 (1)	4	4	5 (1)	5	5	5	5	5

研修参加状況（院外）

開催日	主催者・講師名	開催場所	研修名・内容等
6/5	県介護支援専門員協議会	鹿児島市民文化ホール	平成 22 年度総会並びに研修会（県）
6/22	県介護支援専門員協議会肝属支部	鹿屋市中央公民館	平成 22 年度総会並びに研修会（肝属支部）
7/15	鹿児島県保健福祉部介護福祉課	鹿児島県市町村自治会館	介護保険施設等の集団指導
9/11	県介護支援専門員協議会肝属支部	鹿屋市中央公民館	第 2 回研修会（肝属支部）「高齢者虐待と身体拘束について介護支援専門員に期待する役割」
10/19	県介護支援専門員協議会	鹿児島県民交流センター	第 2 回研修会（県）「見えてきた第 5 期介護保険事業計画」
11/6	県介護支援専門員協議会肝属支部	リナシティかのや	第 3 回研修会（肝属支部） 「認知症の医療とケア ～今とこれから～」
2/18・ 19	県介護支援専門員協議会	城山観光ホテル・県文化センター	第 5 回日本介護支援専門員協会全国大会 in 鹿児島
3/19	県介護支援専門員協議会肝属支部	小倉記念病院研修ホール	第 2 回 地域リハビリテーション研修会



▲訪問の様子



▲訪問車両

介護事業部門総括

師長 門松 久美子



平成 22 年度の反省

「通所リハビリテーション」「グループホーム イーストサイドおぐら 壱番館・弐番館」「小規模多機能ホーム サポートセンターおぐら 24」それぞれ機能は少し異なりますが、どの事業所も「ご利用者主体のケア」が提供できるよう努力をして参りました。

通所リハビリテーションは、障害を持ちながらも安心して在宅生活が送れるよう、ご利用者それぞれが役割や目的を持ってリハビリに取り組めるよう工夫がされました。その結果、1泊2日の霧島旅行や利用者主催の花見などが実施できたのではないかと思います。これからもご利用者が自主的に参加し、それがリハビリに繋がるようなケアの提供を心がけて参りたいと思います。

グループホーム イーストサイドおぐらは、ご利用者が楽しみを持って生活できるよう、定期的な自宅への外出援助や、ご利用者・家族・スタッフと共に食事に出かけるなど、施設内と違ったご利用者の笑顔を引き出せる施設外の

活動を多く取り入れた1年だったと思います。これからもその人らしさに重点を置き、安心した生活が提供できるよう努力していききたいと思います。

小規模多機能ホーム サポートセンターおぐら 24 は、一人ひとりが主体性を持って在宅生活が送れるようご利用者自らが考え行動するようにしました。それまでサービスを受けるだけであったご利用者から、今では1日の中で『買い物に行きたい、温泉に行きたい、散歩がしたい』と積極的な声が聞かれるようになりました。平成22年度はサービスを提供する事業所から、職員・利用者が共に考え取り組んでいくというスタイルへ変化した年であったといえます。今後も、ご利用者自身が日々の生活の中で目的を持ち、自立した生活が行えるような事業所づくりに取り組んでいきたいと考えます。

平成23年度もスタッフ一人ひとりが業務に責任を持ち、ご利用者の意向を確認しながら共に成長できる事業所を目指していききたいと思います。

研究発表・講演・講師等

開催日	学会・講演会等	開催場所	演題	発表者
6/16～12/6	H22 年度介護基礎研修	鹿屋市農業研修センター	・介護の基本的な視点と意義 ・介護職の職業倫理 ・基本的な介護技術の習得等	川路 大輔 本白水 忍 福永 和人
9/9～22	H22 年度介護基礎研修	鹿屋市農業研修センター	・移乗介護 ・排泄介護 ・外出時の介護肢体不自由者の歩行介助 ・車椅子での移乗介助 ・視覚障害者の歩行介助 サブ講師	松元 留美 矢野 いづみ 坂元 みはる 小脇 真由美 松窪 厚子 鷲塚 朋子 曾原 恵 有村 亮一
7/13・29	訪問介護員養成研修 2 級課程	小倉記念病院 研修ホール	・レクリエーション体験学習 ・基本介護技術（緊急時対応法）	本白水 忍
10/8	院内現任教育研修	おぐらリハビリテーション病院	人間関係の調整 I	門松 久美子
2/4			介護保険について	川路 大輔
2/10			人間関係の調整 II	門松 久美子
2/15	ヘルパーステーション勉強会	小倉記念病院	急変時の対応（心肺蘇生法）	門松 久美子

おぐらリハビリテーション病院 通所リハビリテーション

主任 川路 大輔



スタッフ構成

介護福祉士	11名	理学療法士	3名
介護職	3名	作業療法士	1名
看護師	1名	歯科衛生士	1名

概 要

平成 11 年 11 月開所。要介護（支援）認定を受けた高齢者を対象に食事・排泄・入浴等の日常生活の支援、身の機能向上のためのリハビリテーションを提供し在宅生活が継続できるように支援させていただいております。定員：40 名（要支援含む）

目 標

- ◎「維持期」から「展開期」への転換。
- ◎ 利用者の主体性の再構築

平成 22 年度の反省

平成 22 年度は月平均延べ人数 863 名、平均利用者数 33.1 名、平均介護度 2.1 となっております。新規受け入れは少なく、キャンセル・入院者が多かったのにも関わらず前年度を上回る利用がみられました。これは体調不良時の早期発見・早急な対応ができたことにより長期的に休むことがなく継続的に利用が出来たからだと考えております。

今年度は更なるリハビリ・ケアの向上を目指し「利用者の主体性の再構築」を目標に掲げ取り組んできました。

平成 22 年 3 月に東京都世田谷区にある桜新町リハビリテーションクリニックの長谷川幹先生の講演を聴かせて頂き、主体性を引き出すリハビリへの取り組みに深く感銘を受け、4 月にクリニック見学をさせていただきました。そこで在宅生活は「維持期」ではなく「展開期」という考え・取り組みが必要である事を学びました。障害をもちながらもその有する能力をもって在宅生活を送っていただくためには、主体性をもって生活して頂くことが重要であるため、当通所リハビリテーションでは身近な目標をご利用者自身に考えていただいています。目標を達成することで受動的な考え方から能動的・主体的に行動するきっかけになるように取り組んでいます。その他、日々の生活の中でも役割をもっていただくようお茶のセルフ化・食後の片づけ・イベントの司会など出来る事はご利用者自身で行う様にしています。またご利用者からの要望により様々な催しも行っています。その中でも大きな催しが「おぐらリハビリテーション病院 開院 10 周年記念 霧島感謝旅行」の参加でした。1泊2日バリアフリー化されていないホテルで過ごす為にご利用者自身が考え工夫しながらリハビリを行う姿をみて目標・主体性の重要性を再認識することが出来ました。旅行は事故も無く大盛況で終えることができました。

最後に、次年度も今年度の経験・取り組みを活かし更により良いリハビリ・ケアが提供できるよう努めていきます。また平成 24 年度の介護保険法の一部改正に向け情報収集を行いスムーズに移行できるように準備を進めていきたいと考えています。



▲調理訓練



▲苗植え



介護・支援認定者数

	要支援 1	要支援 2	合計	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
4 月	15	14	29	25	16	23	17	8	89
5 月	13	21	34	23	17	19	17	9	85
6 月	11	22	33	26	14	18	20	9	87
7 月	11	23	34	24	16	18	21	6	85
8 月	13	21	34	21	19	20	19	10	89
9 月	12	22	34	20	21	19	16	9	85
10 月	12	22	34	20	18	18	15	10	81
11 月	13	21	34	23	16	19	16	9	83
12 月	11	21	32	20	16	19	14	9	78
1 月	11	19	30	22	20	16	16	9	83
2 月	9	19	28	19	23	18	15	9	84
3 月	9	19	28	17	21	20	18	9	85

月間延べ利用者数

H22	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均
介護	700	670	679	710	668	696	636	646	644	588	628	680	662
支援	175	202	218	228	218	220	226	211	196	175	153	187	201
合計	875	872	897	938	886	916	862	857	840	763	781	867	863
H 21	823	820	800	792	730	776	819	776	866	760	803	929	808

利用者実数・新規利用者数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均
介護	89	85	87	85	89	85	81	83	78	83	84	85	85
支援	29	34	33	34	34	34	34	34	32	30	28	28	32
新規	2	6	9	2	1	2	0	4	0	4	0	3	3

研修会参加状況（院外）

日付	主催者・講師名	開催場所	研究会名・内容等	人数
4/15・16	桜新町リハビリテーションクリニック院長 長谷川 幹先生	桜新町リハビリテーションクリニック	病院見学	1名
5/15	ネスレニュートリション株式会社	リナシティかのや	褥瘡ケアセミナー	2名
6/25・26	全国老人デイ・ケア連絡協議会	世田谷区民会館	全国老人デイ・ケア研究大会 in 東京	2名
8/1	霧島リハビリテーションセンター	霧島リハビリテーションセンター	Active Aging リハビリテーションからケアまで	3名
8/5	生活とリハビリ研究所 鹿児島老人ケア研究会	鹿児島県青少年館	介護のプロ養成セミナー	1名
8/26	医療法人 青仁会 池田病院	池田病院	地域ケアの課題と展望	3名
9/10	鹿屋肝属地区の脳卒中を考える会	鹿屋市医師会	第2回鹿屋肝属地区の 脳卒中の現状を語る会	1名
10/31	鹿児島県介護福祉士会	垂水ベイサイドホテル アザレア	介護記録について・レクリエーションの進め方	1名
12/2	生活とリハビリ研究所・ 鹿児島老人ケア研究会	鹿児島県婦人会	認知症ケア スキルアップセミナー	3名
12/11・12	社団法人 日本介護福祉会	ワールドコンベンションセンター	日本介護福祉士会 第17回全国大会 in 宮崎	1名
1/16	鹿児島県老人保健施設協会	歯科医師会館	鹿児島県高齢者口腔機能研修会	1名
2/26	鹿屋・肝属地区産業保険センター 他	リナシティかのや	心の健康づくり・ 自殺対策シンポジウム	1名
3/5	鹿児島県 リハビリテーション看護研究会	東急ホテル	チーム医療における 看護師の役割	1名

勉強会

日付	内 容	担当者	人数
4/13	トロミ剤の使用方法について	村磯 みな子	13名
5/6	AEDの取り扱い・緊急時の対応（実技）	大山 千代子	9名
5/11	高齢者の特性	中間 美加	13名
5/29	ALSと人工呼吸器の取り扱いについて（1）	竹之内 栄枝	14名
6/3	ALSと人工呼吸器の取り扱いについて（2）	大山 千代子	14名
6/8	リハビリ実施計画書作成方法と加算算定について 通所リハビリテーション計画書作成方法について（1）	川路 大輔 曾木 千利	13名
7/6	介護の基本的な視点と意義	川路 大輔	13名
7/24	災害時・車輻事故時の対応	川路 大輔	13名
8/3	他動運動：ROM訓練（実技）	岩元 啓祐	14名
9/7	プライバシー保護について 通所リハビリテーション計画書作成方法について（2）	串町 のぞみ 曾木 千利	14名
10/5	尿路感染症のためのガイドライン 予防通所リハビリにおける運動器の機能向上プログラムについて	大山 千代子 岩元 啓祐	15名
11/2	ノロウイルスについて	梶原 エミ	15名
12/7	身体拘束ゼロへの取り組み 摂食嚥下障害について	中村 さおり 室屋 秀憲	15名
1/11	スーパートランスについて	岩元 啓祐	15名
2/1	介護保険制度について	川路 大輔	15名

介護事業部・小規模多機能ホーム サポートセンターおぐら 24

主任 福永 和人



スタッフ構成

看護師 1名 介護支援専門員 1名
介護福祉士 8名 介護職 3名

概要

小規模多機能型居宅介護とは、介護保険制度の改正により平成 18 年 4 月から新たなサービス体系である地域密着型サービスとして創設されました。これは通いサービスを中心に、必要に応じて宿泊サービスや訪問サービスを行うことで、ご利用者の 24 時間 365 日の生活を支え、要支援・要介護状態となっても住み慣れた地域でいつまでも在宅生活を継続していくものです。

平成 22 年度の目標

1. 月当たり 450 万円以上の収入と、登録数 24 名以上の確保
2. 職員・利用者が主体性を持って行動できる事業所づくり

平成 22 年度の反省

平成 22 年度実績として、平均登録数は 24.1 人（介護 20.5 人、予防 3.58 人）で、通いサービスの月間平均延べ回数は 376 回、宿泊サービスの月間平均延べ回数は 79 回、訪問サービスの月間平均延べ回数は 69 回でした。

1. 平成 22 年度は収入の安定を第一にし『1 月当たり 450 万円以上の収入と、登録数 24 名以上を確保する』を目標に掲げて取り組んでまいりました。1 年間通して登録数の増加から収入も安定してきました。しかし、登録数では 7 月 23 名、収入においても 8 月 442 万円・2 月 446 万円と 1 年間を通して目標達成とは行かない状況でした。その原因として、①. 同月に急な入院や施設への入所、グル

ープホーム入居が重なったこと②. 新規登録獲得に時間を要したことがあげられます。

2. 次に『職員・利用者が主体性を持って行動できる事業所づくりを目指します』という目標に向けて取り組んでまいりました。職員においては一人ひとりが目標を掲げ発表し、ご利用者においては担当職員がご利用者の意向を確認しました。結果、職員一人ひとりが目標を持って取り組んだことで業務に対する姿勢やケアへの向上につながりました。またご利用者の意向を明確にしたことで主体性を引き出すことができ、目標達成に繋がったと思います。しかし、その一方で認知症の方の意向がなかなか引き出せなかったことから課題も残りました。

平成 23 年度においては、平成 22 年度で達成できなかった点を踏まえ、更に安定した事業運営と地域に根ざした事業所づくりに取り組んで行きたいと思います。



登録者数・平均介護度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
登録者数	25	25	24	23	24	24	25	26	24	24	24	24
平均介護度	2.17	2.09	2.07	2.07	2.15	2.2	2.24	2.36	2.33	2.22	2.24	2.04

イベント

開催日	イベント名	内容
4/5・6	お花見	1日目は大隅広域公園へ、2日目は雨のためリナシティにプラネタリウムを見に行きました。
5/8・9	母の日	利用者・職員で手作りのちらし寿司を美味しく頂き、職員手作りのカーネーションとリボンブローチをプレゼントさせていただきました。
6/16・17	あじさいドライブ	高隈の大隅湖に行きました。
6/18	父の日	男性利用者3名とがんこ庵に昼食に行きました。
7/24	夏祭り	慰問による踊り・三味線・太鼓、ミルキー園児による披露と楽しいひと時を過ごしました。
8/21	フラダンス大会&スイカ割り	職員・利用者一緒にリンボーダンス、職員によるフラダンス披露を行いました。最後は全員でスイカ割り大会を行い締めくくりました。
10/2	敬老会	イーストサイドおぐらと合同で盛大に行いました。 
10/21・22	みかん狩り	串良町にあるオレンジパークに行きました。 
11/23	文化祭&大忘年会	職員・利用者が一緒に一芸を考え皆さんに披露しました。ご家族の参加も多数あり盛大に行いました。  
12/16	そばうち大会	ボランティアに来ていただき、みんなでそばを作り美味しく頂きました。
12/24・25	クリスマス大会	ケーキをみんなで作り、記念撮影を行いました。
12/30	もちつき大会	職員・利用者で手作り餅を作り、最後はぜんざいにして美味しく頂きました。

イベント（続き）

1/2	垂水足湯ツアー	垂水市にある道の駅に足湯ドライブに出かけました。	
1/3～7	初詣	吾平町の鶴戸神社に参拝に行きました。	
2/3・4	節分	職員と利用者が鬼に変装し、今年1年の厄を払いました。	
3/4・5	ひな祭り	利用者男女で記念写真を撮りました。	
3/8・11	温泉ツアー	吾平町のゆうゆう温泉に出かけました。	

勉強会

開催日	研修会名	講師	開催場所	参加数
4/27	個人情報保護・秘密保持について	有村 亮一	サポートセンターおぐら 24	10 名
5/25	認知症予防について	有村 亮一 浜田 直子		11 名
6/29	嚥下体操について	金丸 和人		10 名
8/31	身体拘束・高齢者虐待について	松窪 厚子		10 名
9/29	医療安全・事故防止について	鷲塚 朋子		10 名
2/17	身体拘束・高齢者虐待について	松窪 厚子		12 名
3/8	軟膏・点眼について	曾原 恵		12 名

研修参加状況（院外）

開催日	研修会名	講師	開催場所	参加数
4/15～17	東京桜新町リハビリテーションクリニック見学	長谷川 幹先生	東京都桜新町	1 名
4/24	鹿屋肝属地区の 脳卒中医療の現状を語る会 (～脳卒中医療連携に向けて～)	新名主 宏一先生 他	リナシティかのや	2 名
11/6	第 5 回 大隅地区 認知症記念セミナー 2010	長谷川 和夫先生	リナシティかのや	2 名
12/6	日本介護福祉士会 第 17 回全国大会		ワールドコンベンションセンター	2 名
2/19	看護管理に必要な人事・労務管理	二石 和伸先生	鹿児島県看護協会	1 名
3/24	認知症サポーター養成講座	川崎 信也先生	リナシティかのや	1 名

介護事業部・認知症グループホーム イーストサイドおぐら

主任 本白水 忍



スタッフ構成

介護福祉士	10名
介護支援専門員	1名
介護職	8名

概要

- 認知症の方を対象とした日常生活のお世話
- ホーム内での訪問診療及び病院受診介助
- 看護師等の連携による健康管理等

理念

- その人らしさ（＝尊厳）の保持と生活の継続性を重視した運営を行います
- 「馴染みの関係」を大切にし、地域とともに認知症ケアの拠点づくりを創生します
- 終末期ケアにも対応できる運営を行います
- 質の向上と透明性の高い事業運営を行います
- 公正性と中立性を重視した健全経営を行います

平成22年度の目標

平成22年度は「一人ひとりが責任ある取り組みをし、利用者らしい生活を全員で支えていく」という目標を掲げ1年間取り組みを行っていました。

平成22年度の反省

【財務的視点】昨年以上の売り上げを目標に月平均利用率96%以上を目指すべく、①ご利用者の入居申し込みにおいて積極的な受け入れ②退居発生時のマニュアル作成③待機者の状況確認の実施④退居発生時には早期の入居が出来るよう調整し、結果96.8%と目標を達成、売り上げも前年比より増収となりました。

【顧客の視点】利用者や家族の満足いくサービス提供を目指すべく、自宅への外出援助や家族との外食援助等の個別ケア等を実施してきましたが、課題も残り、今後においても更なる充実を図りたいと思います。

【業務プロセスの視点】一人ひとりが責任ある委員活動を行なっていくことを目指し、委員を編成しそれぞれ活動を行ってきました。3月には活動報告会を開催し、反省や今後の課題等も出され、今後に生かされるものと考えます。

【成長と学習の視点】スタッフ全員で認知症に関する知識介護技術の底上げを行う目的で、部署内の勉強会を開催、また認知症介護実践者研修へ1名参加、院外研修への参加を行ってきました。スタッフ全員が認知症に関連する院外研修等へ参加をすることはできませんでしたが、引き続き、自ら研修で学んだことを今後のケアに生かしていくことが課題であると考えます。その他、医師や看護師等の協力

のもと、ホーム内での看取り介護を3名受け入れ、全スタッフで取り組んできました。スタッフ一同、学ぶことが多く大変貴重な経験をさせていただきました。

次年度に向けて、イーストサイドおぐらとして何を求められているのか、今一度考え来年度に向けた取り組みをしていきたいと思っています。



年間行事

実施日	イベント名	内容
4/2	花見	平和公園や西原の慰霊塔へ桜を見に行きました。
5/22	お茶のみ	コーヒ、ケーキを食べに近くのジョイフルへ行きました。
6/20	ドライブ	あいにくの雨でしたが、大隅湖へドライブに行きました。
8/21	夏祭り	弁当を注文し、ご家族も交えて食べました。 サポートセンタースタッフの協力もありリンボーダンスを行いました。
10/2	敬老会 (サポートセンター と合同開催)	高齢者表彰に家族からの手紙、笑いありと 大変盛り上がりました。
10/14	ドライブ	秋の霧島ヶ丘公園を散策しました。
12/15	そば打ち	利用者さんと一緒に行い、全員でいただきました。
12/17	外出援助	利用者さんからの意向もあり、外食しました。
12/20	貳番館 鍋パーティー	いろいろな種類の鍋を準備し、スタッフと一緒に食べました。
12/24	壱番館 鍋パーティー	
1/8	初詣	毎年恒例、田崎神社へ初詣に行きました。
2/3	節分	今回は利用者さんも鬼役になり行いました。(最後はみんなで仲直り)
2/22	県下一周駅伝 街頭応援	田崎町へ出向き、地域の方々と走る選手一人 ひとりを応援しました。
3/3	ひなまつり	お内裏様・お雛様となりお祝いしました。
3/8	外出援助	回転寿司を食べ(シージャックにて昼食)に行きました。(デザートも美味しかったです)
3/21	芸術鑑賞	鹿屋市自主興行「ていんさぐの花」鑑賞のためにリナシティかのやへ出かけました。 歌や踊りを見て楽しみました。
—	利用者誕生日会	ご利用者の誕生日会を開き、みんなでお祝いしました。



運営推進会議

実施日	利用状況・活動状況以外の会議の内容	参加数
4/22	非常災害対策について	9名
6/24	外部評価実施報告	8名
8/26	風邪・脱水・熱中症予防について	7名
10/28	非常災害対策について ～避難誘導訓練～	8名
12/22	10.28 避難誘導訓練実施報告・感染対策状況について	7名
2/24	避難訓練実施報告・介護サービス情報の公表結果報告	7名

※運営推進会議とは

ケアサービスの質の向上や地域に開かれた事業運営を確保する観点から、利用者や家族、市町村職員、地域包括支援センターの職員、地域住民の代表者等により構成される運営推進会議を設置し、概ね2ヶ月に1回、活動状況を報告し評価を受けるとともに、必要な要望や助言等を聞く機会を設けている。

実習受け入れ

期間	学校名	人数
9/3	鹿児島国際大学福祉社会学部社会福祉学科3年	1名

利用状況・利用稼働率（名）

H22	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	合計
要支援2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0
要介護1	0	0	0	0	0	0	0	1	2	2	2	2	0.8	9
要介護2	3	3	3	3	4	5	5	6	5	5	5	5	4.3	52
要介護3	5	5	4	5	4	4	4	2	2	2	2	2	3.4	41
要介護4	3	4	4	5	5	5	5	7	7	7	6	7	5.4	65
要介護5	7	6	6	6	5	4	4	2	2	2	3	3	4.2	50
合計	18	18	17	19	18	18	18	18	18	18	18	19	18.1	217
H 22 平均	3.78	3.72	3.76	3.74	3.61	3.44	3.44	3.17	3.11	3.11	3.17	3.21	3.44	
H 21 平均	3.06	3.33	3.33	3.21	3.28	3.28	3.32	3.44	3.56	3.59	3.56	3.67	3.38	
H 20 平均	2.75	2.89	2.89	3.10	3.11	3.11	3.11	3.33	3.44	3.33	3.11	3.11	3.15	

利用稼働率状況（％）

H 22	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	合計
壹番館	95.6	91.8	96.3	95.0	96.4	97.8	98.9	91.1	98.9	94.3	95.6	97.5	95.8	1149.2
貳番館	100.0	97.8	88.9	90.7	99.6	100.0	100.0	100.0	100.0	99.3	100.0	100.0	98.0	1176.3
H 22 全体	97.8	94.8	92.6	92.8	98.0	98.9	99.5	95.6	99.5	96.8	96.8	98.7	96.8	1161.7
H 21 全体	97.0	90.0	95.4	98.5	99.8	100.0	99.3	97.9	88.9	90.3	88.9	99.6	95.5	1145.6
H 20 全体	88.5	91.4	99.6	93.5	99.3	98.9	99.6	72.0	81.9	85.3	94.8	96.4	91.8	1101.2

勉強会

開催日	内容	講師	場所	参加数
4/14	介護事故防止・対応・緊急に関する介護について	本白水 忍	サポートセンターおぐら 24	12 名
4/30・5/1	避難時等における搬送（実技演習）	本白水 忍 栗野 英樹	サポートセンターおぐら 24 イーストサイドおぐら	12 名
5/16	認知症介護について	松元 留美	サポートセンターおぐら 24	14 名
6/16	プライバシー・個人情報保護について	矢野 いづみ		10 名
7/16	非常災害について	栗野 英樹		16 名
9/15	倫理と法令遵守について	相羽 文枝		13 名
10/20	言葉使い・接遇について	山下 美智子		13 名
1/19	腰痛予防について	東久保 富士美		12 名
2/16	高齢者虐待防止・身体拘束廃止について	坂元 みはる		11 名

研修参加状況（院外）

■実施日	主催・内容	講師	開催場所	参加数
4/15・16	桜新町リハビリテーションクリニック見学		東京都世田谷区	1 名
4/24・25	認知症を治すケア研究会 IN 鹿児島	竹内 孝仁先生	鹿児島県民交流センター	2 名
4/27	大隅地区認知症グループホーム連絡協議会主催 防災研修会	大隅肝属地区消防 組合予防課	大隅肝属地区消防組合	2 名
5/15	大隅地区認知症グループホーム連絡協議会主催 研修会	伊藤 周平先生	リナシティかのや	2 名
6/13	認知症を患う方のアセスメント いきいきセミナー	古城 順子先生	鹿屋市中央公民館	1 名
6/8-7/9	認知症介護実践者研修	認知症介護指導者	鹿児島県民交流センター	1 名
6/22	鹿児島県介護支援専門員協議会肝属支部研修会	八田 冷子先生	鹿屋市中央公民館	1 名
7/28	高齢者の口腔ケア	湊田 亜沙子先生	リナシティかのや	1 名
8/31	集団指導 「事故発生後の対応とケアプランの見直しについて」	濱田 千鶴先生	鹿屋市中央公民館	2 名
9/10	第 2 回鹿屋肝属地区脳卒中医療の現状を語る会	飯隈 忠仁先生 他	鹿屋市医師会館	4 名
10/6	H 22 度福祉サービスに関する相談・ 苦情解決事業研修会	山路 渡先生 他	鹿児島県民交流センター	1 名
10/14	高齢者虐待防止啓発研修会	鹿屋市地域包括 支援センター	リナシティかのや	12 名
11/6	大隅肝属地区グループホーム連絡協議会主催 認知症記念セミナー 2010	長谷川 和夫先生	リナシティかのや	6 名
12/10	大隅肝属地区 GH 連絡協議会主催 管理者研修会	久永 繁夫先生	大黒グランドホテル	2 名
12/10・11	(社) 日本介護福祉士会 第 17 回全国大会 in 宮崎	本名 靖先生 他	ワールドコンベン ションセンター	2 名
3/24	高齢者虐待・認知症サポーター養成講座	川崎 信也先生他	リナシティかのや	2 名
3/28	集団指導 「大腿骨頸部骨折の症状と受傷後のケアについて」	岡部 なるみ先生	鹿屋市中央公民館	1 名

事務部門

事務局 課長 牧 芳弘



スタッフ構成

- (1) おぐりハの事務局には、現在8名のスタッフが在籍しています。
- (2) 事務部：3名、販売部：1名、施設営繕部：4名
- (3) お問い合わせ・ご質問等がありましたらお気軽にお問い合わせください。

業務内容

- (1) 事務部
 - ①文書の発受、並びに保管に関する事項
 - ②諸官庁、病院、団体との連絡に関する事項
 - ③従業員の労務、福利厚生に関する事項
 - ④病院諸施設の管理に関する事項
 - ⑤事務局管掌事務の連絡調整に関する事項
 - ⑥医局に関する事項
 - ⑦従業員健康管理事務に関する事項
 - ⑧構内の清掃、警備、防火管理に関する事項
- (2) 販売部（売店）
 - ①物品の受払、購入及び保管に関する事項
 - ②諸料金の収納保管及び納入に関する事項
 - ③その他局内他課に属さない事項
- (3) 施設営繕部
 - ①建物及び工作物の管理、補修に関する事項

- ②工作材料の受払、保管に関する事項
- ③電気、電力、燃料及び電話施設の管理に関する事項
- ④防火設備（消火栓、消火器）の点検整備に関する事項
- ⑤院内の環境整備に関する事項
- ⑥その他営繕に関する事項

平成22年度の反省

事務局においては、おぐりハハビリテーション病院の諸業務のほか、法人全体の運営にかかる業務も一体的に併せて実施しています。

平成22年度の取組みについては、おぐりハハビリテーション病院にかかる事務局の目標は平成20年度を初度として3ヶ年度計画にて、入院・外来患者さん、施設ご利用者、ご家族及び各職員に対する、「安心、安全、衛生」を主軸に、病院・地域密着事業の経営・運営（コスト面等）、設備・環境面（患者さん・ご利用者・職員等が接する面）、他部署への業務支援及び事務の効率化（支援面等）に取り組んできました。

経営・運営については、医療業にかかる経営・運営と他に通常の経費・運営面の抑制等に取り組む、燃料高騰に鑑みた対応策については、車両の燃料消費量抑制を図るためのエコ運転にかかる情報配信、価格高騰にかかる供給会社との協議。事故防止対策については、公用車、自家用車に

かかる交通事故防止の安全標示板の設置、看板・外灯設置等。電力コスト低減の対応策については、使用電力量実績に基づいた供給会社との契約電力量等の見直し協議、コスト低減に向けた空調機器メーカーとの協議。また、官公庁関係については、入院患者さんにかかる院内不在者投票の適正な法令遵守した管理・執行、労働法に沿った円滑な業務遂行に取り組んできました。

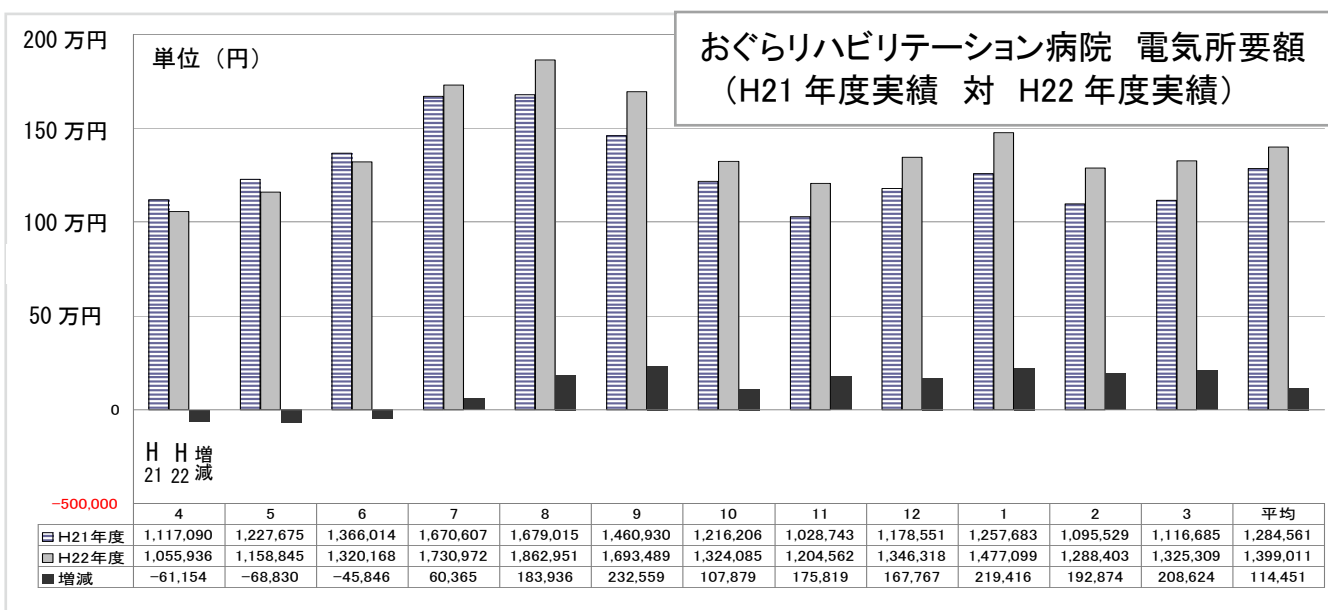
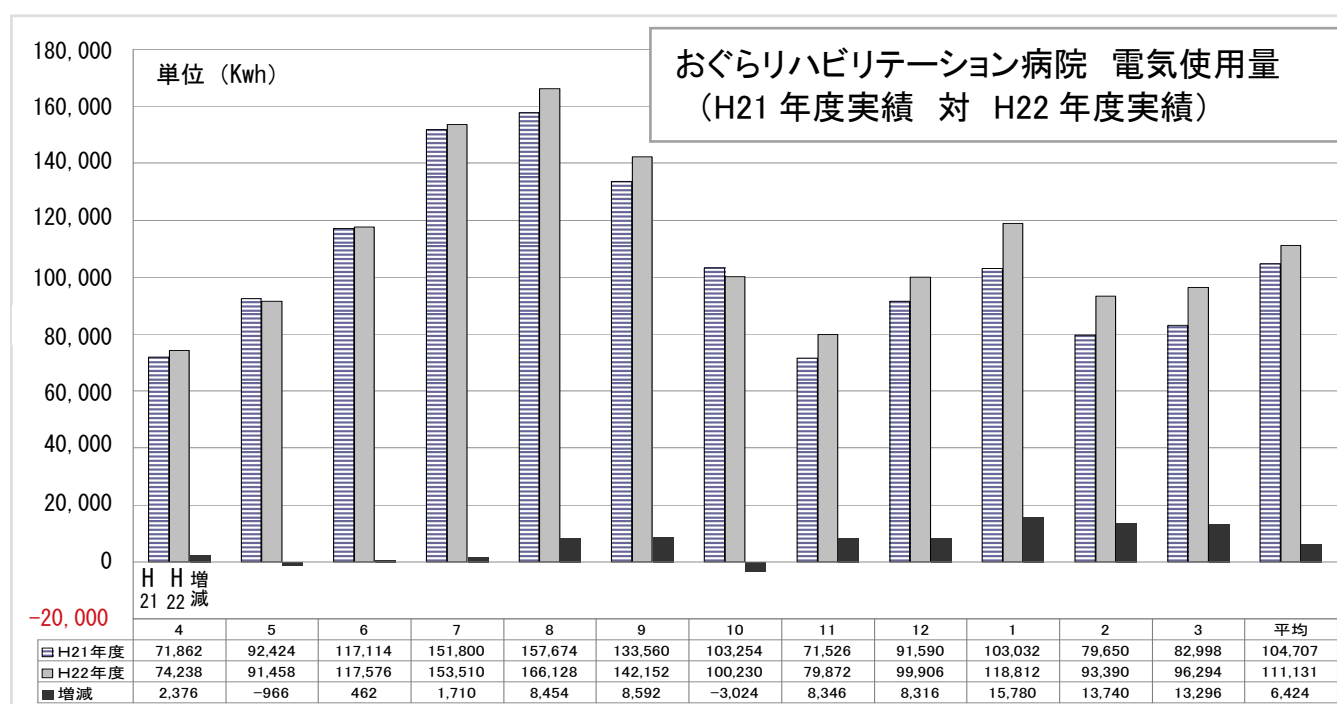
設備・環境面及び業務支援については、施設機器の点検、効率性の向上を目的に改善等を図りつつ、法的整備に取組



み、消防法改正の対応については、平成24年3月末までの経過措置であったグループホームに自動火災通報装置の設置及びサポートセンターへのスプリンクラーの設置を実施し、グループホーム等の安全性を高める設備機器の導入を完了しました。環境面については、環境会議の諸内容を踏まえながら、患者さん等に対する快適環境作り、職員等への業務向上に対する快適環境作りをモットーに、清掃委託会社等と並行的に改善等を取り組んできました。又、業務支援等については、設備機器の調整等のもとより、日々の光熱水料等エコ対策にかかる情報の配信等及び設備の改善等を実施してきました。

平成22年度も諸々な取組み等を実施してきましたが、特に東日本大震災の大惨事を例に、病院施設をはじめ、地

域密着事業の災害等にかかる対策強化として、設備点検、地域住民との避難誘導訓練等を鋭意反復し、管轄消防機関の指導等を仰ぎながら、人命第一の対応を実行し、かつ、前年に比し職員人数が増加する中での諸々の業務に対する迅速化・書庫等の整備・恒心会全体の接遇に関する事項の周知不足を反省しつつ次年度での改善を図っていくこととします。なお、平成23年度につきましては、大きな目標として平成25年春の新病院の開院にかかる諸準備、平成23年11月の病院機能評価（Ver.6.0）の受審、取得の業務が中心となってきますが、4月から新たに整備された事務室体制を構築しつつ、事務室職員一致団結して、病院業務の全般に深く関係を持ちながら新たな気持ちで取り組んでいきます。



保育室 ☆ミルキー・ランド☆

主任 大野 美由紀



スタッフ構成

保育士（常勤） 3名
保育士（非常勤） 10名

理 念

安心感のあるより良い保育の提供及び、保育士の資質向上

平成 22 年度の目標

- ◎ 家庭との連携をとりながら子どもとの信頼関係を築き、安心して過ごせるようにする。
- ◎ 自分の好きな遊びを十分楽しみ、のびのびと体を動かしたり、表現したりする楽しさを味わう。
0歳……甘えや要求を十分に受け止め、安心できる保育者とのかかわりのなかで園生活を楽しむ。
0歳児……一人ひとりの個人差に留意しながら、離乳の完成、歩行の開始を目指し、豊かな感性や発語をはぐくむ。
1歳児……保育者に援助されて、食事・排泄・睡眠・着脱など、できるところをやってみようとする。
2歳児……保育者と安心したかかわりのなかで、身の回りのことを自分でしようとする。

業 務 内 容

恒心会職員のお子さんを24時間体制で預かり、安心して勤務してもらえるよう、日々安定した環境の中で保育に取り組んでいます。又、休日もしっかり休んでワークライフバランスがとれるようサポートに努めています。

平成 22 年度の反省

行事では、毎年恒例の健康フェスティバルが宮崎県の口蹄疫の影響で、クリスマス会のお遊戯発表は嘔吐下痢症の影響で共に中止となり、練習を頑張って本番を楽しみにしていた子どもたちには残念な思いをさせていただきました。しかし、個々の保育士が色々な目標をたて、おもちゃやペープサート・モビール・紙芝居などを手作りしたり、お楽しみ会やパネルシアター開催など、それぞれに創意工夫し目標に取り組んだことで、それらをカバーできたように思います。月年齢別に担任を配置するようになって3年、子ども一人ひとりの個性や発達段階を理解し、担任同士での情報共有も徹底することによって連携も図れ、子どもとの信頼関係もより一層築けました。来年度は、基本的な生活習慣はもとより、語り掛けを大切に、言葉の理解や言語への意欲を育て言葉を発することを子どもたちが楽しめるよう、保育士全員が一丸となって取り組んでいきたいと思っています。



保育室の年間行事

月	保育室行事	老健・リハ病院行事	プレゼント	その他
4月	遠足 (お花見)	お花見		保護者会
5月	端午の節句	運動会	端午・母の日	
6月	ぎょう虫検査		父の日	職員健康診断
7月	プール開き 七夕		プールカード 七夕	保育士研修会(2回)
8月	プール 健康診断			
9月		敬老会(お遊戯発表)	敬老の日	
10月	運動会		運動会メダル	鹿屋市市制施行5周年記念 「こども絵画展」へ作品出展
11月		文化祭		保育士県研修会、保育士研修会
12月	クリスマス会		クリスマス	職員健康診断 保育士研修会
1月	観劇			人形劇(寿8丁目公民館)
2月	節分		節分	保育士研修会
3月	おひな祭り 卒園	おひな祭り	おひな祭り 年間製作帳 卒園記念品 卒園証書	

*身体測定、避難訓練、お誕生日カード、おたより発行、保育室勉強会は毎月行っています。

おぐらリハビリテーション病院職員の利用児数(人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
0歳児	2	3	3	2	2	2	3	3	3	3	4	4
1歳児	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
2歳児	3	2	2	1	2	2	2	2	2	2	2	2
計	7	7	7	5	6	6	7	7	7	7	8	8



SPD 室

主任 中川 秀生



スタッフ構成

常勤 2名
パート 2名

業 務 内 容

医療法人恒心会全体の下記に関する業務を一元化して行っております。

- ①物流管理システムを運用して医療材料・事務日用品・印刷物の発注から納品検品の実施。
- ②各現場への材料の供給管理・定数配置・各部署への配送配置の実施。
- ③印刷機による単票印刷。
- ④備品購入・医療機器・備品の修理受付
- ⑤その他

平成 22 年度の目標

1. 商品単価の削減
2. 同種品目の削減
3. S P D室内経費削減
4. 現場定数適正配置
5. 不動定数削減

平成 22 年度の反省

1. 仕入れ単価の削減については平成 23 年 3 月現在、滅菌ドレープ関係において 15 品目に対して 11 単価減 4 品目商品変更を実施いたしました。
2. 同種品目の削減については、現在、縫合糸関係で品目の削減を予定しており 2 品目の期限切れの商品を待って医師への確認とし追加購入の抑制を次年度に継続としています。
3. SPD 室内の経費削減については、昨年度からのピッキングに掛かる時間労力を削減する為、材料の包装単位を全病棟で見直し、箱単位払い出しの範囲を広げた結果、年間ビニール袋の購入費が約 1 万 3 千円減り枚数単位に換算すると約 17 箱、17000 枚のビニール袋削減に繋がると同時にごみの削減、それに掛かる SPD 職員の作業時間の短縮にも効果がありました。
4. 現場定数適正配置については、リハビリテーション病院において昨年臨時伝票請求に対して定数の見直しを行った結果、金額にて約 8 千円の定数増 4 %となりました。次年度においては不動材料などの確認を行い更に適切な定数配置を行いたいと思います。
5. 不動定数削減については、昨年度の対応から動いていない材料に視覚的に訴えるように黄色の付箋に調査日、不動日数、最終使用日を記入して材料ごとに目立つに工夫をしました。



Ⅲ. 委員会等の活動報告

医療安全管理委員会・・・・・・・・	55
院内感染防止対策委員会・・・	59
褥瘡対策委員会・・・・・・・・・・	63
看護・介護部教育委員会・・・・	64
NST 委員会・・・・・・・・・・・・・	65
栄養委員会・・・・・・・・・・・・・	66
職員勉強会・・・・・・・・・・・・・	67
ワークショップ・・・・・・・・・・・・・	68
家族勉強会・・・・・・・・・・・・・	70
排泄ケアチーム・・・・・・・・・・・・・	71
高次脳機能チーム・・・・・・・・・・	72
摂食・嚥下チーム・・・・・・・・・・	73
病院環境チーム・・・・・・・・・・・・・	74

Ⅲ 委員会活動報告

医療安全管理委員会



副院長 下仮屋 道子

メンバー構成

久松 憲明 (医師)	門松 久美子 (看護師)	榎畑 純二 (理学療法士)
堀ノ内 啓介 (医師)	岡野 光祐 (薬剤師)	松元 清高 (放射線技師)
下仮屋 道子 (看護師)	高 朋子 (管理栄養士)	本白水 忍 (介護福祉士)
三石 文江 (看護師)	福永 和人 (介護福祉士)	山邊 加奈 (医事課)
古園 光代 (看護師)	山邊 嘉晃 (社会福祉士)	牧 芳弘 (事務局)
半渡 美子 (看護師)	川路 大輔 (介護福祉士)	

委員会の概要と活動目的

医療現場では、医療従事者のちょっとした不注意等が、医療上予期しない状況や、望ましくない事態を引き起こし、患者の健康や生命を損なう結果を招くことがある。われわれ医療従事者には、患者の安全を確保するため不断の努力が求められている。さらに、日常診療の過程に幾つかのチェックポイントを設けるなど、単独、あるいは重複した過ちが、医療事故というかたちで患者に実害を及ぼすことのないような仕組みを院内に構築することも重要である。このような考え方のもと、それぞれの医療従事者の個人レベルでの事故防止対策と、医療施設全体の組織的な事故防止対策の二つの対策を推し進めることによって、医療事故の発生を未然に防ぎ、患者が安心して安全な医療を受けられる環境を整えることを目的とする。本院においては院長のリーダーシップのもと、全職員がそれぞれの立場からこの問題に取り組み、患者の安全を確保しつつ必要な医療を提供していくものとし全職員の積極的な取組みを要請する。

活動内容

1. 医療安全管理委員会の開催

[委員会開催状況]

重大な事故防止のため、各部署提出目標数を掲げ、インシデント・アクシデントの情報提出を促進。また、具体的報告内容も提示し、情報共有を行った。医療に係る安全確保を目的とした報告で得られた事例の発生原因は、SHELL 法にて分析し、再発防止策を導き、内容の検討および職員への周知を図った。また、策定した改善策が、各部門において確実に実施され、かつ安全対策として有効に機能しているかを常に点検・評価し、必要に応じて見直しを行った。

委員会開催日	出席者数
4/30	18 名
5/28	18 名
6/25	18 名
7/30	18 名
8/27	18 名
9/24	18 名
10/29	18 名
11/26	18 名
12/24	18 名
1/28	18 名
2/25	17 名
3/25	18 名

〔部署別報告状況〕

部署名	医局	外来	通所リハビリ	2階病棟	3階病棟	医事課	リハビリテーション科	栄養管理科	薬剤管理科	放射線科	社会医療福祉科	サポートセンターおぐら24	イーストサイドおぐら	計
目標指数	3	7	10	15	15	4	25	3	3	1	3	8	10	107
4月分	1	8	8	25	38	5	14	2	0	0	0	6	5	112
5月分	4	8	2	14	20	1	14	1	0	0	0	3	10	77
6月分	4	7	9	11	19	2	16	2	1	0	2	4	7	84
7月分	3	12	4	26	20	3	18	2	2	0	2	0	5	97
8月分	2	7	15	15	30	0	18	1	1	0	2	13	7	111
9月分	4	5	6	12	20	3	10	5	0	1	3	6	5	80
10月分	1	9	14	25	36	0	29	1	2	0	2	4	4	127
11月分	1	7	4	11	29	0	19	0	1	0	4	4	4	84
12月分	2	10	4	25	29	0	20	0	1	0	2	3	1	97
1月分	3	10	13	28	46	3	12	6	1	0	1	1	4	128
2月分	3	9	6	21	29	0	12	1	1	0	1	1	7	91
3月分	0	11	10	31	23	3	12	0	0	0	3	7	2	102

目標達成優秀部署 1位⇒3階病棟 2位⇒外来 3位⇒2階病棟 全体ミーティングにて表彰

2.. 院内の医療事故防止に関する職員研修

医療安全管理の基本的な考え方、事故防止の具体的な手法等を全職員に周知徹底することを通じて、職員個々の安全意識の向上を図るとともに、本院全体の医療安全を向上させることを目的として研修を年2回実施した。

院内集合研修：医療安全管理研修

研修開催日	テーマ	講師	参加者数
6/5	胃瘻造設患者管理について	独立行政法人 南九州病院 外科部長 小倉 芳人先生	101名
12/6	セーフティマネジメント KYT：危険予知トレーニング	(株)テルモ 高橋 新平先生 (株)テルモ 富重 和美先生	103名

※参加できなかった者全員に対しては、後日、伝達講習を行った。

院内集合研修：薬剤管理研修（看護部対象）

研修開催日	テーマ	講師	参加者数
8/17	抗不安薬・睡眠薬について	おぐらリハビリテーション病院 薬剤師 岡野 光祐	53名
11/5	薬剤管理	おぐらリハビリテーション病院 薬剤師 岡野 光祐	45名

3. 他

指針の見直しを行い、グループウェアにUPし、全職員へ周知した。

[月別報告内容件数]

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
転倒・転落発見	43	20	11	16	17	18	25	9	29	44	32	33
転倒転落	12	13	19	10	11	13	20	24	10	11	14	11
薬剤	11	14	18	11	20	9	18	7	15	11	12	10
食事	5	0	3	4	4	6	3	0	2	9	2	1
接遇	2	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0
リハビリ	2	2	0	1	5	0	8	2	6	5	3	2
検査	1	3	2	8	3	1	2	3	4	9	5	7
他	36	25	31	46	51	33	50	39	31	39	23	38

[報告内容例]

レベル	0	救急カートの点検中にソルデム 3 A 500 m l、1 本が不足しているのに気づき、主任に報告。3/8 夕方、緊急で外来患者さんに点滴の指示があり救急カートより使用したとのこと。使用後補充すべきであった。
		問診の際、数日前から動悸があると聞いた。採血の結果が出た後に指示をもらってしまった。Dr. からの指示により診察前に EKG を行った。
		保険証を提示して頂き、登録画面と見比べた際、生年月日が間違っていることに気づく。大正 14 年が大正 15 年になっていた。本人へ保険証の生年月日が間違いないことを確認後、登録画面の訂正と関連部署へ連絡、診察券と 1 号用紙の差し替えを行った。
		午前中に記念病院から転院した患者の家族が入院申込書を見せて「これをどこに出せばいいですか？」と言われたので「病棟に提出してください」と返答したことが誤っていたことに、夕方病棟からの連絡で発覚した。家族に詫び、その後相談室で M S W から入院案内の説明を行った。
	1	ヴィラ S S 利用予定であったが、ヴィラ療養指示書を Dr. に依頼するのを忘れており、退院当日の朝、Dr. に依頼することになった。Dr. にヴィラ療養指示書の依頼を忘れていたことを報告し、作成を依頼した。
		廊下で車椅子からすべり落ちている所を発見。病棟スタッフに声をかけ、車椅子に乗車後、バイタルの確認をしてもらった。
		朝の送迎時にスタッフよりデイバッグがないことを指摘される。本人に謝罪。デイバッグが荷物の中に入っているか再度確認する。
		インフルエンザ検査を施行。結果をマイナスと報告したが、Dr. がしっかり確認すると A 型にうつすらと反応あり。A 型と確認後は個室にて対応。2 名でのしっかりした確認が必要であった。
	2	305 号室前にて車椅子のフットレス上に座り込みされている所を発見。バイタル測定、疼痛、打撲等なし。Dr. へ報告。経過観察となる。
		ワーファリン切れの患者の指示上げがされておらず、当日採血だった為、主治医が気づき、指摘あり。主治医が気づいた為、服薬のトラブルなし。再度指示上げの徹底をしていく。
		詰所で車椅子にて点滴施行中、自己にて点滴チューブを口元にもっていたところを発見。口腔内ケアに実施。K T = 38.2 ベッド臥床。Dr. へ報告。予定指示分の解熱剤服用。Dr. 診察。しばらくして、K T = 37.4 解熱。点滴については薬局に確認。
		前テーブルの患者さんの内服を、自分の物と勘違いし口に含んでしまった。すぐ気づき、口に指を入れかき出した為、誤薬はまぬがれた。
	3a	リハ室よりデイフロアへ移動中に転倒。N s へ報告、バイタル測定。Dr. へ報告し診察。顎を打撲しており湿布にて様子みる。送迎時家族に報告、謝罪した。
	3 b	訪室すると、ベッドサイドに転倒している所を発見。自己にてベッドから降り着替えを取ろうとしゃがんだところ足がすべり、転倒したとのこと。右下肢痛、打撲痛、外傷なし。バイタル測定、当直医報告。様子観察となる。右大腿部痛持続 2/8 X - P 施行、右大腿骨頸部骨折の手術目的で 2/10 本院入院となる。

[S H E L L分析]

S H E L Lの分析方法を用いることでインシデント・アクシデントを起こした当事者の責任だけでなく、様々な背景要因があることがわかり、それらの要因を一つ一つ解決していくことが再発防止になり、安全管理につながるようになる。

S (ソフトウェア) S o f t w a r e	マニュアル、規定などシステムの運用に関わる形にならないもの 例： 職場の慣習・読みづらい説明書・新人教育・マニュアルの有無
H (ハードウェア) H a r d w a r e	医療機器、器具、設備、施設の構造 例： 原因機材・作業台・寝衣・履物・補助具
E (環境) E n v i r o n m e n t	物理的環境（照明、騒音、空調）だけではなく、仕事や行動に影響を与える全ての環境 例： 保管場所・業務範囲・労働条件・勤務時間・作業件数・仕事の困難さ 職場の発言のしやすい雰囲気
人間（当事者） L i v e w a r e	事故・インシデントに関わった本人 例： 心身状態・経験・知識・技術的問題・心理的要因
人間（他人） L i v e w a r e	事故・インシデントに関わった他のスタッフや他職種《心身状態・経験・知識・技術》 例： 患者自身や家族の誘因《年齢・安静度・A D L・内服中の薬剤》

例

部署名：	●階病棟
開催日：	平成●年●月●日（月）10：00～
参加者：	●医師・●PT・●PT・●N s
事例：	患者：●● 患者ID：● 82歳 性別：男性 病名：脳梗塞後遺症・胃がん術後。 入院当初より高次脳機能障害により、危険認知能力の低下や、失調・失認あり。 ●月●日23時、ナースコールが鳴り、訪室すると自分でベッド柵を外しベッド下へ転落されているところを発見。 入院時よりベッドの離床センサーは設置していたが作動せず。 確認時にはセンサーのスイッチが切られた状態であった。

	要 因	改 善 策
S o f t w a r e	センサーのスイッチは常にONで、入り切りの確認用チェック用紙は無かった。	ベッド柵とベッドの頭部・下肢側の板の隙間に下肢・上肢が挟まらないように、ベッド柵カバーを作成し装着した。（ベッド柵カバーは厚手の保護性の高いものとした）夜間はベッド下周辺に衝撃吸収マットを敷き、転落・転倒時の衝撃の軽減が出来るよう対応した。離床センサーについては、各勤務帯での確認を行い、ケア実施表にチェックするようにした。
H a r d w a r e	部屋はステーションに一番近い部屋。離床センサーは作動せず、物音に気づき訪室。	
E n v i r o n m e n t	夜間帯で2名は排泄ケア介助中。他1名は他のコールに対応中であった。	
L i v e w a r e	ステーションでカルテ処理中。 入職1年目。	
L i v e w a r e	他患者の排泄ケア介助中であった。	

☆改善策の効果についての検証

開催日：	平成22年11月10日（水）
参加者：	●医師・●Ns・●Ns・●介護福祉士・●介護福祉士
ベッド柵カバーを作成し、装着したことで、自分で柵を外す行為はなくなった。またベッドと柵の隙間も無くなり、上下肢が挟まるリスクも回避できたと考える。センサーについては、消灯前の確認を徹底することで、夜間帯のセンサーの不具合は現在のところ報告は無い。	

Ⅲ 委員会活動報告

院内感染防止対策委員会



副院長 下仮屋 道子

メンバー構成

久松 憲明（医師）
重信 恵三（医師）
下仮屋 道子（看護師）
三石 文江（看護師）
古園 光代（看護師）
半渡 美子（看護師）

門松 久美子（看護師）
岡野 光祐（薬剤師）
高 朋子（管理栄養士）
福永 和人（介護福祉士）
山邊 嘉晃（社会福祉士）
川路 大輔（介護福祉士）

榎畑 純二（理学療法士）
松元 清高（放射線技師）
本白水 忍（介護福祉士）
山邊 加奈（医事課）
牧 芳弘（事務局）

活動目的

- ① 医療施設において患者が原疾患とは別に新たに罹患した感染症
- ② 医療従事者等が医療施設内において、感染した感染症

これらは人から人へ、又は、医療行為の実施に伴い、医療器具等を媒介して発生する。特に、免疫力の低下した患者、小児、高齢者等の易感染者は、通常の病原微生物のみならず、感染力の弱い微生物によっても感染症を発症する可能性が高い。また、近年はノロウイルス感染症の流行や、SARS、新型インフルエンザなど新たなウイルス性感染症の発症が報告されるなど、院内感染対策は益々その重要性を増している。このため、すべての患者が感染症を保持し、常に院内において感染症が発症する可能性を秘めていることを前提として対処する「スタンダードプリコーション（標準的予防対策）」の観点に基づいた医療行為を実践する。

また、院内感染防止対策は、病院全体として取り組むことが重要であるとの認識に立ち、院内感染の拡大の防止、発生原因の究明、院内環境調査、職員研修の開催などに取り組むものとする。

活動内容

1. 院内感染防止対策委員会の開催

当院における院内感染に係る検査や防止策の実施、並びに院内感染防止に係る諸問題を検討するため、院長を委員長とする院内感染防止対策委員会を設置。委員会は、月1回定例的に開催した。

〔委員会開催状況〕

開催日	出席数	主な議事
4/30	18 名	感染情報 ・ 新型インフルエンザワクチン接種について
5/28	18 名	感染情報 ・ 22 年度感染対策について
6/25	18 名	感染情報 ・ 22 年度院内感染対策防止対策研修について
7/30	18 名	感染情報 ・ バーベキュー時の食中毒予防について
8/27	18 名	感染情報 ・ 鹿屋保健所よりの流行性耳下腺炎について
9/24	18 名	感染情報 ・ 環境清掃、家族が感染症に罹患した時の職員勤務について
10/29	18 名	感染情報 ・ インフルエンザ、ノロウイルス、疥癬など発生時の保健所への届け出について
11/26	18 名	感染情報 ・ 伝染性膿痂疹に感染した児童の登園について
12/24	18 名	感染情報 ・ インフルエンザ、嘔吐の予防対策について
1/28	18 名	感染情報 ・ 県内で拡大中のインフルエンザ、ノロ感染症について
2/25	17 名	感染情報 ・ B 型肝炎ワクチン接種について
3/25	18 名	感染情報 ・ マスクの使用 ・ オムツ交換時のエプロン着用 ・ I C T ラウンド 等について

2. 院内感染防止対策のための職員研修

院内感染防止対策委員会は、教育委員会と連携し、全職員を対象として研修会を年 2 回以上開催し、職員の院内感染に関する意識と知識等の向上を図った。また、職員は院外の感染対策を目的とした学会、講習会、研修会等に積極的に参加して知識の向上に努めるとともに、院内への周知、情報共有についても配慮した。

〔院内集合研究〕

開催日	テーマ	講 師	参加数
6/21	食中毒の予防について	大隅地域振興局 衛生・環境科食品衛生係長 久木田 智之先生	175 名
2/28	みんなで取り組む感染対策	鹿児島県医師会病院 感染管理認定看護師 濱田 亜弥先生	129 名

※参加できなかった者全員に対しては、後日、伝達講習を行った。

〔院外研修〕

開催日	テーマ	講 師	参加数
12/4	感染対策	鹿児島大学医・歯学部附属病院感染管理認定看護師 折田 美千代先生	3 名

※同日に、参加者全員で研修内容の振り返りを行い、今回学んだこと、今後、業務に活かせること等をまとめた。

3. 感染症発生状況の報告及び情報共有

各部門にあっては、感染症患者を確認した際、所定の経路に基づき、院内感染防止対策委員会へ感染症発生の報告を行った。院内感染防止対策委員会は、臨床検査室に指示してウイルス検査等を行いその結果に基づき必要な処置、拡大防止策について各部門に指導した。

また、院内ネットワーク上の掲示板等を通じて院内に発生状況について周知を図った。新型インフルエンザ、ノロ感染者発生時は、グループウェアにアップして、法人全体で情報共有し、拡大防止に努めた。また、MRSA、緑膿菌等を含む感染者の情報は、ナースステーション内に設置のホワイトボードにて、他の職種へ情報伝達した。（個人情報保護には細心の注意を払った）

〔患者感染状況〕

	報告日	菌種名	部署	患者番号	内容	
22 年	4 月 3 日	MR S A	2 階病棟	1	喀痰 2+	マスク着用 糞便 少数
	4 月 16 日	MR S A	2 階病棟	2	喀痰 +	マスク着用 糞便 +
	4 月 17 日	MR S A	2 階病棟	3	喀痰 +	マスク着用
	4 月 20 日	MR S A	3 階病棟	4	喀痰 少数	マスク着用 死亡 (4/21)
	6 月 5 日	MR S A	2 階病棟	5	喀痰 +	マスク着用
	6 月 25 日	緑膿菌	3 階病棟	6	尿 少量	
	7 月 16 日	緑膿菌	2 階病棟	7	喀痰 +	自己排痰なし
	7 月 21 日	MR S A	3 階病棟	8	喀痰 +	マスク着用
	9 月 25 日	MR S A	外来	9	カテーテル尿 +	
	10 月 8 日	MR S A	外来	10	カテーテル尿 +	
	10 月 22 日	MR S A	外来	11	カテーテル尿 +	
	11 月 4 日	緑膿菌	3 階病棟	12	喀痰 2+	
	11 月 5 日	MR S A	外来	13	カテーテル尿 +	
	11 月 6 日	緑膿菌	外来	14	カテーテル尿 +	
	12 月 29 日	緑膿菌	2 階病棟	15	カテーテル尿 2+	
23 年	1 月 15 日	緑膿菌	3 階病棟	16	喀痰 2+	
	1 月 18 日	ノロ	3 階病棟	17	排便	他院からの持ち込み
	1 月 20 日	ノロ	3 階病棟	18	排便	他院からの持ち込み
	1 月 21 日	緑膿菌	2 階病棟	19	喀痰 +	マスク着用 退院 (2/8)
	1 月 24 日	緑膿菌	2 階病棟	20	カテーテル尿 +	
	1 月 27 日	緑膿菌	3 階病棟	21	喀痰 2+	
		MR S A	3 階病棟	22	カテーテル尿 +	
	2 月 9 日	MR S A	2 階病棟	23	喀痰 2+	
		緑膿菌	2 階病棟	24	カテーテル尿 +	
	2 月 25 日	緑膿菌	3 階病棟	25	喀痰 2+ 人工呼吸器管理	
		緑膿菌	3 階病棟		吸痰等の器具はディスポ使用	
	2 月 26 日	MR S A	2 階病棟	26	喀痰 + 個室隔離	
		MR S A	2 階病棟		吸痰等の器具はディスポ使用	
		MR S A	2 階病棟	27	喀痰 少数 完全介助 排痰なし	
	3 月 1 日	MR S A	3 階病棟	28	喀痰 少数 マスク着用 吸痰はディスポ	

4. 院内感染発生時の対応

各部門は、院内感染を疑われる感染症の発症事例を確認した後は、速やかに主治医および部門長に連絡し必要に応じて、感染拡大防止対策を講じた。

また、部門長は院内感染防止対策委員長に連絡し、必要に応じて緊急院内感染防止対策委員会を開催。対策委員長は病院全体として必要とされる処置、感染拡大防止策についても、各部門に指導した。併せて、発生原因の究明や再発防止策の立案等も行った。例えば、インフルエンザ、ノロ院内感染発生が疑われた時点で個室管理を行った。また、職員の体調不良時も早目に休みをとるよう指導、ブレイクアウトなしの達成には、毎朝各所属長が集合して行うミーティングで、患者や職員、家族の感染情報の交換を行い、早目早目の対策をとったことが功を成したと思われる。

5. 職員のワクチン接種について

感染症の未抗体化者には、感染被害・感染源にならないようワクチン接種を推奨した。

ワクチン接種状況

麻疹	ムンプス	風疹	B型肝炎
2	7	2	25

針刺し・・・1件発生

C型肝炎未抗体だったので、定期的内科受診を行い経過観察した。結果、状態悪化は無し。

6. その他の院内感染防止対策の推進

職員の日常的な院内感染防止対策の参考とするため、院内感染防止対策委員会が定めた「院内感染防止対策マニュアル」を各部門が常時閲覧できるよう、グループウェアにアップした。

I C Tによる環境監視を毎月1回実施し、指摘点の改善も速やかに行われた。

Ⅲ 委員会活動報告

褥瘡対策委員会



3F 病棟 主任 上之郷 千亜紀

メンバー構成

久松 憲明 (医師)	高 朋子 (管理栄養士)	橋元 弘美 (看護師)
高尾 一行 (医師)	大迫 洋介 (作業療法士)	柳谷 由佳 (准看護師)
堀ノ内 啓介 (医師)	畠添 礼子 (看護師)	上之郷 千亜紀 (看護師)
岡野 光祐 (薬剤師)	榎畑 瞳 (看護師)	

委員会活動の目的

1. 褥瘡の予防対策ならびに発生後の治療や対策を検討する。
2. 統一した評価法を用いることで職種を超えた情報の共有を図り、適切な治療やケアが提供できる。

委員会の活動内容

- 1、定例会議開催（毎月第4水曜日）
 - ①褥瘡発生のリスクが高い、もしくは褥瘡をすでに保有している患者の把握
 - ②治療内容の確認、適切な予防対策の検討
 - ③褥瘡保有患者の状況をより把握する為に、写真データを用いての現状確認
 - ④栄養・NST 委員会との連携・情報交換
- 2、褥瘡予防対策に必要な物品の購入・管理
- 3、退院時の患者・家族指導
- 4、退院先・在宅サービスとの連携
- 5、関連研修への参加

平成 22 年度の反省

褥瘡は、創そのものに対する治療だけでなく栄養面のサポートが重要といわれています。平成 22 年度の委員会の大きな変化としては、これまで褥瘡予防対策委員会単独で行っていた定例会議を、栄養・NST 委員会と同時開催するようにしたことです。栄養・NST 委員会と連携を図ることで、これまでの褥瘡保有者に対する栄養サポートだけにとどまらず、褥瘡発生リスクのある患者に対する予防的栄養サポートができるようになりました。また、褥瘡予防対策委員会が提示する写真データ等の確認を多職種で行うため、栄養サポートを含む治療効果の確認が行いやすく、情報の共有にもつながっていると考えています。このことが実現できたのも、栄養・NST 委員会のメンバーや関連部署の方々の協力があったのことに感謝しています。今後も連携を図りながら、褥瘡予防と褥瘡保有者の早期治癒に努めていきたいと考えています。

Ⅲ 委員会活動報告

看護・介護部教育委員会



外来 主任 半渡 美子

メンバー構成

下仮屋 道子（看護師） 有村 亮一（介護福祉士）
半渡 美子（看護師） 鎌田 克也（介護福祉士）
下岩 広子（看護師） 梶原 エミ（介護福祉士）
脇元 小百合（看護師）

活動の目的

社会や組織から期待される役割を遂行できるよう段階的、領域的研修の充実を図る。

活動内容

1. 院外・院内教育プログラム（年間計画）の立案、実施、評価
2. 研修会参加支援
3. 看護図書管理
4. 教育に関する情報提供
5. 定例会議実施（毎月）

平成 22 年度の反省

院外研修においては、看護協会主催の研修に看護師は 100%参加し、昨年課題だった介護職の研修参加については、教育委員や師長達の呼びかけによって 90%と参加率が上昇しました。院内現任研修ではラダーを取り入れたプログラムを計画、師長・主任・リーダーやコメディカルの主任さん方にも講師を依頼し、計画通りの 18 項目の研修を開催することができました。参加に関しては、一項目にこだわらず習得したい項目があれば二項目以上の参加できる状況で実施しました。「業務時間内の研修であり参加しやすい・少人数制の研修で質問も出しやすい」との意見もあり、参加率は今年度もほぼ 100%達成しました。今後も、研修の内容の充実を図っていききたいと思います。

院内現任研修会活動内容

開催日	講師名	研修会名・内容	参加数
5/14	下仮屋 道子（副院長）	行動計画書・BSC はなぜ必要か	8 名
6/4	上ノ堀 ゆかり 辻 良子（介護福祉士）	感染予防（共通Ⅰ）	8 名
6/11	上妻 めぐみ（看護師）	感染予防（共通Ⅱ）	11 名
7/2	豊重 友美（看護師）	退院時における患者管理（役割Ⅰ）	5 名
7/9	山中 ちや子 上鶴 奈穂子（看護師）	回復期の看護（共通Ⅰ）	6 名
7/16	古園 光代（看護師長）	事故予防（共通Ⅰ）	10 名
7/23	坂元 麻子 上之郷 千亜紀（看護師主任）	回復期の看護「排泄管理」（共通Ⅱ）	11 名
8/6	山邊 嘉晃（MSW 主任）	退院への援助（共通Ⅰ）	8 名
8/20	下甫木 猛（言語療法士）	嚥下造影と嚥下内視鏡（共通Ⅱ）	5 名
9/3	半渡 美子（看護師主任）	現任教育（共通Ⅲ）	8 名
9/10	高 朋子（栄養科主任）	回復期看護「栄養管理」（共通Ⅱ）	7 名
9/17	牧 芳弘（事務局主任）	災害対策（役割Ⅰ）	9 名
10/8	門松 久美子（看護師長）	人間関係の調整（役割Ⅱ）	4 名
11/19	三石 文江（看護師長）	看護部方針の組織運営（役割Ⅲ）	9 名
12/10	末廣 さやか（医事課）	医療保険制度について（役割Ⅳ）	7 名
1/14	牧 芳弘（事務局主任）	災害対策（役割Ⅳ）	4 名
2/4	川路 大輔（通所リハ主任）	介護保険について（役割Ⅳ）	4 名
2/10	門松 久美子（看護師長）	人間関係の調整（役割Ⅲ）	9 名

Ⅲ 委員会活動報告

NST 委員会

nutrition support team ~ 栄養サポートチーム ~



栄養管理科 主任 高 朋子

メンバー構成

久松 憲明 (医師)	橋元 弘美 (看護師)	石橋 ひとみ (言語聴覚士)
高尾 一行 (医師)	東八重 直孝 (准看護師)	岡野 光祐 (薬剤師)
堀ノ内 啓介 (医師)	大中原 加奈子 (介護職)	江口 尚子 (管理栄養士)
畠添 礼子 (看護師)	中野 江美 (言語聴覚士)	高 朋子 (管理栄養士)

活動の目的

栄養管理はすべての治療の基盤であり、全ての患者は適切な栄養管理を必要とする。委員会では、特に重症度の低栄養状態の患者に対し各専門職が連携し適切な栄養サポートを行う。

活動内容

- ・全入院患者に対し栄養スクリーニングを行い、対象者となる症例を挙げ適切な栄養管理方法についての検討。
- ・栄養管理についての勉強会を開催。

	テーマ	アドバイザー	参加数	場所
7 月	栄養スクリーニング項目の意味と活用について (体重・BMI・体重減少率)	栄養管理科・高 朋子	8 名	2 階カンファレンスルーム
9 月	血清 Alb 値について	栄養管理科・高 朋子	10 名	
11 月	ピオクタニンソルベースの有用性について	薬剤管理科・岡野 光祐	11 名	
12 月	必要エネルギー量の算定方法	栄養管理科・高 朋子	8 名	
1 月	必要たんぱく質・脂質量・水分量の算定方法	栄養管理科・高 朋子	9 名	
3 月	経管栄養剤について	栄養管理科・高 朋子	7 名	

平成 22 年度の反省

平成 22 年度より新しい回復期リハビリ病棟の栄養スクリーニング判定基準と NST 情報用紙の活用を行いました。スクリーニングの結果で NST 対象者として挙げたのは総患者数の 14%でしたが、その内、「嚥下カンファレンス対象の方」・「体重減少率は高いが BMI が正常な方」・「食事摂取量は十分で必要栄養量は満たされている方」は、NST の対象者から外すことも決定し、NST での症例検討を行った方は総患者数の 9%となりました。平成 21 年度は NST 対象者 26%だったことから、新しい栄養スクリーニングにより重度の低栄養状態の方が抽出されるようになったのではないかと考えます。対象者となったスクリーニング結果の割合は低 Alb 値 (Alb3.0g/dl 以下)58%、褥瘡 22%、体重減少 20%でした。また、今年度より褥瘡予防対策委員会との合同開催を行いました。褥瘡がある方は全員 NST の対象者として挙げられ、褥瘡の状態と栄養管理の確認、現在使用している薬剤やマット、体位についての検討を行うことができました。ほとんどの方が約 1 ヶ月の間に治癒傾向となる結果が得られました。今年度は NST 介入によりそれぞれの項目でどれだけの人が改善したのか統計をとりませんでした。来年度は統計をとれるようにしたいと考えています。

Ⅲ 委員会活動報告

栄養委員会



栄養管理科 主任 高 朋子

メンバー構成

久松 憲明 (医師)	大中原 加奈子 (介護職)	福永 和人 (介護福祉士)
高尾 一行 (医師)	大山 千代子 (看護師)	小出水 良子 (介護職)
堀ノ内 啓介 (医師)	中野 江美 (言語聴覚士)	江口 尚子 (管理栄養士)
畠添 礼子 (看護師)	石橋 ひとみ (言語聴覚士)	高 朋子 (管理栄養士)
東八重 直孝 (准看護師)		

活動の目的

食の安全性を確認し、喫食者の必要な栄養量の確保をするために喫食量の向上を目標とし、入院生活での楽しみや癒しとなりえるような食事内容の検討を行い、更に衛生管理についての啓蒙を行う。

活動内容

- ・ 食事内容の検討、改善
- ・ 衛生管理 (食中毒、ノロウイルスについて)
- ・ 嗜好調査の実施、結果報告
- ・ 院内関係部署との連携および調整
- ・ その他食事・栄養に関する事項

平成 22 年度の反省

病院給食を食べている全部署の代表が参加し、給食について幅広く意見や提案をもらい、日常の食事から行事食、給食運営についての検討を行うことができました。日常の食事では、味付けや食材の硬さ、形態の食べにくさ、献立上の食材の重なりなど、細やかな部分についても意見が出され一つ一つ改善を行いました。しかし、硬くて食べづらい食材については調理方法などの更なる検討が必要となりました。行事食は、通常使用しない「松花堂弁当」や「盛付台」などを使用する際に、疾病により使用できない患者さんに対しての調整を行いました。また、特別な食材を使用する場合は全員で試食をし、嚥下障害のある方や認知症の方でも安全に食べられるかなどの確認を事前に行い、安心して行事食を食べていただけるようにしました。その他給食管理の運営については、グループホームやサポートセンターへの食事提供で料理を人数分まとめて運ぶスタイルの為、量や盛り付け方がわからないという意見をふまえて見本を作るなどの対応を始めることができました。衛生管理については、食中毒とノロウイルスの発生しやすい時期に啓蒙を行いました。食事は喫食者の個々の味覚・視覚・嗅覚などの違いにより様々な細かい点が問題としてあがりやすいのですが、委員会を通して意見のとりまとめを行い、今後も安全で安心なおいしい食事を提供できるようにしていきたいと考えています。

Ⅲ 委員会活動報告

回復期リハビリテーション病棟活動

職員勉強会

リハビリテーション科



藤川 寿史

メンバー構成

藤川 寿史 (理学療法士)

山下 真司 (理学療法士)

山中 ちや子 (看護師)

豊重 友美 (看護師)

半渡 正直 (准看護師)

山下 恵万 (社会福祉士)

活動の目的

回復期リハビリテーション病棟に関わる多職種で合同に勉強会を行い、回復期リハビリテーション病棟の質の向上を図る。

平成 22 年度の活動内容

	開催日	タイトル	担当発表者	参加者
第 1 回	7/29	重度頸髄損傷患者の在宅復帰に向けての取り組み	重信恵三 Dr、有村陽子 PT、金子信夫 OT、野間瑞恵 Ns、中野早苗 CW、山下恵万 MSW	65 名
第 2 回	10/27	片麻痺患者と家族の関わり～早期からの介護指導介入～	堀ノ内啓介 Dr、柿木誠 PT、松山浩仁 OT、楠田裕美 Ns、大津俊昭 CW、山下恵万 MSW	72 名
第 3 回	1/27	重度感覚脱失と注意障害を呈した患者のトイレ動作獲得に向けて	久松憲明 Dr、小山田登洋 PT、内田枝里 OT、平原いずみ ST、川元美穂子 CP、長谷川明子 Ns、能満美鈴 CW、山邊嘉晃 MSW	79 名
第 4 回	3/2	パーキンソニズムを呈した患者の排泄、移乗、移動動作の獲得と嚥下機能の改善	堀ノ内啓介 Dr、岩崎ゆかり PT、大迫洋介 OT、平原いずみ ST、米満美寿子 Ns、上田真由美 CW、山邊嘉晃 MSW	62 名

平成 22 年度の反省

平成 22 年度は回復期勉強会の取り組みとして、症例検討会を 4 回実施しました。難渋した症例や他職種での関わりが重要であった症例を、医師・コメディカルスタッフ全員の視点から振り返り発表するという形式で行いました。関わったスタッフ全員で発表を行ったためまとめる作業が大変だったという意見もありましたが、症例を振り返る良い機会になったという意見や他のスタッフの取り組みを知る事ができ参考になったという意見も多くあり、意義のある症例検討会になったのではないかと思います。今後の課題としては、他の委員会活動との日程や活動内容の調整、発表に関わるスタッフへの負担の偏り、全職種での満足度の向上があります。全員が前向きに参加できる活動を目指し、内容や発表方法を工夫していければと考えています。

Ⅲ 委員会活動報告

回復期リハビリテーション病棟活動

ワークショップ

リハビリテーション科 主任 児玉 興仁



メンバー構成

児玉 興仁（理学療法士） 室屋 秀憲（言語聴覚士） 山下 洋子（准看護師） 小串 順子（介護福祉士）
松山 浩仁（作業療法士） 清水 まゆみ（看護師） 西山 正子（介護福祉士） 串町 のぞみ（介護福祉士）
有村 陽子（理学療法士） 竹之下 明彦（介護福祉士） 山邊 嘉晃（社会福祉士）

活動の目的

H22 年度のワークショップ活動は前年度取り組んだ『チームアプローチ（チームワーク）の向上』から更に発展させた『チームアプローチの実践』をテーマに、おぐりハ病院ならびに在宅介護事業部門の職員を対象に取り組みました。

活動の内容

今年度のモットーは『個々がそれぞれの役割を責任をもって遂行し、目的に向かって結果を導き出す』とし、おぐりハ職員・在宅介護事業部門の職員を 10 のグループに分け、各々が企画・運営に携わりそれぞれの目標達成に向け取り組んできました。前年度同様、各グループの活動報告会（目的・活動内容・活動状況・成果・反省）として 3 回シリーズでワークショップを行いました。

平成 22 年度の反省

『チーム力の向上』を掲げて 2 年目を迎えるグループワークでの活動は、病院全体や周辺地域へ様々な功績を残してくれたのではないかと感じています。アンケート結果からも『病院全体に活気がみられた』『地域・患者に貢献できた』『他部署との関わりが持てるようになった』等の意見も頂き、今回の活動は成功だったのではないかと思います。

また、今回の活動を通して学んだ事として、単に『チーム力向上』とは言っても、一つの『チーム（組織）』がまとまりあるものに成長するには、多大なる努力（労力）と時間が必要になる事を改めて実感した次第です。忙しい業務の中でそれぞれのグループが様々な問題に直面しながらもそれを打開し、素晴らしい結果を残して頂いた事にワークショップ委員一同感謝しています。

来年度からディスカッションスタイルに戻し、回復期病棟に関わる活動として様々な内容に取り組んでいきたいと思っています。

【開催内容】

第 1 回 『H22 年度活動方針報告会 ～チームアプローチの実践に向けて～』

開催日：平成 22 年 6 月 10 日（木）

第 2 回 『各グループ活動中間報告会 ～現時点での経過と反省～』

開催日：平成 22 年 11 月 19 日（金）

第 3 回 『H22 年度活動最終報告会 ～結果とまとめ・反省～』

開催日：平成 23 年 3 月 25 日（金）

目的・活動内容	反省
おぐりハ癒し隊 ～癒しの時間や空間を提供～	
リーダー：山崎 美雪	
◎入院生活で落ち込みがちな患者さん、利用者さんに向けて、癒しの時間や空間の提供を行う。	・他職種との交流が図れ、会話が增えた。・仕事の中で色々な提案ができるようになった。・患者さんに喜んでもらえたと思う。・最初よりまとまりがあり、2回とも大成功。・出来ないと思っていた事を皆で取り組むことで達成することができた。・病院生活という気分の落ち込みやすい中で癒し隊の活動が短時間ではあったが娯楽になったと思う。・皆、得意分野をあわせれば学びにもなり、良い発表ができる。
チーム0（ゼロ） ～郷愁 ～「しめ飾り作り」	
リーダー：去川 厚彦	
◎高齢者にとってワラ（藁）を使って色々な道具を作っていたことを懐かしんでいただく。◎正月に飾るしめ飾りを入院患者さんのために作って差し上げた。	・高齢者の多くは昔を懐かしんでおられた。 ・患者さんが喜んでいる顔が見れた。 ・一つのことに對してみなが一丸となって一生懸命やっている姿がみることができた。
A K B 1 8 ～写真やイベントを通し、患者さんに四季を感じて頂く～	
リーダー：末吉 加代子	
◎四季折々の写真を撮影し、3階病棟、デイルームに掲示。 ◎入院中でも、四季を感じることができるようイベントの企画・運営を行う。	・それぞれが声を掛け合い動けるようになり作業効率が上がった。・患者・スタッフにとって、行事と一緒に体験することは気分転換や思い出作りになった。・季節の写真では、患者との話題の提供にもなり喜ばれる場面が見られた。
Fujikawa Japan ～不足物品を手作りしよう～	
リーダー：藤川 寿史	
◎尿とりカバー：20枚 ◎吸痰瓶カバー：25枚 ◎クッション：30個 ◎アームスリング：3個 ◎各病棟・デイルームで使用!!	・患者さんの生活に目を向けることができた。 ・実際に病棟で活用されている。 ・班活動で全員が取り組めた。
Wリバー sun ～共に感じ、共に育つ～	
「院内に緑を増やすことで癒しを提供する」	
リーダー：川村 幸裕	
◎おぐりハ菜園の作成 ◎患者さんと一緒に苗植え会、水やり、収穫など行った◎育てた物：枝豆、ミニトマト、ポータチュラカ(7/30～)、イチゴ(10/21～)	・活動を通して、患者さんと交流でき共感を持てることができた。患者の方が知識や知恵があると感じた。・活動を協力してやり遂げることで、コミュニケーションが取りやすくなり、スタッフ間での患者さんの情報交換がしやすくなった。
いちご ～癒しの提供～	
リーダー：町田 賢穂	
◎化粧水作り&ペーパークラフト製作 ◎劇（水戸黄門） 患者さんに対し気分転換や癒しを目的に活動を実施。	・病院や患者家族の為に何が出来るのか考える良い機会になった。・他職種との交流を深める機会にもなり、業務でのチーム力向上につながった。・年間を通して活動のモチベーションを保つのが難しかった。・チーム内での積極性に差があり、参加率にもムラがあり、一部の人の負担が大きくなる部分があった。
クリーン676 ～みんなの街をきれいにしよう～	
リーダー：牧 美津子	
◎ゴミ集めを通して地域を回ることにより、グループホーム、サポートセンターの存在を知って頂く ◎地域に貢献したい	・天気によって活動ができなかったことがあったので雨天時に何か別な活動を考えておいて実行しても良かった。・地域へのアピールは多少なりともできたが、地域に溶け込むには至らず地域密着への難しさを感じた。・他部署との交流が持て、スタッフ間でコミュニケーションが生まれた。
チーム west ～有意義な時間の提供～	
リーダー：豊栄 峻	
◎散歩コースのポスター製作 ◎あさがおの種植え 入院患者さん・デイ利用者の歩行練習の目標を立てやすくなるよう、また空き時間を有意義に過ごしていただけるように実施する	・他部署の方と接することができていろいろな考え方（視点）をえることができた。・+α：部署によっては普段は接する機会も少なかったりする。それが今回、コミュニケーションをとることができてよかった。・具体的な活動を考えることが難しかった。
解決プロチーム ～福祉マップ作り～	
リーダー：鷺塚 朋子	
◎鹿屋市内で、障害者等が安心して行ける場所（障害者トイレ・車椅子配置数・AED設置状況など）を把握し、マップ作りを行う	・鹿屋市内の障害者に対する整備状況を知ることができた。 ・障害者の視点でも物事をみるようになった。 ・メンバー全員が目的達成に向けて、積極的に取り組んだ。
湯つてい ～直接患者さんを癒す～	
リーダー：大迫 洋介	
◎患者・家族を対象にアロマ石鹸づくり体験 ◎2階病棟入院中の患者さん対象に足湯の提供	・活動を通して患者の笑顔を見たり変化を感じることでスタッフのモチベーションも向上し、活動が行いやすくなった。・スタッフ間でのコミュニケーションをとることも増えた。

Ⅲ 委員会活動報告

回復期リハビリテーション病棟活動

家族勉強会

3F病棟 准看護師 小石田 昭子



メンバー構成

久松 憲明 (医師)	小石田 昭子 (准看護師)	坂元 小百合 (介護士)
湯地 聡子 (看護師)	濱川 明美 (理学療法士)	山元 さゆり (クラーク)
野間 瑞恵 (看護師)	内倉 涼子 (介護福祉士)	川原田 理沙 (クラーク)
下飯屋 奈々 (作業療法士)	松窪 厚子 (介護福祉士)	児玉 輝代史 (社会福祉士)
池畑 和子 (看護師)	桑鶴 隼 (作業療法士)	

活動の目的

患者さんの退院後の生活においてはご本人の努力はもとより、ご家族の協力がとても大切です。当院では患者さんの退院後の生活に向けて必要な疾病に関わる様々な知識を共有していただく為にご家族への勉強会を行っています。

活動内容

22年度は、自宅で出来る機能訓練・入浴トイレ動作の介助方法等実技体験を踏まえた介助技術教室を取り入れるなど、様々な内容で勉強会を実施し、参加者の皆さんからも好評をいただきました。今後、他の勉強会でも実技参加型を取り入れられるように計画し、実施していきたいと思います。また、勉強会当日に配布する資料はカラーコピーとし、スライドは見やすいようにスクリーンを使用し参加者が理解しやすいように工夫しました。運営に携わった家族勉強会スタッフ、またアドバイザーを快く引き受け準備を行った各スタッフ、参加して下さった患者さん、ご家族皆様の力で家族勉強会は成り立っています。さらに努力を重ね充実した勉強会にしていこうと思います。

平成22年度家族勉強会内容

月	テーマ	アドバイザー	参加数	開催場所
5月	社会資源のワンポイントアドバイス	山下 恵万 (社会福祉士)	45名	2階食堂
6月	身体にやさしい食事のポイント	高 朋子 江口 尚子 (管理栄養士)	30名	3階食堂
7月	ストレスマネジメントについて	川元 美穂子 (心理士)	24名	2階食堂
8月	脳卒中について	堀ノ内 啓介 (医師)	33名	3階食堂
9月	介護方法のワンポイントアドバイス	楠田 裕美 畠添 礼子 (2階病棟看護師) 北方 瞳 (介護士)	32名	2階食堂
10月	嚥下・口腔ケアについて	平原いずみ 中野江美 (言語療法士) 永吉さゆり (歯科衛生士)	32名	3階食堂
11月	家族のための家リハ ～自宅で出来るリハビリテーション～	理学療法士 作業療法士	46名	リハビリ室
12月	介護保険での住宅改修について	児玉輝代史 (社会福祉士)	20名	2階食堂
1月	入浴・トイレ動作の介助方法について	理学療法士 作業療法士	33名	リハビリ室
2月	骨粗鬆症について	久松憲明 (医師)	40名	3階食堂
3月	介護方法のワンポイントアドバイス	野間瑞江 池畑和子 (3階病棟 看護師) 内倉涼子 (3F病棟 介護士)	27名	3階食堂

Ⅲ 委員会活動報告

排泄ケアチーム



2F 病棟 看護師 上妻 めぐみ

メンバー構成

久松 憲明 (医師)	加藤 理恵 (看護師)	有村 陽子 (理学療法士)
野元 佳子 (医師)	長谷川 明子 (看護師)	岩元 祐子 (理学療法士)
坂元 麻子 (看護師)	牛渡 高江 (看護師)	中畑 敏秀 (理学療法士)
上之郷 千亜紀 (看護師)	永吉 春美 (介護福祉士)	大迫 洋介 (作業療法士)
上妻 めぐみ (看護師)	中窪 恵美子 (介護福祉士)	

活動の目的

排泄障害を有する患者さんの排泄機能を評価、治療、排泄動作訓練を行う事で生活の質の向上を図る。

活動内容

入院患者さんの在宅復帰条件として、多くの方が「排泄動作自立」を挙げられます。H 20 年に発足した当チームは、そのような患者さんの希望に少しでも近づけるように毎週行われる排泄カンファレンスや月 1 回の排泄ケアチーム会で排泄自立に向け適切な関わり方を検討、評価しています。

平成 22 年度の反省

排尿日誌や個々の患者さんに適切な排泄動作獲得方法など、担当スタッフがチームとして話し合い、評価しあう場面が多く見られるようになりました。又、排泄に対する患者さんの尊厳を大事に考える姿勢が自然と出来るようになっていきます。今年度は排便コントロールにも着目し、ブリストールスケールを用いた評価も行ってきました。今後は排便コントロールにおいて疾患や介護負担等を考慮し、ブリストールスケールを活用した評価が定着していければと考えます。

Ⅲ 委員会活動報告

高次脳機能チーム



2F 病棟 看護師 清水 まゆみ

メンバー構成

久松 憲明 (医師)	柏木 美紀 (作業療法士)	西 さなえ (介護福祉士)
野元 佳子 (医師)	新保 千尋 (理学療法士)	半渡 正直 (准看護師)
瀬戸山 明子 (臨床心理士)	末吉 加代子 (理学療法士)	下岩 広子 (准看護師)
川元 美穂子 (心理士)	川瀬 克則 (理学療法士)	西牧 里枝 (看護師)
下飯屋 奈々 (作業療法士)	石橋 ひとみ (言語聴覚士)	清水 まゆみ (看護師)
豊栄 俊 (作業療法士)	山下 恵万 (社会福祉士)	
金子 信夫 (作業療法士)	中野 早苗 (介護福祉士)	

活動の目的

高次脳機能障害を有する患者さんへの理解を深め、関わる全スタッフがチームとして統一した対応が行われるように啓発する事を目的として発足。

活動内容

初年度はチーム内での知識、意識の向上を目指し1回/月で勉強会を中心に行ない、実際の患者さんの問題行動を検討し統一した対応を目指した。二年目に突入の今年度は下記の活動計画を立案し実行した。

1. 左半側空間無視についての意識調査
2. 空間無視、失語症についての全スタッフの知識の向上目的にて勉強会の開催
※失語症に関しては調整が図れず未開催
3. 日付の見当識へのアプローチ
4. 個別に高次脳障害を呈する患者さんへの対応の検討

日付見当識は関わるスタッフ間で連携を図り、長谷川式簡易知能評価スケール (HDS-R) 値が平均2～3上がる効果を得る結果も残せた。日付への意識付けの必要性を認識し現在では必要な患者さんにはカレンダーをキャビネットに貼るようにしている。又、患者さんへの統一した対応の検討も1回/月では不十分と考え、病棟単位での話し合いも1月から開始し情報交換を行なってる。

3年目を迎える次年度は、再度スタッフへの知識の向上を目的に勉強会を計画し認識度を高めると共に、限られた入院期間のなかでの充実したりハビリを提供できるよう一歩進んだ取り組みを検討していきたい。

Ⅲ 委員会活動報告

摂食・嚥下チーム



2F 病棟 看護師 米満 美壽子

メンバー構成

野元 佳子	(医師)	小脇 友美	(准看護師)	浜田 美幸	(歯科衛生士)
古園 光代	(看護師)	和田 妙子	(介護福祉士)	中川 久子	(歯科衛生士)
米満 美壽子	(看護師)	小牧 寿	(介護福祉士)	平原 いずみ	(言語療法士)
門倉 洋子	(看護師)	永吉 さゆり	(歯科衛生士)		

活動の目的

患者さんの口腔内保清を徹底し、摂食・嚥下機能の改善を図る。

活動内容

- ・ 患者さんの食事摂取状況の把握
- ・ 経鼻カテーテル挿入、注入のマニュアル作成（来年度で実施予定）
- ・ 経鼻カテーテル、イリゲーター消毒の統一化
- ・ 簡易懸濁法の勉強会～マニュアル作成～実施摂食機能障害のマニュアルの見直し（言語療法士）
- ・ 摂食機能評価の認識度のアンケート実施～特記事項記入、サイン洩れ防止の充実化
- ・ 嚥下カンファレンス、対象患者さんの摂食機能アップを図る
- ・ V F 実施時、スタッフの見学参加

平成 22 年度の反省

前年度の勉強会の成果で、口腔ケアマニュアルに沿って、スタッフの統一した口腔ケア援助が確立し、患者さんの口腔内トラブルが激減してきています。また、病棟歯科検診の充実で、齲歯、義歯調整、義歯作成などの治療効果もあり、食事摂取量アップにつながっていると考えられます。

簡易懸濁法のマニュアル作成で、薬剤効果減少や注入トラブルなく実施できているので今後は経鼻カテーテル挿入、注入のマニュアル作成から実施に取り組む予定です。摂食機能評価はアンケートを実施し、記入法の指導などで、スタッフの認識度がアップしてサイン洩れが減少傾向となっており、今後も意識付けの必要があります。

さらに嚥下カンファレンスの対象患者さんの情報共有ができ、摂食嚥下機能がアップするよう全スタッフで取り組んでいきたいと思ひます。

Ⅲ 委員会活動報告

病院環境チーム



事務局 稲村 早苗

チームメンバー

久松 憲明 (医師)	門松 久美子 (看護師)	エム・コーポレーション (清掃委託業者)	3 名
重信 恵三 (医師)	半渡 美子 (看護師)		
下飯屋 道子 (看護師)	榎畑 純二 (理学療法士)	プラチナ (植物管理委託業者)	2 名
三石 文江 (看護師)	牧 芳弘 (事務)		
古園 光代 (看護師)	稲村 早苗 (事務)		

活動の目的

患者さん病院スタッフを問わず、病院を訪れるすべての人にとって、病院で過ごす時間が、より快適で整った環境である事を目指す。

活動の内容

本年度より「病院スタッフに今まで以上に病院に愛着をもってもらい、病院の環境に興味をもってもらおう」という目的のもと、スタッフが自分達で出来る所は自分達の手で清掃をする事にしました。それに伴い、環境チームメンバーによる毎月 1 回の院内ラウンド活動も開始し、普段の業務中には気付き難い部分や、患者さんの目線で見て気になる箇所の、整備・清掃に取り組みました。

平成 22 年度の反省

病院スタッフが日常の清掃に加わるようになった事で、日頃から掃除しやすい状態を保つ事と出来るだけ汚さない環境が整ってきたように思います。また、環境チームのメンバーがラウンド活動をする事により、普段使用しているスタッフでは気付き難い部分が是正され、特定のスタッフしか使用していなかった場所も徐々に整備されてきました。さらに平成 22 年 11 月からは、グループホームとサポートセンターまで対象範囲が広がり、チームメンバーも増えました。来年度は、介護事業部門の環境整備に力を入れる事と、病院スタッフの働きやすい環境作りという点にも目を向けていきたいと考えています。

清掃委託業者 「(株)エム・コーポレーション」

心掛けていること

- ・ 患者様第一
- ・ 失礼のない言葉遣い
- ・ 感染は最小限に抑える
- ・ 身なりはきちんと

反省

会社で年1～2回、業者さんによる勉強会が行われます。

受け止め方が個々違ってくると思うので、私たちは全員出席するようにしています。後日皆で意見を出し合い、納得するまで話し合っています。それでも腑に落ちない所は、会社と連絡して納得するまで徹底的に話し合い、答えを出しています。私たちには、それだけの責任があると思うのです。そうする事によって全員が同じ方向を向いて行動できると思っています。患者様の「いつも綺麗に掃除してあるのね」そのお言葉とても嬉しく思います。昨年より環境ラウンドチェックも始まり、自分の目以外の視線で清掃箇所を見てもらい、以前より細かい所まで気が付くようになった気がします。良いチャンスと思い、心機一転これからもまだまだ頑張っていきます。そしてこれからも患者様お一人おひとりが少しでも良い環境でリハビリに専念する事が出来るように努力していきたいと思います。その為には、私たちが出来る事を可能な範囲で、精一杯行動していく事だと思っています。



植栽チーム 「プラチナ」

目標

1年を通して草花や観葉植物を育て、癒しの環境を提供する。

反省

おぐりハの植栽事業をはじめて3年目を迎えました。一年間の流れがつかめ、作業が段取りよく行えるようになった年でした。そういう中で、毎年花が楽しめるよう球根を植えたり、喫煙所に緑のカーテンの設置を試みました。夏の終わりにできた朝顔やひまわりの種は小袋に詰め、欲しい方に持ち帰っていただくようにしました。また、年末から年始にかけて、葉牡丹を使い干支のうさぎを表してみました。患者さんがたに楽しんでいただけたのではないかと思います。作業中には患者さんや面会の方に声を掛けて頂くこともあり、励みになります。観葉植物の防虫など課題はありますが、少しでも心和む環境を提供できるよう心がけたいと思います。



IV . 教育的活動報告

恒心会全体研修	76
接遇研修	77

V . 社会的活動報告

見学・体験等受け入れ状況	78
ボランティア紹介	78
大隅圏域 地域リハビリ広域支援センターとしての活動	79

VI . 統計調査報告

入退院の状況, 疾患別入院患者構成比率, 診療報酬上の質の評価	81
退院患者疾病構成推移	82
入退院時の F I M の変化	83

VII . その他関係資料

投書箱	84
職員満足度調査	85
掲示板コンクール	86
開院 10 周年記念霧島感謝旅行	87
院内アルバム	88
病院運営方針 (院長発表)	89
年間行事	90
職員名簿	91
患者様の権利章典	93
倫理綱領	94

1. 平成 22 年度 医療法人恒心会 全体研修

開催 日	研修およびテーマ	研修のねらい・目的	講師名	法人全体 出席者数	当院 出席者数
4/15	「NST 研修」 NST と栄養管理	早期回復のための職種 をこえたチーム医療の重 要性を学ぶ	森田 優子先生 (テルモ株式会社)	159 人	53 人
6/5	「第 1 回 医療安全研修」 胃ろう造設患者の管理について」	専門性の高い医療・ケア の内容を学ぶ	小倉 芳人先生 (独立行政法人 南九州病院外科部長)	247 人	47 人
6/21	「第 1 回 感染対策研修」 1 班 食中毒の予防について	食中毒の原因菌を知り、 予防に努める	久木田 智之先生 (大隅地域振興局 食品衛生係長)	243 人	104 人
6/26	「フィッシュ哲学研修」 魅力ある職場作り	よい医療・よいケアの提 供のために職員の心身の 活性化を図る必要性を学 ぶ	大水 実美名子先生	211 人	104 人
6/30	「第 1 回 感染対策研修」 2 班 食中毒の予防について	食中毒の原因菌を知り、 予防に努める	久木田 智之先生 (大隅地域振興局 食品衛生係長)	210 人	83 人
7/5	「第 5 回 院内学術研究発表会」	各職能の取り組みを知 り、情報の共有・理解を 図り業務の還元につなげる	演者 7 名 (豊重・山中・永田・ 木場・児玉・堀口・ 原田)	255 人	102 人
7/9	「第 5 回 院内学術研究発表会」	同上	演者 6 名 (前原・上 京・脇岡・西川・ 川崎・吐合)	198 人	71 人
12/6	「第 2 回 医療安全研修」 ①セーフティマネジメント ② KYT 危機予知トレーニング	医療現場である様々な 危険を予知する事で、医 療ミスを回避し安全を整 える認識を改めて学び共 有する	①高橋 新平先生 (テルモ株式会社) ②富重 和美先生 (テルモ株式会社 学術チーム)	263 人	103 人
2/28	「第 2 回 感染対策研修」 ～みんなで取り組む感染対策～	他院の感染対策への専 門的で具体的行動を通し て、感染対策の実践を学 ぶ	濱田 亜弥先生 (鹿児島医師会病院 感染管理認定看護師)	288 人	129 人

2. 医療法人恒心会 接遇研修

テーマ「患者様に支持される病院を目指して」

主 催：医療法人恒心会

開催場所：小倉記念病院研修ホール

講 師：福岡かつよ先生

(ラ・ポール株式会社)

医療法人恒心会は今年度より接遇マナー講師として福岡かつよ先生を招き、接遇研修会を開始した。接遇研修会はグループで話し合いその後発表するなどワーク形式の中で自分の立場を再認識し、恒心会が目指す接遇（マナー）を全員で考え構築していくことを目標としている。

研修会では表情、挨拶、態度、身だしなみ、言葉遣いという社会人としての基本を学んだ。月に2回先生に現場にも入ってもらい、普段職員が気づかない点も指導を受け、接遇の向上を目指した。



研修

開催日	内 容	当院 参加者数	恒心会 参加者数
7/23	第1回 患者様に支持される病院を目指して（恒心会全体）	3名	264名
8/19	第2回 接遇マナーについて（医事課・記念病院外来対象）	3名	28名
9/27	第3回 接遇マナーについて（医事課・記念病院外来対象）	3名	71名
10/27	第4回 あいさつ・お辞儀について（恒心会全体）	12名	72名
11/10	第5回 患者様行動を知る（恒心会全体）	10名	63名
12/15	第6回 身だしなみについて（恒心会全体）	7名	66名
1/12	第7回 言葉遣いについて（恒心会全体）	15名	64名
2/16	第8回 言葉遣いについて（恒心会全体）	14名	69名

1. 見学・体験等受け入れ状況

日付	名称	受入れ部署	参加者	内容	人数
5/15	ふれあい看護	おぐらリハビリ テーション病院	東原小学校 2 名 野里小学校 3 名 大始良中学校 1 名	看護体験 (看護協会協賛)	6 名
5/17 ～ 21	職場体験		鹿屋東中学校	看護・介護	6 名
5/18 ～ 20			高隈中学校	看護・介護	2 名
5/20・21			田崎中学校	看護・介護	4 名
5/20・21	職場・福祉体験	サポートセン ターおぐら 24	田崎中学校 3 年生	福祉体験学習	6 名
7/10	ふれあい看護	おぐらリハビリ テーション病院	笠之原小学校 2 名 田崎中学校 2 名 鹿屋東中学校 1 名 志布志 高校 2 名	看護体験 (看護協会協賛)	7 名
10/5 ～ 7	職場・福祉体験	イーストサイド おぐら	吾平中学校 3 年生	職場体験学習	3 名
10/5 ～ 8	職場体験	おぐらリハビリ テーション病院	吾平中学校	看護・介護	4 名
10/21・22			鹿屋東中学校	看護・介護	12 名
11/15 ～ 19			第一鹿屋中学校	看護・介護	3 名
1/31 ～ 2/4			鹿屋女子高等学校	看護・介護	6 名
2/15			寿北小学校	看護・介護	6 名
2/15	職場・福祉体験	イーストサイド おぐら	寿北小学校 6 年生	職場体験学習	6 名

介護基礎研修

期間	受け入れ部署	参加者
10～11月	通所リハビリテーション イーストサイドおぐら サポートセンターおぐら 24	30 名

2. ボランティアの皆さんのご紹介

日付	受け入れ部署	参加者・参加団体	内容	参加数
通年	おぐらリハビリテーション病院 売店	新宅 美智子様 松田 恵美子様	オイルによるハンドマッサージ及びネイルケア	2 名
6/21	サポートセンターおぐら 24	職員友人紹介	大正琴演奏	9 名
7/24		ミルキーランド及び利用者ご家族	三味線演奏・演舞・お遊戯	20 名
8/16・17 19・20	おぐらリハビリテーション病院	鹿屋看護学校	看護・介護	1 名
8/23・24		鹿屋看護学校	看護・介護	1 名
11/23	イーストサイドおぐら	利用者ご家族	三味線演奏・踊り	2 名
12/6		職員ご家族	そば作り	3 名
3/20	イーストサイドおぐら	コペ・オハナ	フラダンス披露	2 名

3. 肝属圏地域リハビリテーション広域支援センター活動報告

当院は、平成 16 年度より鹿児島県から肝属圏地域リハビリテーション広域支援センターとして指定され、本年度は脳血管疾患等分野の更新に加え、新たに整形疾患等分野の新規指定も受けました。整形疾患分野の活動として、どのような事をしていけばよいか、まだ手探り状態であるが、指定期間の平成 25 年 3 月までの 3 年間を通じて少しでも地域に根差した広域支援センターとして活動をしていきたい。

大隅半島の大半の地域が、この肝属圏域にあたり、高齢化や在宅生活においてのマンパワー不足など、この圏域の抱える問題は、多いと思われる。当院でも、入院患者の在宅調整が、年々難しくなっている印象である。この圏域の医療機関、施設の共通の問題として、少しでも問題解決できるように、多くの方に情報提供できるような企画をしていく必要があると考える。

以下に平成 22 年度の活動内容を紹介する。

1. 活動内容

①技術支援

市町村・リハビリ実施施設等への技術支援		
理学療法士	26 人日 / 年	鹿屋市 B 型機能訓練事業所
作業療法士	10 人日 / 年	新樹学園、和光学園
その他職種	10 人日 / 年	新樹学園、和光学園

②相談窓口

	電話相談	来所相談
市町村	なし	1 件 (小児療育ネットワーク相談)
施設	2 件 (通所リハのリハ相談、訪問リハ紹介)	1 件 (施設内でのリハの仕方)
医療機関	5 件 訪問リハ相談、小児リハの受け入れ	1 件 (訪問リハの受け入れ)
一般住民	5 件 (リハビリ内容について、発達相談、家 屋改修)	15 件 (介護保険申請、福祉サービス手帳申請方法、就学相談、 リハビリ相談、身障手帳で車椅子装具申請の仕方、学生施設見学)

③技術支援

	医師	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士
市町村	1 人日	24 人日		
施設	鹿屋市 B 型機能訓練事業、講演依頼			
医療機関	なし		9 人日	4 人日
その他			2 人日	
	発達障害児についての講演			

④上記以外に独自に行った活動実績

- ◎鹿児島県回復期リハ病棟情報交換会 (H22. 4.11 自治会館 220 名)
- ◎職場体験受け入れ (10 回) : 小学生 12 名, 中学生 36 名, 高校生 6 名
- ◎ふれあい看護体験 (2 回実施) : 小学生 7 名 中学生 4 高校生 2 名
- ◎ボランティアの受け入れ 47 名
- ◎家族勉強会 : 年 10 回
毎回 30 ~ 50 名程度の一般 (介護者, 患者) の参加者
- ◎就学相談会 : 8 月 鹿児島大学教育学部 教授 内田 芳夫先生
参加者 8 名



介護技術教室 (H22.11.27 開催)
「自宅で出来る機能訓練について」

◎リハビリ専門学校等の実習生の受け入れ

◎鹿屋市肝属地区の脳卒中を考える会 H22.4.22

講演 久松 憲明

◎第3回鹿屋肝属地区の脳卒中の現状を語る会 H22.11.30

講演 久松 憲明

◎第4回鹿屋肝属地区の脳卒中の現状を語る会 H23.2.22

講演 久松 憲明



2. 研修会

第1回目

日 時：H22 年 12 月 10 日

場 所：医療法人恒心会 小倉記念病院研修ホール

テ ー マ：「高次脳機能障害のリハビリテーション」

講 師：神村学園専修学校

作業療法学科 学科長 渡 裕一先生

対 象：医療機関従事者、福祉機関従事者、市町担当者

参加者数：120 名



第2回目

日 時：H23 年 3 月 23 日

場 所：医療法人恒心会
小倉記念病院研修ホール



〈第一部〉講演会



テ ー マ：「回復期リハビリテーションの現状とこれからの
地域リハビリテーションに期待されるもの」

講 師：医療法人共和会

小倉リハビリテーション病院（北九州市）

院長 浜村明德先生

対 象：医療機関従事者、福祉機関従事者、市町担当者

参加者数：120 名

〈第二部〉パネルディスカッション



～介護支援専門員協議会肝属支部との共同企画～

テ ー マ：「病院側スタッフと

ケアマネージャーとの連携を模索して」

パネリスト：大隅地区のソーシャルワーカー

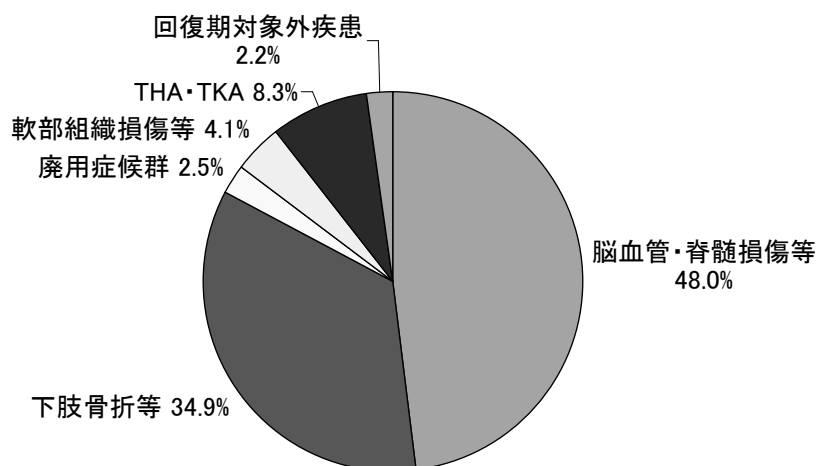
対 象：医療機関従事者、福祉機関従事者、市町担当者

参加者数：170 名

1. 入退院の状況

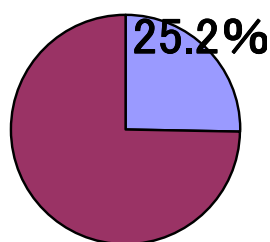
	単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
外来患者数	人	980	931	1,120	1,129	1,200	1,193	1,114	1,113	1,238	1,133	1,091	1,244
1日平均外来数	人	39.2	40.4	43.0	43.4	44.4	49.7	44.5	46.3	49.5	49.2	47.4	47.8
入院数	人	41	37	45	48	40	49	43	46	44	40	39	43
退院数	人	37	36	55	41	44	50	41	44	49	33	41	47
入院患者数	人	2,902	3,025	2,860	2,914	3,009	2,882	2,909	2,867	2,971	2,918	2,730	2,982
ベッド稼働率	%	96.7	97.6	95.3	94.0	97.1	96.1	93.8	95.6	95.8	94.1	97.5	96.2
当月在院日数	日	74.4	82.8	57.2	65.5	71.6	58.2	69.2	63.7	63.8	79.9	68.2	66.2
死亡者数	人	1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0

2. 疾患別入院患者構成比率（調査対象 515 人）

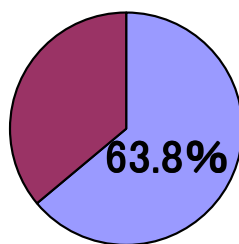


3. 回復期リハビリテーション病棟に於ける診療報酬上の質の評価

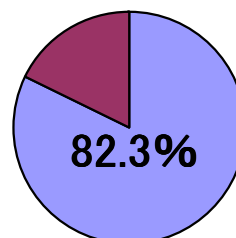
①重症患者受け入れ比率 (日常生活機能評価 10 点以上)



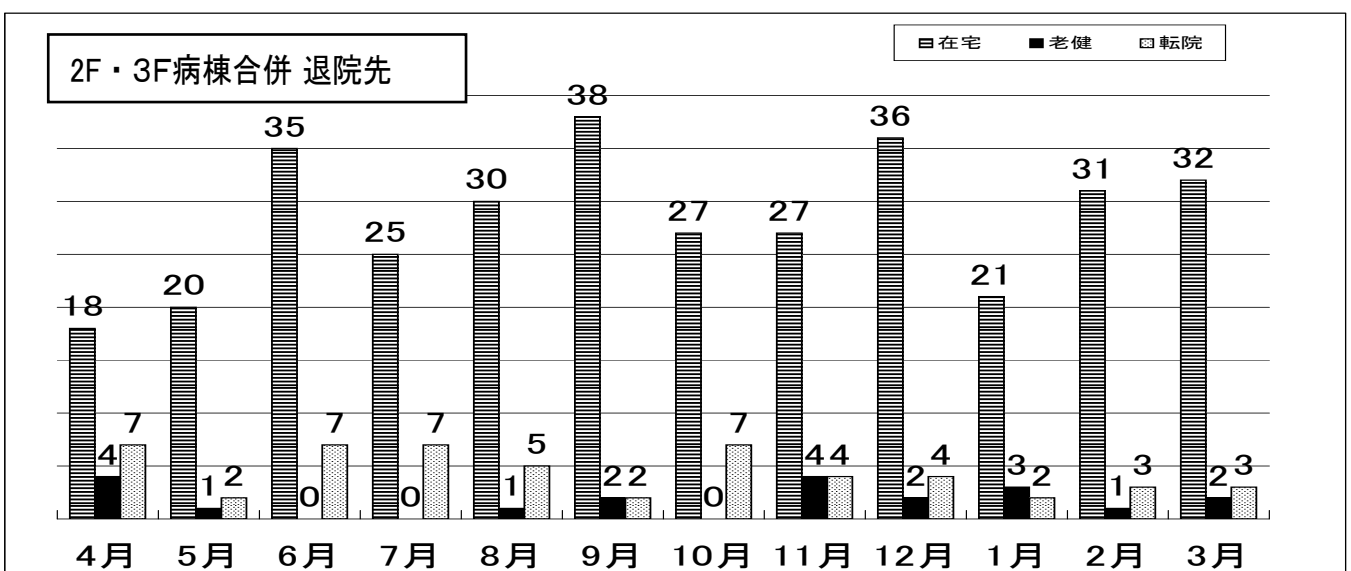
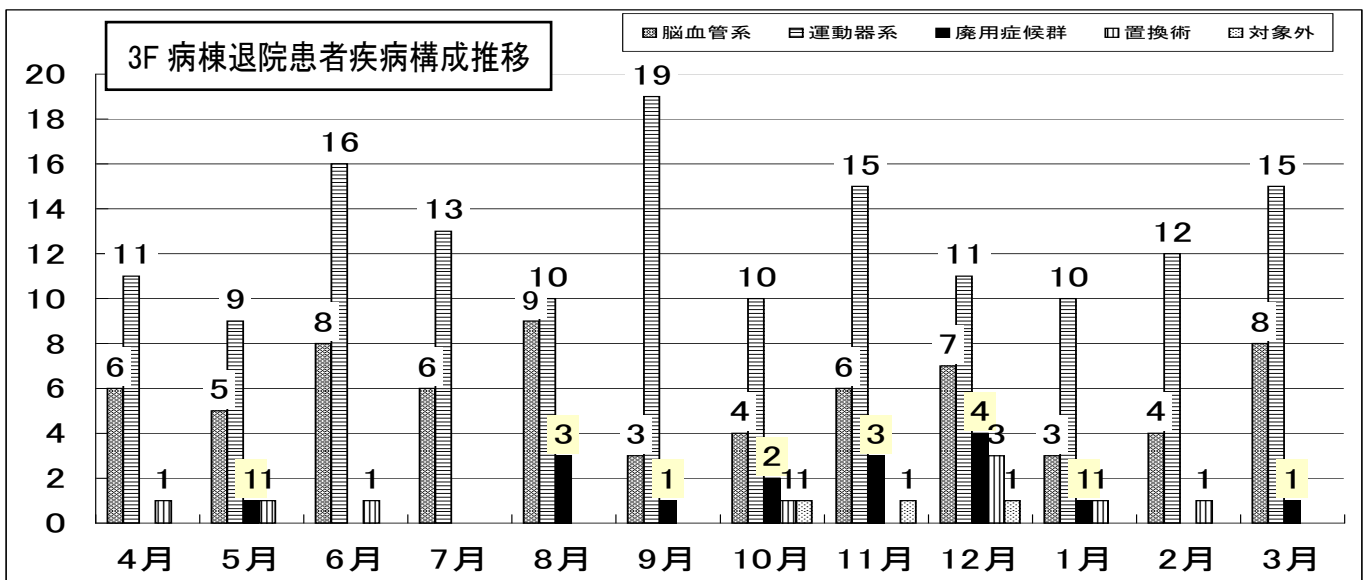
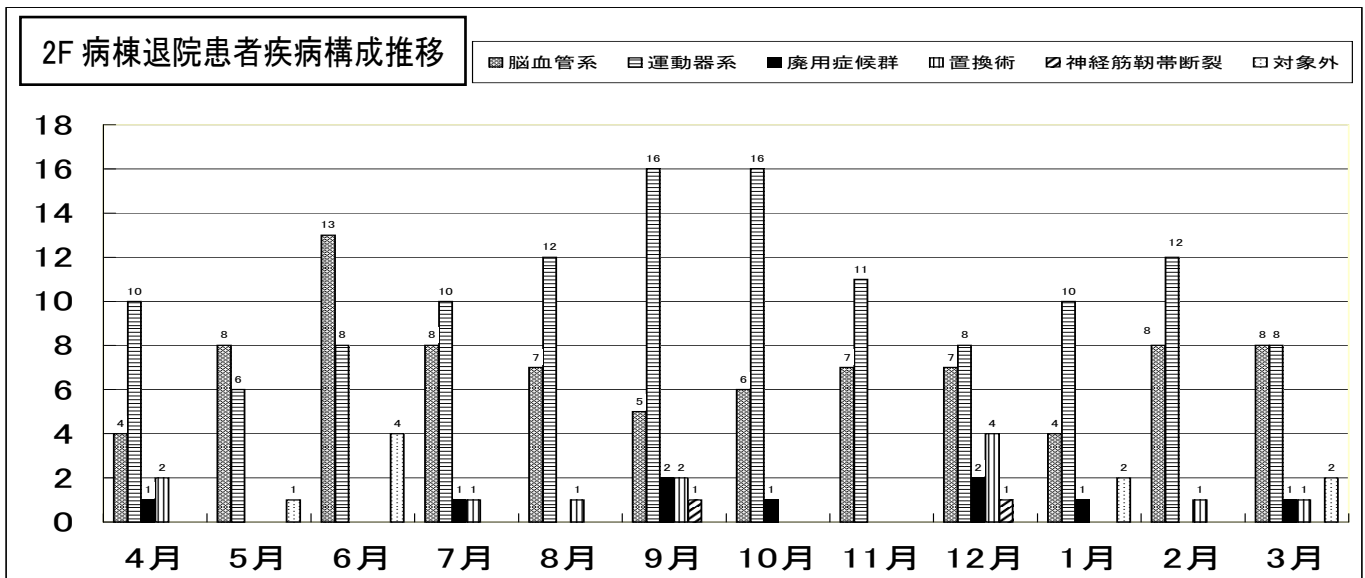
②重症患者改善比率 (日常生活機能評価 10 点以上 患者 3 点以上改善)



③在宅復帰率



4. 退院患者疾病構成推移



5. 入退院時の FIM の変化

FIMとは、機能的自立度評価表（Functional Independence Measure）の略で、1983年にGrangerらによって開発されたADL評価法のことである。特に介護負担度の評価が可能であり、数あるADL評価法の中でも、最も信頼性と妥当性があると言われ、リハビリの分野などで幅広く活用されている。

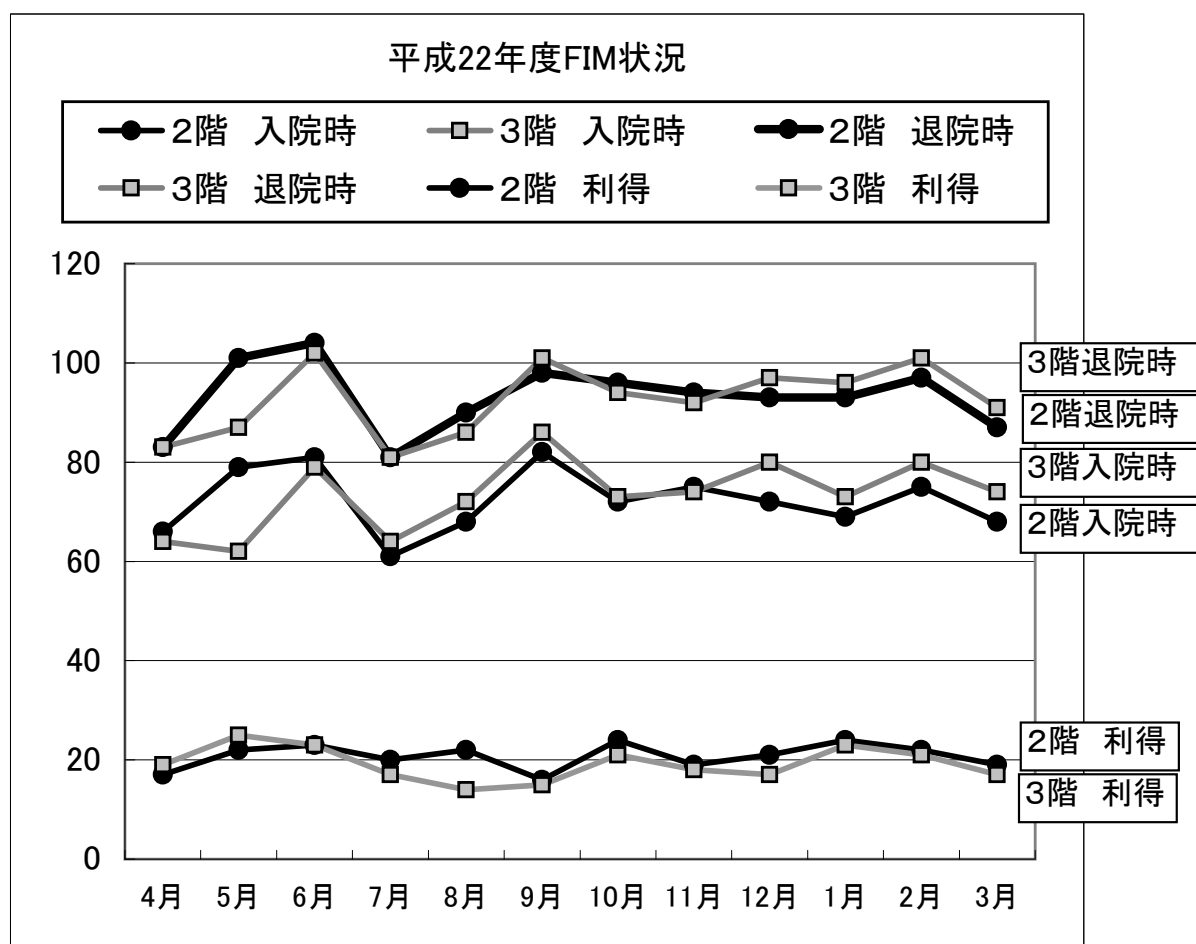
具体的には、食事や移動などの“運動ADL”13項目と“認知ADL”5項目から構成され、1点が介護時間1.6分と設定されている。

※平成22年度（全患者対象）

FIM 状況（22年4月～23年3月）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2階 入院時	66	79	81	61	68	82	72	75	72	69	75	68
3階 入院時	64	62	79	64	72	86	73	74	80	73	80	74
2階 退院時	83	101	104	81	90	98	96	94	93	93	97	87
3階 退院時	83	87	102	81	86	101	94	92	97	96	101	91
2階 利得	17	22	23	20	22	16	24	19	21	24	22	19
3階 利得	19	25	23	17	14	15	21	18	17	23	21	17

FIM 利得＝入退院時の FIM 点数の差



1. 投書箱

当院では病院を利用された方のご意見・ご感想・ご提案等を入れていただく投書箱を設置している。投書の内容は定期的に確認し、一つ一つ改善を行っている。現状では設備・予算の関係上困難なこともありすべて対処できている状況ではないが、医療の質の向上と患者サービスの向上を目標に職員一同取り組んでいかなければならない。引き続き投書箱の活用を推進していく予定である。

外来のソファの汚れが気になります。
(平成22年4月5日)

▼
クリーニングいたしました。
(平成22年4月10日)

受付の時、カウンターに杖を立てかけると倒れて困ることがあります。
(平成22年9月9日)

▼
早速、杖をかける器具を取り付けました。また使用感等、お聞かせ下さい。
(平成22年9月10日)

椅子の配置がよくなりました。色んな場所に花が飾っており、ロビーが明るいです。投書の意見が貼っており、色んな点に気付くことが出来るので良いと思います。
(平成22年5月5日)

リハビリ室前の男性用トイレのカーテンが開けにくいです。
(平成22年10月20日)

▼
出入りしやすいよう、カーテンの端を固定しました。
(平成22年10月23日)

夜中、携帯電話を遅くまで使っていて電話の声や明かりが気になって眠れなかったので、携帯電話のマナーについて考えてほしいです。
(平成22年6月2日)

▼
大変申し訳ありませんでした。今まで以上に、患者さん方へ入院中のマナーについてご理解とご協力をお願いしていきたいです。
(平成22年6月8日)

女子トイレのオートハンドソープが最近入っていません。
(平成22年11月19日)

▼
器具の不具合で石けん液が出なかったようです。至急、直しました。
(平成22年11月19日)

このあいだ絵本を増やしてくださいとお願いしたのですがありがとうございます。6月はじめの土よう日にびょういん内のしゃしんをケータイでとらせてもらってお友だちに見せたらすごく大こうひょうでした。そこでおねがいです。もっとお花や絵をふやしてくれたいいいなあと思っています。おねがいできませんか？
(平成22年7月9日)

▼
できるだけふやしていけるように けんとうさせていただきますね。
(平成22年7月9日)

受付に杖置きをつけていただきましたが、硬くて、また、片手では使いづらいです。
(平成22年12月8日)

▼
使いやすいように改善してみました。また、使用感等教えて下さい。
(平成22年12月10日)

有線放送が流れていたら、受付やリハビリ室での待ち時間が少しでも短く感じられると思います。他の病院で取り入れられていて良いと思うのですが、こちらでも導入をご検討いただけないでしょうか？
(平成22年8月8日)

▼
まずは病棟で試験的に導入してみたいと思います。
(平成22年8月8日)

病棟の患者さん用トイレに手を拭く紙を置いて欲しい。
(平成23年1月17日)

▼
検討いただきましたが、今まで通り病棟ではご持参のタオルをお使いいただきますよう御願ひ致します。
(平成22年1月17日)

玄関の絵が、前に置いてある観葉植物で見えなくなるのが残念です。
(平成23年2月1日)

▼
早速、絵画の前の観葉植物を背の低いものに変えてみました。いかがでしょうか？
(平成23年2月3日)

2. 職員満足度調査

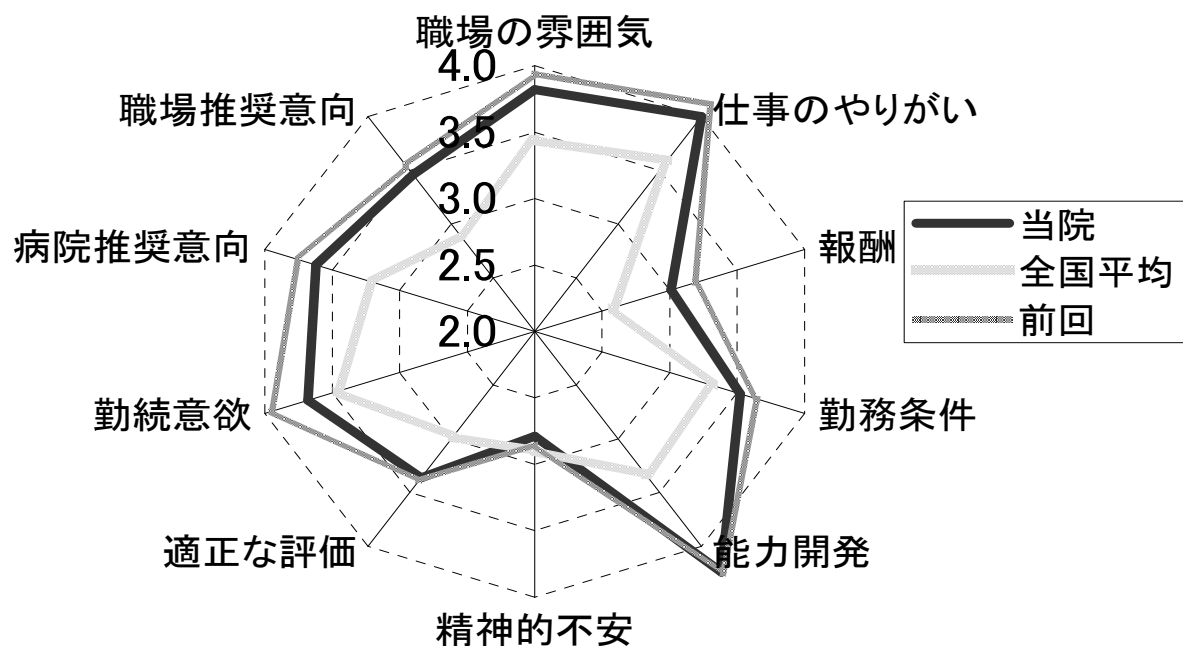
当院では、職員が笑顔でやりがいをもって働ける職場作りを目標として様々な取り組みを行っています。職場に対する満足度を測定することで現状を認識・分析し、新たに取り組むべき課題を見つけるために昨年度より職員満足度調査を開始しました。調査の客観性を保持するために外部の調査機関（株式会社ケアレビュー）に依頼しています。

総合的な評価としては、昨年に引き続きほとんどの項目が全国平均を上回っていましたが、「精神的な不安」が平均を下回ったことと前回と比較し各項目とも満足度はやや低下したという結果でした。今後はこれらの問題点を分析し、新たな課題として取り組んでまいります。

番 号	設 問	当 院	全国平均	平均化	前 回
Q1	職場の雰囲気や人間関係は良好ですか？	3.82	3.44	0.37	3.94
Q2	今の仕事にやりがいを感じていますか？	4.00	3.59	0.41	4.11
Q3	現在の報酬や福利厚生に満足していますか？	3.01	2.59	0.43	3.19
Q4	現在の勤務条件（日数・時間帯）に満足していますか？	3.52	3.32	0.20	3.65
Q5	学習や成長の機会が十分にあると感じていますか？	4.24	3.33	0.92	4.25
Q6	仕事の上で精神的な不安を感じていませんか？	2.79	2.90	-0.11	2.85
Q7	仕事の成果が適正に評価されていると思いますか？	3.36	2.98	0.39	3.39
Q8	これからも、この病院で働きたいと思いますか？	3.68	3.46	0.21	3.95
Q9	病院として、家族や知人にすすめようと思いますか？	3.62	3.20	0.41	3.75
Q10	職場として、友人にすすめようと思いますか？	3.46	2.90	0.56	3.54

総合評価

「精神的な不安」はやや平均を下回りますが、他の項目はすべて平均を上回り、職員満足度は良好な水準にあります。前回に比べて各項目とも満足度はやや低下しました。



3. おぐりハ掲示板コンクール（H22 年度第 2 回目）

院内アメニティの充実と患者さんへの有益な情報発信を目的として、掲示板コンクールを行ってる。所属長の投票により最優秀賞と優秀賞を決定し、全体ミーティングの際に表彰してる。



最優秀賞

薬剤管理科

薬の飲み方についての内容です。
分包の方法を実際に示してあり、とても分かりやすく、イラストも親しみやすく好感がもてた。



優秀賞

サポートセンターおぐら 24

季節感が取り入れられていて、楽しい雰囲気
が伝わる内容。様々な情報が分かりやすく
まとめられていた。



優秀賞

リハビリテーション科

患者が制作した作品紹介、家族勉強会、学
会報告、鹿屋市バリアフリー探検、自動具紹
介などをそれぞれの担当者によって分かりや
すく掲示していた。

4. 開院 10 周年記念 霧島感謝旅行

当院は平成 11 年 11 月に開院以来、大隅地区唯一のリハビリテーションの専門病院として活動をしてまいりました。平成 21 年 11 月をもちまして 10 周年の節目を迎えることが出来、日頃ご支援いただいていた方々に 10 周年の感謝の気持ちを何らかの形として表したいと考え、「安心・安全な旅行。主体性を引き出し、自信につなげる」をテーマに、感謝旅行を企画いたしました。旅行準備委員のスタッフと約 1 年かけて準備をし、当院ご利用の患者さん、ご家族、スタッフと総勢 60 名で 1 泊 2 日の霧島バス旅行を行いました。

目的地：霧島温泉地

日 付：平成 22 年 10 月 16 日（土）～ 10 月 17 日（日）

参加人数：60 名（ご利用者 23 名、ご家族 13 名、スタッフ 24 名）

【1 日目】 患者さん方を大浴場に案内しての入浴介助、それが終わると大広間を貸し切った大宴会。名司会者の進行のもと、患者さんからの乾杯のご発声、カラオケ、古希、米寿の方々への似顔絵プレゼント、響心太鼓などアルコールも少々入りながら、笑いあり涙ありと大変な盛り上がりでした。

【2 日目】 霧島神宮にて参拝、昼食は霧島市のホテル京セラでのランチビュッフェ、担当スタッフが患者さんお一人お一人にお付きし、好みの料理をお取りして一緒に食べました。



▲参加者の皆さん全員集合（宴会場にて）

▼チームメンバーとボランティアスタッフ（職員）



10 周年感謝旅行チームメンバー

リーダー：山邊 加奈（医事課）
サブリーダー：岩元 啓祐（通所リハ）
準備委員：牧 芳弘・馬渡 譲（事務局）
川路 大輔・谷口真美（通所リハ）
福永 和人（サポートセンターおぐら 24）
野元 佳子・久松 憲明（医局）

ボランティアスタッフ

坂元 理沙（医事課） 曾木 千利（通所リハビリ）
古園 光代 中村 レイ子（2 階病棟）
山崎 厚子 小脇 友美 小牧 寿 中窪 恵美子（3 階病棟）
了徳寺 孝文 去川 厚彦 大山 育代（リハビリテーション科）
門松 久美子 金丸 和人（サポートセンターおぐら 24）
本白水 忍（イーストサイドおぐら）小園 みちよ（小倉記念病院手術室）

5、院内アルバム



▲新入職者全員集合



▲回復期リハ病棟情報交換会の受付



▲忘年会の出し物（ライオンキング）



▲フラダンスを披露しました（ワークショップ）



▲ワークショップ発表会



▲ウェルカムボードでお客様をお迎えしました



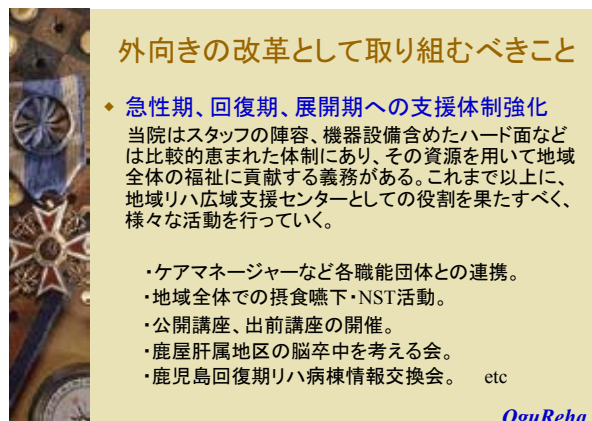
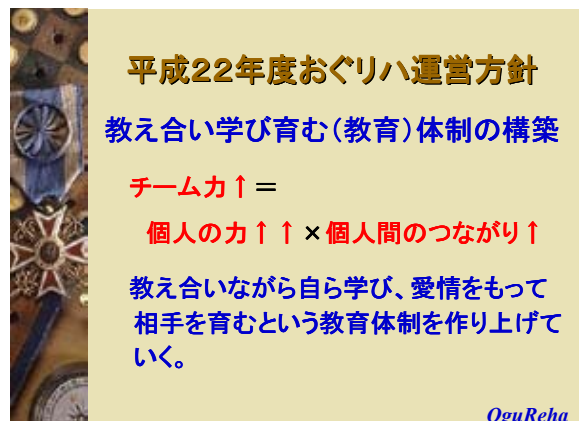
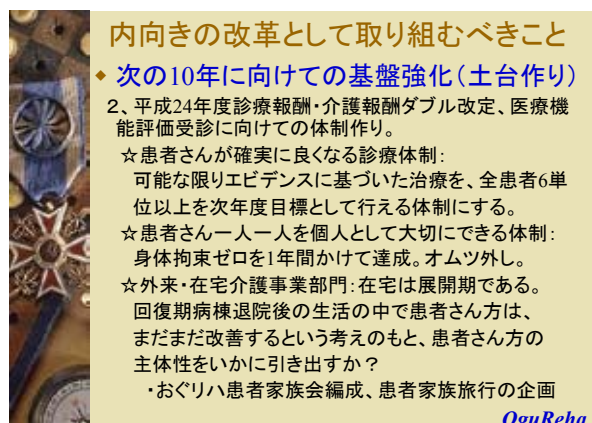
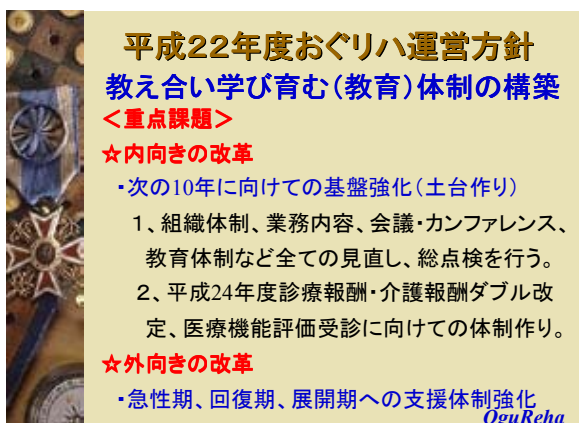
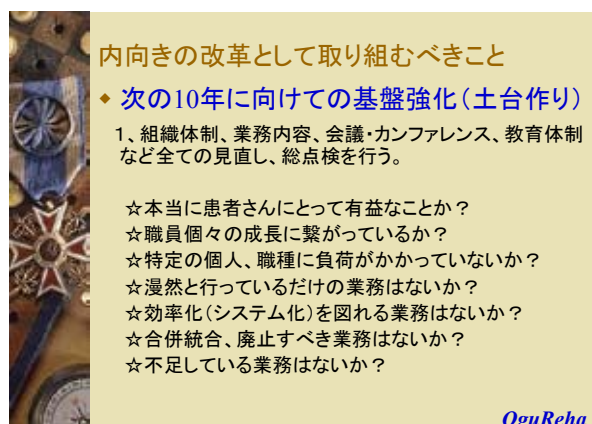
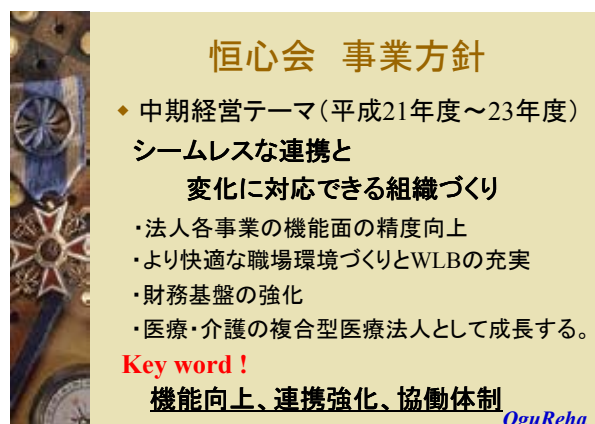
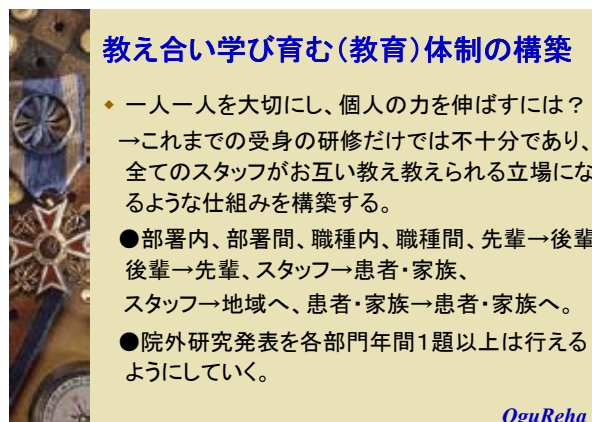
▲ある日のナースステーション



▲春風景

6. 病院運営方針（院長発表）

平成22年度の運営方針は「教え合い学び育む（教育）体制の構築」を大きなテーマとして掲げた。活動内容は発表のスライド以外にも各部署毎の行動計画がBSCに沿って作成され、職員個々のレベルにまで落とし込んでいくという作業にも取り組んでる。



7. 平成 22 年度 年間行事

開催日	行事内容
4/1 ～ 3	平成 22 年度 新入職者オリエンテーション
4/17	第 2 回 鹿児島回復期リハビリ病棟情報交換会（鹿児島県市町村自治会館にて）
4/15	「NST 研修」 NST と栄養管理 講師：森田 優子先生（テルモ株式会社）
4/26	恒心会全体会議 事業方針発表
5/8	恒心会 新入職者歓迎会（さつき苑）
5/15	ふれあい看護体験
5/31	恒心会全体会議
6/5	「第 1 回 医療安全研修」 胃ろう造設患者の管理について 講師：小倉 芳人先生（独立行政法人 南九州病院外科部長）
6/10	第 1 回 ワークショップ（平成 22 年度活動方針報告会）
6/21	「第 1 回 感染対策研修」 1 班 食中毒の予防について 講師：久木田 智之先生（大隅地域振興局 食品衛生係長）
6/26	「F i s h 哲学研修」 魅力ある職場作り 講師：大水 美名子先生
6/30	「第 1 回 感染対策研修」 2 班 食中毒の予防について 講師：久木田 智之先生（大隅地域振興局 食品衛生係長）
7/5	第 5 回 院内学術発表会 第 1 部 7 演題発表
7/9	第 5 回 院内学術発表会 第 2 部 6 演題発表
7/10	ふれあい看護体験
7/23	「接遇研修」 患者様に指示される病院を目指して 講師：福岡 かつよ先生（ラ・ポール株式会社）
8/7	おぐらリハビリテーション病院 防火・防災訓練
8/16	おぐらリハビリテーション病院 全体ミーティング
8/21	恒心会 大バーベキュー大会（第 2 駐車場）
10/2	地域密着事業 敬老会
10/16 ～ 17	開院 10 周年記念感謝旅行（霧島）
11/1	おぐらリハビリテーション病院 全体ミーティング
11/7	院内保育室 ミルキーランド運動会（リナシティかのや）
11/19	第 2 回 ワークショップ（平成 22 年度活動中間報告会）
12/4	おぐらリハビリテーション病院 消火・設備等の取り扱い説明、消火訓練
12/6	「第 2 回 医療安全研修」 ①セーフティマネジメント 講師：高橋 新平先生（テルモ株式会社） ②K Y T 危機予知トレーニング 講師：富重 和美先生（テルモ株式会社 学術チーム）
12/10	平成 22 年度 第 1 回地域リハビリテーション研修会 高次脳機能障害のリハビリテーション 講師：渡 裕一先生（神村学園医療福祉専門学校 作業療法科 学科長）
12/22	恒心会 大忘年会（ホテルさつき苑）
12/29	恒心会全体会議
12/30	仕事納め
1/4	仕事始め
2/28	「第 2 回 感染対策研修」 みんなで取り組む感染対策 講師：濱田 亜弥先生（鹿児島医師会病院 感染管理認定看護師）
3/19	平成 22 年度 第 2 回地域リハビリテーション研修会 第 1 部：回復期リハビリの現状とこれからの地域リハビリに期待されるもの 講師：浜村 明德先生（北九州市 小倉リハビリテーション病院 院長） 第 2 部：病院側スタッフとケアマネージャーとの連携を模索して パネリスト：大隅地区のソーシャルワーカー、ケアマネージャー
3/25	第 3 回 ワークショップ（平成 22 年度活動最終報告会）

活動報告書 2010 年度(平成 22 年度)

発行者 医療法人恒心会 おぐらリハビリテーション病院

発行日 平成 23 年 8 月

編集者 おぐらリハビリテーション病院 事務室
有限会社よしのんヘルスア

印 刷 西文社印刷

所在地 鹿児島県鹿屋市笠之原町 27 番 22 号

電 話 0 9 9 4 (3 1) 1 2 1 8

F A X 0 9 9 4 (3 1) 1 2 8 8



グループホーム
「イーストサイドおぐら」



小規模多機能ホーム
「サポートセンターおぐら24」



おぐらリハビリテーション病院



グループホーム
「イーストサイドおぐら式番館」



鹿児島県鹿屋市 医療法人恒心会